

ISSN 1340-461X

附属天王寺中・高

研究集録

第55集 (平成24年度)

*Bulletin of the
Tennoji Junior & Senior High School
Attached to Osaka Kyoiku University
No.55
(March,2013)*

大阪教育大学附属天王寺中学校
大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

研究集録 執筆規定

1. 本誌は、研究集録という。
本誌の英語名は、Bulletin of the Tennoji Junior & Senior High School Attached to Osaka Kyoiku Universityとする。
2. 本誌の執筆資格者は、附属天王寺中学校、および附属高等学校天王寺校舎の現役教員を原則とする。
3. 本誌は年刊とする。発行は毎年3月とし、執筆者には50部の別刷を提供する。
4. 本誌の原稿締切は毎年1月中旬とする。
5. 本誌の原稿は、40字×40行詰めとし、横書きのみとする。
英文論文の場合は、70字～80字×40行とする。第一頁は16行目から本文を書き始める。論文は25頁以内とする。
和文表題・執筆者→抄録→キーワードの順に書き、その後本文をはじめる。
和文論文の場合は、最終頁の次頁に、英文表題・執筆者・英文要約（さらにキーワードを付加してもよい）をつけることを原則とする（英文論文の場合は、和文表題・執筆者・和文要旨をつける）。
6. 本誌の内容は、まえがき・目次・論文・教科個人研究テーマ一覧・あとがきにより構成される。

まえがき

「リテラシー教育」が大切だと言われるようになって数年経ちます。「リテラシー」とは、「与えられた材料から必要な情報を引き出し活用する能力」と捉えられていて、大変重要な能力とされていますが、その取り組みの意味を改めて考えてみたいと思います。

私は、一昨年度から昨年度にかけ、所属している学会で大学生の数学能力調査をする機会に恵まれました。特に平均値の意味を問う問題の正答率の低さが昨年2月末にテレビや新聞で大きく報道されましたが、この調査で知りたかったことの一つは、大学生が平均値の意味をどう捉えているかです。多くの大学生は学習した通りに平均値を求めることができますが、平均値からどのような情報が得られるのかについてはあまり考えていないように思われます。

最近、発達した情報機器が平均値はもちろんのこと、単語の意味や高度な数式の処理結果も瞬時に示してくれます。今の生徒たちが世の中に出る頃には、さらに進んだ世界が広がっているでしょう。そのような状況の中で、人間がすべき仕事に必要な能力とは何でしょう。それは、知識を多く持っていることや、情報処理能力の速さではありません。正に「リテラシー」なのです。そのために欧米では、様々な授業で、例えば、2カ所以上からの情報を比較させ、さらに得た事柄が事実なのか誰かの意見なのかを識別させ、それをまとめたものを発信させる教育を行っています。その様子を聞くと、リテラシー教育は特別でハードルが高いと思うかも知れませんが、知識の獲得・統合・整理が中心と思われる日本の教育でも、リテラシーの視点が加えられた授業は無意識的に行われているのではないのでしょうか。リテラシーという視点を意識し授業を見直すことは、案外簡単で面白い作業であり、新たな発見にも繋がるものと思います。

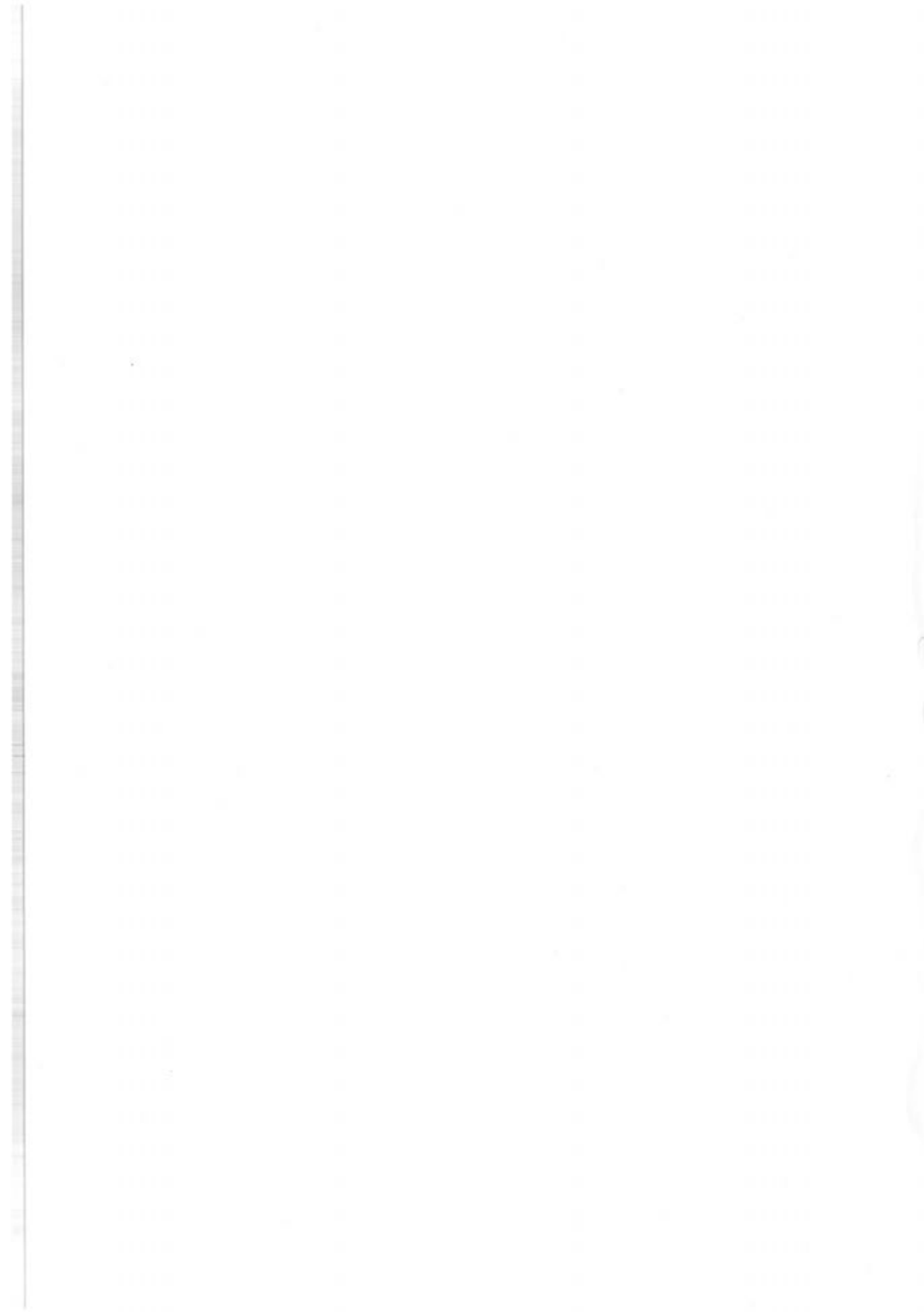
今こそ言語活動に重点をおく新指導要領のもとでリテラシー教育にチャレンジするチャンスです。リテラシー教育が一人一人の生活を活力あるものにし、日本の将来を支えてくれるものと信じています。

大阪教育大学

附属高等学校天王寺校舎主任

附属天王寺中学校長

宇野 勝博



目次 (Contents)

金井 友厚 (KANAI Tomoatsu)

「天王寺 学びのもり」の取り組みについて —「学びのもり」の効果的な活用に向けて—
(On Various Activities in "Tennoji Manabi-no-mori"
—For effective use of Manabi-no-mori facility—)

..... 1

山根 雅子 (YAMANE Masako)

iPad を活用したメディアリテラシー教育の実践 —ニュース番組の編集を通して—
(Practice of the Media Literacy Education Using iPad
—Through editing the news program—)

..... 27

射手矢 明 (ITEYA Akira)

時代が見える歴史授業の構築 — 事件と思いでつながる古代の日本 —
(An Approach to the Teaching of History which enables Students to see the Times
— Ancient Japan seen from the linking of the events with the thinking, feeling,
and believing of the time —)

..... 43

川地 秀治 (KAWACHI Shuji)

人口減少社会を学ぶ公民の授業 —量から質への転換—
(The lesson which studies a society of decreasing population
—Conversion in quality from quantity—)

..... 51

笹川 裕史 (SASAGAWA Hiroshi)

名言までは1マイル —キャッチフレーズで始まる授業(2)—
(A Long Way to Cool Catchphrases in Class of World-History
:Lessons Full of Attractive and Useful Catchphrases(2))

..... 69

吉村 昇 (YOSHIMURA Noboru)

小学校算数科における活用教材の一考察
(A Study of Arithmetic Application Materials for Elementary Students)

..... 93

久留飛 航平 (KURUBI Kohei)

天文分野への一年を通じたアプローチ

(One-Year Approach to the Astronomical Field)

..... 105

伊藤 洋一 (ITO Yoichi)

英語教材再生術 ー文化伝達者としての英語教師ー

(Recycling of teaching materials)

..... 117

「天王寺 学びのもり」の取り組みについて

—「学びのもり」の効果的な活用に向けて—

かな い とも あつ
金 井 友 厚

抄録：平成18年11月に本校は創立中学校60周年・高校50周年を迎え、記念式典ならびに記念事業を実施した。その一つの事業として、「学びのもり」が平成20年10月に完成し、お披露目を開催した。平成21年9月に「学びのもり」準備委員会を皮切りに「学びのもり委員会」が発足し、本格的に「学びのもり」の活動が始まった。本稿では、この「学びのもり」の完成とその活動組織編成に至る経緯と実際の活動報告を行う。

キーワード：「学びのもり」の構想、管理、活用、道草館、生徒・保護者・学校の協働

I. はじめに

1. 「天王寺 学びのもり」構想について

「天王寺 学びのもり」構想を語る上で、国立大学の法人化、天附連（大阪教育大学附属天王寺中高支援連合会の略称）、附属天王寺中高の周年事業それぞれの存在を欠かすことができない。平成16年4月に国立大学が法人化されたことにより、大阪教育大学も他大学に漏れず、大学としての明確なビジョンを持ち、個性を主張した教育と柔軟な経営手法を取り入れた大学運営が求められるようになった。また、附属学校に対しても、大学及び文部科学省からその存在意義を強く求められるようになった。平成21年3月26日付けで、文科省は附属の存在意義をより確かなものにするために、「国の拠点校になること」「地域のモデル校になること」という2つの指針を出した。そして、以前以上に大学の附属として「教育実習」「教育研究」において大学と連携を深めることが求められるようになった。

また、天附連の発足には国立大学の法人化と附属天王寺中高の周年事業が大いに関係していたのである。つまり、天附連には大学の法人化に伴い、大阪教育大学の11校の附属学校園再編方針に備え、附属天王寺中高の教育を支援するだけでなく、将来に向けて益々の発展を図るため、強力な支援団体設立の必要性が学校より要請された。そして、準備期間を経て平成16年12月に結成されたのである。天附連は中学校PTA、高校PTA、中高教育後援会、青松同窓会、財団法人青松会（現・一般財団法人青松会）の5つの団体で組織された。そして、平成18年度の大阪教育大学附属天王寺中学校創立60周年、同附属高等学校天王寺校舎創立50周年の記念事業をハード面、ソフト面の両面から支援することとなった。そのハード面支援には、校舎改修と「学びのもり」構想によるキャンパス整備があった。ソフト面支援には、公開セミナーの実施、創立周年記念式典記念出版があった。

天附連の幹事長を永年担った筒井氏は「天王寺学びのもり」と天附連の関係について以下の様な文を発表している。

～前略～平成16年4月国立学校の法人化によって附属学校の存続が議論される様になった。その時附属天王寺中高等学校をとりまく人たちが大きく立ち上がった我々は只感傷的になって附属天王寺を残そうとしているのではない。単に財政的に少し厳しくなったという理由だけで、他の模範となるような素晴らしい教育をし続して大阪教育大学の附属学校として国家有為の人材を育てる教師の育成にも、大きな成果を発揮している学校がもし無くなるとしたらそれはまさしく国家の損失ではないか。私たちは日本の未来のために立ち上がったのだった。

そのような熱い思いを保護者だけでなく教育後援会の会員も同窓生も附属天王寺を取り巻く全員が共有した。そして中高PTA、教育後援会、同窓会、財団法人青松会が、それまでの様に個別に活動するのではなく団結して附属天王寺中高等学校の教育を守り育てるために支援連合会（天附連）を結成し様々な活動を始めた。学校を中心とした天附連の活動は附属天王寺の文化（教育と学校のあり方）の社会に対しての発信である。折からの学校の創立周年に合わせ、その記念事業として校舎教室・トイレの改修、及びエコロジーの精神を取り入れた緑の環境創設を目指した「学びのもり」の建設を計画し、多くの人の寄付を募りまた智慧と汗を出し合って今日を迎えた。

この「学びのもり広場」は単なるビオトープではない。都会の真っ只中で自然との共生を体感する空間である。自然の美しさ、優しさ、凄さを実感するそんな空間の創造を目指した。地下水を利用するのビオトープ、劣悪な生存環境の都会をなお生き抜いて生長する植物やそこに集まる生き物を知る。ヒートアイランド現象削減への貢献、全天候型の図書館、そんな中での人との交流、この空間を長く維持し活用するための学校と生徒と保護者による合同の組織の設立、地域の人々への開放、そのような思いを込めてこの広場を創生した。

今後この広場からどのような智慧と文化が社会に向けて発信されるだろうか楽しみである。～後略～

天附連結成の経緯と「天王寺 学びのもり」構想の背景や具体的なコンセプトに関する記述については附属天王寺中高・研究集録第50集の田中氏の論文が詳しい。今回、その中から中心的な概念を引用したい。

天王寺学びのもり構想とは、二つの概念のもりから構成されている。成長・蓄積・発信する集団である抽象概念としての“もり”と、都心近くにあつて環境材（財）である具象概念としての森である。多様な人材が、あたかも森のように育ち成長していく場がある学校、都会の中心地にある学校の中で、環境としての森を維持し発展させていく場としての学校、その二つが日常の教育活動の中で営まれる場所が、天王寺の附属であるという概念である。次の図1、図2によく表現されている。

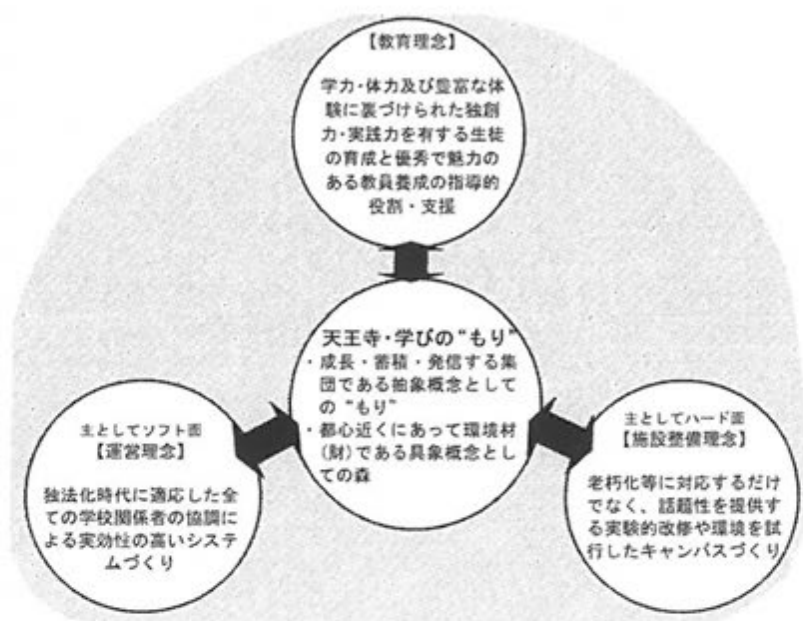


図1 「天王寺学びのもり」のコンセプト

「学びたい・学んでよかった・学ばせたい」学校を目指して

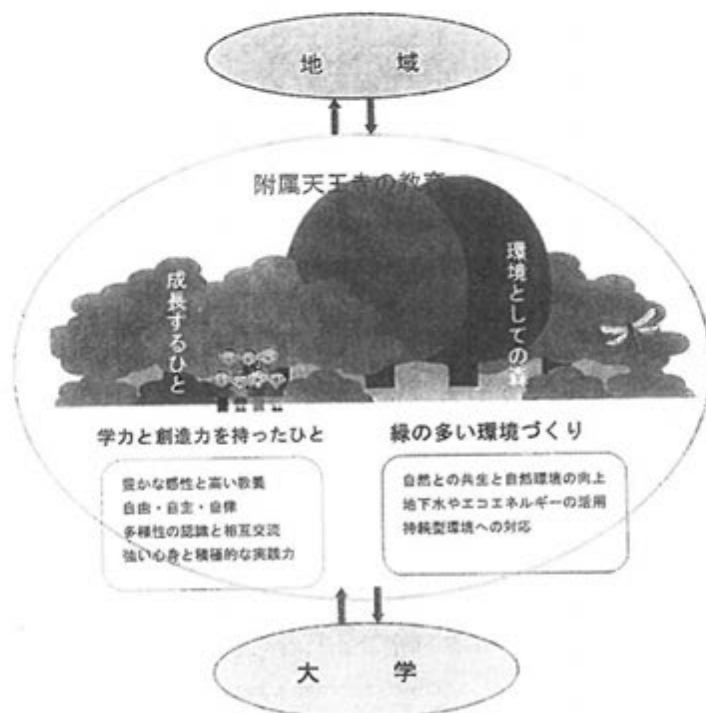


図2 「天王寺 学びのもり」構想(案)

2. 「学びのもり構想」から「学びのもり」建設へ

田中氏は周年事業に関わって、「天王寺 学びのもり」事業の発表において、次のように語っている。

天王寺学びのもり事業は、私たちの学校は多様な個性と能力を持った人材があたかももりのように育っていく学校、大都会の中にあって、自然豊かな森としての環境のある学校の二つの目標を掲げ、この構想の実現を目指していきます。この実現の過程が、日々の様々な教育活動の中で経験できることが、教育実習や現職教員の資質向上と成果につながり、そうした活動が日々何気なく行われている学校、大阪だけでなく日本の学校の目標になる学校、教育に対し積極的な提言ができる学校を目指しています。

図2の中にある**学力と想像力を持った人**とは、どんな人なのでしょう。田中氏は

天王寺は、自由と規律を重んじる校風のもと、自主的な活動と責任を考える教育を通して、自立させ、日々の学校生活において品格を伴った自己実現を目指す、という個を育てる教育を伝統としています。何事にも積極的に取り組み社会に貢献できる人間を育成する全人教育が、天王寺の中高一貫教育です。自由・自主・自立の精神を持ち、豊かな感性と高い教養を基盤にした創造力、独創性を持ち、様々な文化と交流できるコミュニケーション力とそうした力を発揮できる強い心身と積極的な実践力を持った人間を育てること目標にしています。そして、この目標を達成するため、中学校では基礎・基本を徹底する教育を土台として学び方や感性を磨くトレーニングを積み、高校においては、中学校で確立した様々な枠組みから踏み出し、自分で考え判断し、行動することで自主性、創造性、積極性を身につけることを中高6年の中で実現させるのです。

と説明しています。学びのもり構想の中には次の様な具体的なプロジェクトも提案され、実現の可能性が1つひとつ検証されていった。

緑の多い環境づくり

- ・地下水を利用した屋上
- ・グラウンドへの散水
- ・ビオトープの里山改修
- ・グラウンドの芝生化
- ・緑の散歩道の設営
- ・風力発電の利用
- ・壁面緑化

平成19年の秋に、中高PTAと教育後援会合同によるキリンビオトープ見学会が実施された。その時にお世話になった「兵庫県立人と自然の博物館」の自然・環境マネジメント研究部の嶽山洋志研究員（附中43期、附高37期）の協力で、現在の「学びのもり」の改修案が作成された。研究ゾーン・学びゾーン・つどいゾーンなどから構成され（図3）、青空図書館（道草館）というユニークな取り組みが組み込まれていた。嶽山氏作の「学びのもり」には、次の3つの基本コンセプトが盛り込まれていたのである。（図4）探られるもり、地域になくてはならないもり、新しい（附属らしい）ライフスタイルが展開されるもり。それぞれ現在のビオトープ、防災の拠点としての水源（井戸）、道草館やプレゼンの広場といった施設にあたるのだろうか。

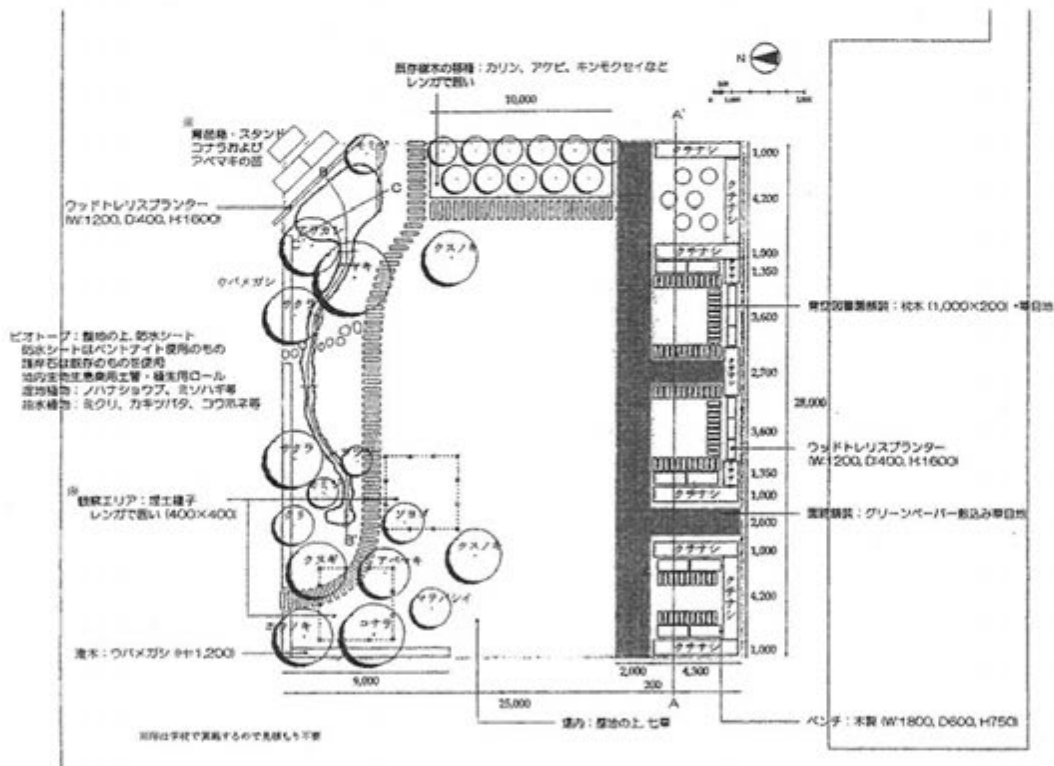
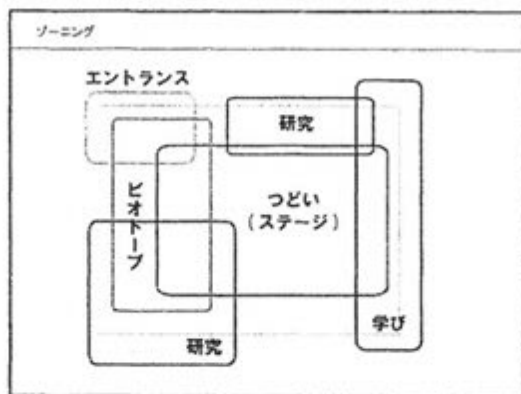


図5は嶽山洋志氏の設計により、つくられた校庭の野外施設である。平成20年10月の完成を機に、広く関係者を招きお披露目会を開催した。(図6)次の「学びのもり構想」のコンセプトをもつ「学びのもり」が誕生した。

- ・多様な個性と能力を持つ人材があたりにも森のように育つ学校
- ・大都会にある学校の中で、自然豊かな森としての環境のある学校

設計者の嶽山氏も『学びのもりのところ』として、

- ・まだ未完成のもりに、自分達で緑を創る
- ・自然の中で読書をして本を味わう
- ・もりにあるポンプを非常時に利用し、その水は流して自然のままにすることを挙げている。

「学びのもり」には、ここから天王寺の文化を世の中へ発信させることを目標とした熱い願いが込められているのである。



図6 新聞記事から

附属天王寺中高は、学びのもり構想をもとに、4年間毎年、工事を行うことになったのである。前任の中西・中学副校長、田中・高校副校長は正に現場監督として学校のリニューアル工事を見守った人たちである。一連の工事等の流れは次のようであった。

- ・平成17年に北館1階～4階のトイレ改修工事
- ・平成18年にはホームルーム24教室、廊下、正門及び外構の大きかりな改修工事
- ・平成19年の夏～平成20年の3月末まで校舎の耐震補強工事
(続いて実施されるはずだった「学びのもり」の工事が耐震補強工事のために1年延期)
- ・平成19年の11月21日に中高PTAと教育後援会合同によるキリンビオトープ見学会
- ・平成20年1月に嶽山洋志氏が「学びのもり」改修案の作成・提案
- ・平成20年8月に「学びのもり」完成
- ・平成20年10月に「学びのもり」のお披露目会の開催

II. 「学びのもり」の組織作りの実際

平成20年10月にお披露目会をした「学びのもり」や「学びのもり道草館」であるが、実際の施設の維持・管理などの組織が未整備のままであった。天附連の会議の中でも、組織作りの強い必要性が議論され、そのことが議事録にも残された。平成20年の学長年頭挨拶の中で、附属学校の再編が提案され、それをもとに附属学校再編検討会議が、その年の夏頃から翌年の1月まで7回に渡り開催され、激論が交わされた。しかし、保護者PTAに十分説明せずに、十分議論が尽くされていないという理由で廃案になった。その結果、「学びのもり」の維持・管理、運営・活用の組織が完成しないまま、時が過ぎることとなってしまった。「学びのもり」が荒れ放題、草木は伸び放題の厳しい状況となってしまったのである。その状況を見るに見かねた天附連幹事長の発案で、組織作りがスタートした。

1. 準備委員会

(1) 学びのもり打合せ会（学びのもり運営管理についての検討会）

学びのもり打合せ会の案内状【資料1】が各種団体の代表者に発送され、平成21年9月10日に学びのもり打合せ会が開催された。26名の参加者がそれぞれの立場から「学びのもり」に対して、忌憚のない意見や思いを発表し、「学びのもり準備会」を学校長が中心となって開催すること、「ピオトープ草刈り体験」を実施【資料2】することなどが確認され、初めての学校・PTA・教育後援会による草刈りが実現した。



(2) 学びのもり準備委員会

前回の打合せ会で確認された準備委員会を平成21年11月20日開催した。【資料3】議事録【資料4】に載っている通り、学びのもり運営・管理の原案【資料5】、運営委員会の立ち上げ、生徒から「学びのもり」活用の意見を聞くこと【資料6】、新しい企画などが提案された。

(3) 学びのもり運営委員会

平成22年3月25日に学びのもり運営委員会を開催し、学びのもりの管理・運営計画について議論した。【資料7】

(4) 学びのもり総会と反省会

平成22年度5月6日に第1回学びのもり総会を開催した。学びのもりを構成

する活用部会、管理部会に所属するすべてのメンバーが集い、学びのもり運営委員会の報告を受け、引き継ぎを行うこととなった。平成23年度の総会からは平成22年度後期に新たに発足した道草館部会のメンバーも加わることとなった。以後、「学びのもり」の各種委員会がそれぞれの活動に向けて、管理委員会・活用委員会・道草館委員会・合同委員会を開催することとなった。そして、年度末には学びのもり反省会を実施し、その年度の活動報告や課題を話し合い、次年度へ引き継ぎを行っている。

2. 「学びのもり」組織の変遷

天附連設立の頃から学びのもり構想に基づき、いろいろな組織の計画が上がっていたが、種々の変更を加えて現在の組織に落ち着いている。今後、学校内外の状況変化に応じて、より適切な組織改編を行うことも考えられる。

「学びのもり」の組織づくりに向けて

1. 組織イメージ

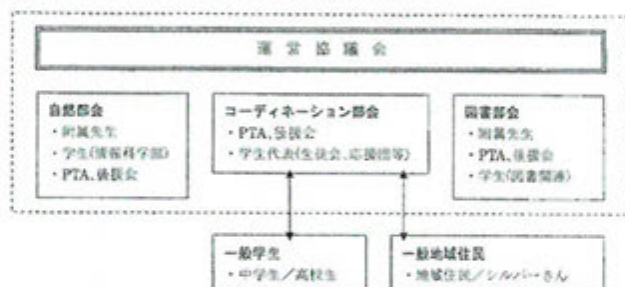


図7 「学びのもり」の組織作りに向けて

学びのもり組織図

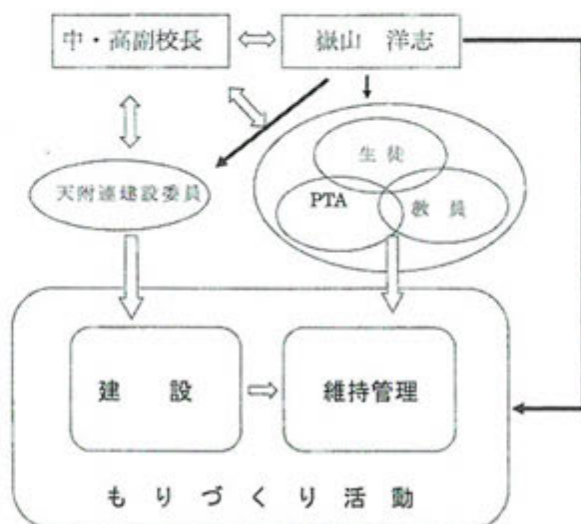


図8 学びのもり組織図

平成24年度 学びのもり組織図



1. 目的
 (1) 天竺寺学びのもり委員会の目的は、本校の生徒・教員・保護者、地域の皆様と連携し、草刈り活動を通じて、校庭の美化と安全確保を図ることにある。

2. 活動方針
 (1) 草刈り活動を通じて、校庭の美化と安全確保を図ることにある。

3. 組織
 (1) 委員長 佐藤 伸一
 (2) 副委員長 藤田 孝志
 (3) 幹事 佐藤 伸一

図9 学びのもり組織図（平成24年度現在）

Ⅲ. 「学びのもり」の活動の実際

平成20年10月に完成した「学びのもり」で数々の活動が展開されてきた。何と言っても生徒の活動が中心であるが、「天王寺学びのもり」の設立趣旨に則り、PTAや天附連の方々、さらには大学、学校外の方々もこの「学びのもり」で活動している。その主な活動をここに紹介したい。

1. 管理部会の活動

管理部会の主な活動としては、年4回実施している草刈り大会である。平成22年度は第2回目は中高副校長が中高生・教員に呼びかけるボランティア企画という形で実施された。以後、第2回草刈り大会は中学校生徒会が中心となり、その呼びかけに【資料9】に応じて生徒・保護者・教員が集い、管理部会がバックアップする形で実施されるようになった。



草刈りボランティア募集ポスター1



草刈りボランティア募集ポスター2



草刈風景1



草刈風景2

2. 活用部会の活動

活用部会の主な活動は「学びのもり」の「発表の広場」で展開される活動のコーディネートをするのである。中でも中高プラスバンド部による合同コンサートは秋の恒例行事となり、参加者も毎年楽しみにしている。また、大学教養学科の音楽専攻のプラス・アンサンブルや関西フィルハーモニーによるクリスマスコンサートはとても楽しい演奏会となり【資料10】、生徒や保護者にも好評であった。第3回草刈り大会には大学学生食堂で実施される懇親会がセットになっており、活動部会の活動内容として大きな位置を占めており、保護者同士の懇親に寄与しているようである。野点の会や附中生徒会が実施しているお弁当企画などはとてもユニークな活動と言えるだろう。



野点の会 1



プラス・アンサンブル



クリスマスコンサート



学びのもりコンサート

～学びのもりコンサート～

2009年12月20日(土) 12時～13時
学生センター(18号ビラード)

◎★プログラム★◎

1 行状の心のフロンティア	エルガー・ハーフス作曲
2 演奏の喜びを伝えて	ゴッホ・リチャード・マクドナルド
・ケルン・フランツ	
・ケルン・マイケル	
・フンツ・スティーヴン	～そしてトランペットもさうさ
3 クリスマスの喜び	ゴッホ・ハーフス作曲

▲参加者入学生協賛特別演奏会★コース プラス・アンサンブル

トランペット
ホルン
トロンボーン
チューバ

プラス・アンサンブル

学びのもり クリスマスコンサート
by 関西フィルハーモニー

日 時： 12月20日(土) 12時～13時

プログラム：1. 作曲家手紙：作曲家の習いによるソナタ
2. ファーナビー：1. 愛想、おもちゃ、夢、より
3. シヤイト：1. 親いのゴリアム
4. アイブリン編曲：クリスマス・クラッカー

関西フィルハーモニー演奏者

- ・トランペット
- ・ホルン
- ・トロンボーン
- ・チューバ

クリスマスコンサート



「学びのもり」展覧会



生徒会お弁当企画

3. 道草館の活動

道草館の主な活動は、附属天王寺中・高 研究集録第54集の拙稿にも紹介しているように、生徒の読書意欲を高めるための地道な活動を継続中である。



道草館活動風景



道草館

4. 学びのもり管理・活用・道草館年間活動（予定表）《平成22年度～平成24年度》

学びのもり管理・活用・道草館年間活動表（平成22年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
委員会	(行事の前後に諸宜調整)	総会 5/6		合同春日会 7/2		道草館委 ① 9/21	道草館委 ② 10/26	道草館委 ③ 11/25	道草館委 ④ 12/21	道草館委 ⑤ 1/12		読書会 3/23
管理 中高施設 委員会			草刈り パーティー 6/19	草刈りボウ ンティア 中絶27/28	草刈り 8/28			草刈り 11/13				
活用 中高生 保護者	野点 4/7	中学生 お弁当 企画 日輪 交流会 5/10	コーラス 学校節 読見学 6/19 三海中 交歓会4/1		懇親会 8/28	ピオトーブ コンサート 4/25/26 (1/11)						
道草館											道草館 オープニング ・セミナー 2/17	

図12 「学びのもり」平成22年度の活動

学びのもり管理・活用・道草館年間活動表（平成23年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
委員会	(行事の 関係で議 決開催)	総会 5/30										反省会 3/27
管理 中高施設 委員会			第1回 草刈り 6/18	第2回 草刈り 7/20	第3回 草刈り 8/27			第4回 草刈り 11/19				
活用 中高生 保護者		中生委員会 お弁当 企画	学校跡 跡見学 6/18		懇談会 8/27	中・フタバ 学びのもり コンサート 9/14			クリスマス コンサート 森永フェス 12/20			
道草館				前期 選定本 購入 7/5						後期 選定本 購入 12/8		

図13 「学びのもり」平成23年度の活動

学びのもり管理・活用・道草館年間活動予定表（平成24年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
委員会	(行事の 関係で議 決開催)	総会 5/16										反省会
管理 中高施設 委員会			第1回 草刈り 6/16	第2回 草刈り 7/20	第3回 草刈り 8/25			第4回 草刈り 11/10				
活用 中高生 保護者		中生委員会 お弁当 企画	学校跡 跡見学 6/16		懇談会 8/25	中・フタバ 学びのもり コンサート 懇談会						
道草館				前期 選定本 購入						後期 選定本 購入		

図14 「学びのもり」平成24年度の活動

IV. 「学びのもり」活用の課題と展望

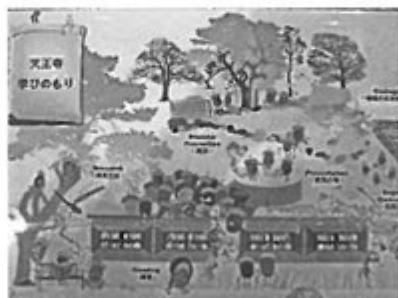
「学びのもり」の評価については、天附連が平成18年9月20日文科省を訪問した時に、当時の文科省高等教育局専門教育課教員養成企画室佐藤光次郎室長から次のようなコメントを頂戴している。「PTA、教育後援会、同窓会など学校を取り巻く団体が強く学校を支え共に歩むということが今まで欠けていたことであって、今附属天王寺中高が行っている取り組みは国公立を問わず全国の学校の模範となるべきものである。また「学びのもり」構想のキャンパス整備も学校の未来を見据えた構想であり、自然環境にも配慮した素晴らしいものである。」附属天王寺の中高副校長はその言葉のお陰で、自信を持って「学びのもり」構想を推進することができた。

前任者から引き継ぎ、この4年間、学びのもりの組織や活動の確立のために学校・生徒・保護者の三者が協働し、無我夢中で突っ走ってきた。「学びのもり」の設計者である嶽山氏は、完成当初からこの「学びのもり」はハーフメイドであると説明されていた。し

かし、嶽山氏のハーフメイドという言葉はまだ生きていられると思われる。それはハード面とソフト面の両面についてである。より多くの生徒、保護者、教員がこの「天王寺学びのもり」を活用し、ここから天王寺の文化を創造・発信していかなければならないと考えるのである。そこで、異なる視点からも附中高の現状を知り、さらなる発展のヒントを得るために、教員へのアンケートを行った。【資料11】教員24名から回答を得た。8名が「学びのもり」を活用し、16名は活用していなかった。授業での活用例としては、植物観察(理科)、図書館のオリエンテーション(国語)、スケッチ(美術)、学芸会の練習(HR)などであった。クラブ活動ではコンサートや練習(吹奏楽部)、作品展(美術工芸)、動植物の観察(情報科学部)、筋トレ(テニス部、剣道部)などであった。生徒会・自治会活動では、お弁当企画や生徒との交流などがあつた。日常の活動としては道草館の図書活用があつた。活用のアイデアも何点が挙げられた。次年度以降の検討課題と考えられる。茶道部で野点の会。SSHの課題研究。気候観測の授業。国語の俳句の授業。人文、科学、芸術に関する催し物。朗読会。野外ホームルーム。委員会、クラブの発表会。学校見学会等々。道草館の書物の内容をアピールする、ベンチの風化防止をするといった提案もあつた。管理を生徒に任せてはという意見もあつた。活動の主体は生徒ではあるが、教員の働きかけやバックアップは欠かせないものである。次年度以降も生徒・保護者・学校(教員)が有機的に繋がり、「学びのもり」活動が充実し、附属天王寺の発展に携っていく所存である。

本稿は、できるだけ「天王寺学びのもり」の記録を忠実に残すことに努めたが、不十分な記述や解りにくい表現があれば、筆者の理解不足によるものでありお許し願いたい。

おわりに、この「学びのもり」には構想の段階から、本当に多くの方々力を頂戴した。特に天附連の発足当時から、ご尽力いただき、多くの貴重な資料を提供くださった筒井一太氏、また「学びのもり」の完成に尽力いただき、道をつけていただいた中西前中学校副校長、田中前高校副校長、並びにご協力、お力添えをいただいた全ての方々に感謝申し上げます。



【資料1】 学びのもり打合せ会の案内状

平成21年8月17日

学びのもり関係者の皆様

大阪教育大学附属天王寺中・高等学校
支援連合会（天附連）幹事長 筒井 一太

学びのもり打合せ会のご案内

残暑の候となりましたが、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、大阪教育大学附属天王寺中学校60周年・高校50周年の記念事業の一つとして昨年11月に完成いたしました「天王寺学びのもり」の件ですが、附属再編検討会議のため、昨年度中に管理システムを作り上げることができませんでした。今年度は、そのシステムを築き上げることが緊急の課題となっております。そこで、この度、「学びのもり」を設計、施工した専門家の方々にもご出席いただき、今後の「学びのもり」の管理システムの在り方などについてご指導・ご助言をいただきながら、話し合いを進めて参りたいと存じます。

つきましては、お忙しい最中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

記

日 程	平成21年9月10日（木） 午後3時から
場 所	大阪教育大学附属天王寺中・高等学校 会議室
案 件	1 学びのもり建設コンセプトの確認 2 専門家からのアドバイス 3 学びのもり維持管理体制について 4 その他

【資料2】 ビオトープ草刈り体験案内状

PTA 役員、施設委員長、教育後援会の皆様

2009年9月30日

大阪教育大学附属天王寺中学校長
大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎主任
高橋 敬

ビオトープ草刈り体験のご案内

朝夕はめっきり涼しくなりましたが、皆様にはいつもながらお変わりなく何よりに存じ

ます。日頃より本校 PTA 活動にご協力いただき、有り難うございます。

本校のビオトープのお披露目から約 1 年経ちます。その間、このビオトープの管理運営の組織につきまして、具体的な進展がありませんでした。

そこで、このビオトープの管理運営のため、実際に専門の方からご指導を受けながら、草刈りを体験する機会をもつことになりました。この体験を下に、今後のビオトープ管理運営の組織を考えたいと思います。

なお、当日ビオトープ設計者の嶽山氏と工事を担当しましたグリーントラストの廣瀬氏に参加をしていただき、ご指導を受ける予定です。

記

日 時 2009 年 10 月 17 日（土）午前 10 時から 12 時
（雨天のときは 10 月 31 日（土）午後 2 時から 4 時）

場 所 本校ビオトープ
作業のしやすい服装をご用意ください。軍手は各自でをご用意ください。

【資料 3】 準備委員会案内状

平成 21 年 11 月 9 日

ビオトープ準備委員会
委員の皆様

大阪教育大学
附属天王寺中学校長
附属高等学校天王寺校舎主任
高橋 誠

準備委員会のご案内

初冬の候、皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、学校発展のために、ご協力いただき深く感謝申し上げます。また、先日はビオトープ草刈り体験を企画しましたところ 20 名を超えるご参加をいただき誠にありがとうございました。

さて、下記の通り学びのよりの管理・運営に関する準備委員会を開催いたします。何かとご多用の折りとは存じますが、万障お繰り合せの上、ご出席くださいますようご案内申し上げます。

なお、ご都合が悪い方は下記の電話まで、ご一報をお願い申し上げます。

記

- 1 日 時 平成21年11月20日(金)午後3時より
- 2 場 所 大阪教育大学 附属天王寺中・高等学校 会議室
電話：06-6775-6052, 6045
- 3 案 件 (1) 学びのまじりの管理・運営に関する組織作りについて
(2) その他

【資料4】 学びのまじり準備委員会議事録

日 時： 平成21年11月20日(金)午後3時～4時30分

場 所： 附属天王寺中高 会議室

出席者： 17名

(高PTA会長)、(高PTA副会長)、(高PTA書記)、(高PTA会計)、
(高PTA施設委員長)、(高PTA2年学級委員長)、(高3PTA学級委員長)、
(中PTA会長)、(中PTA副会長)、(中PTA書記)、(中PTA会計)、
(中PTA施設委員長)、(教育後援会副理事)、(教育後援会庶務理事)
高橋校長、岡副校長、金井副校長、欠席1名(教育後援会会計理事)

決定事項・確認事項

- ・「学びのまじり準備委員会」から「学びのまじり運営委員会」を立ち上げる。
- ・3月末までに6月くらいまでの可能な計画(できれば年間計画)を立て、次期運営委員に引き継ぐ。
- ・活用部会、管理部会のメンバーを決定する。
活用部会 学校(校長、中高副校長) 顧問
(10名) 中1学級委員長 中2学級委員長 中3学級委員長
高1学級委員長 高2学級委員長 高3学級委員長
管理部会 学校(校長、中高副校長) 顧問
(11名) 中高PTA会長 中高PTA副会長
中高施設委員長 教育後援会
- ・引き継ぎの問題が大きいので、新年度第1回の「学びのまじり運営委員会」は新旧メンバーで行う。

提案事項

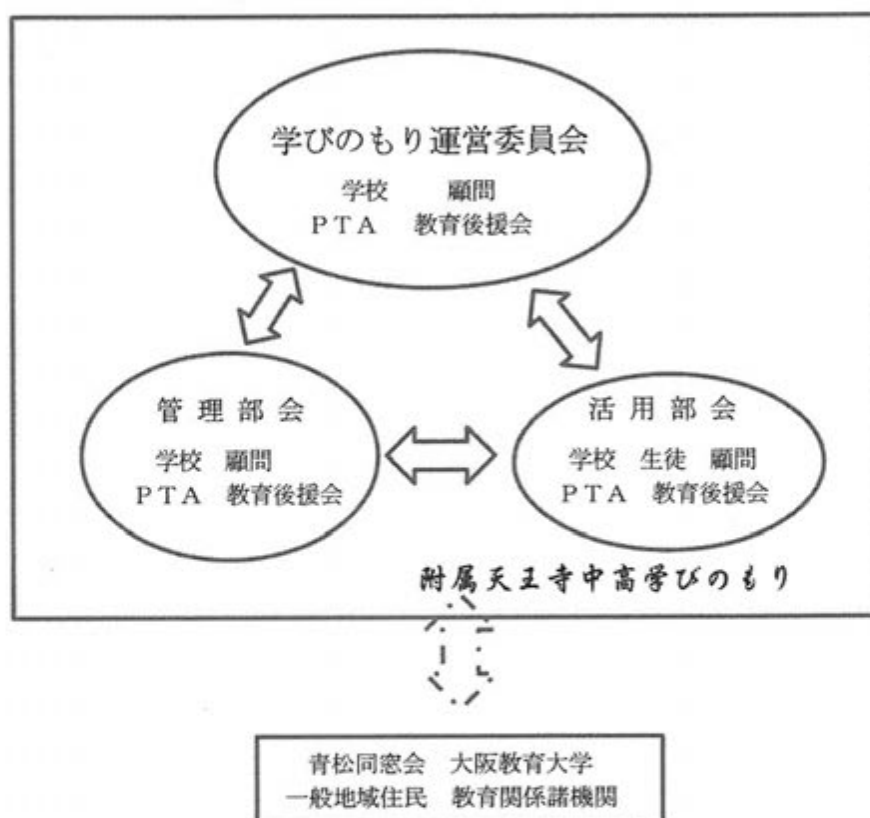
- ・12月21日(月)にクリスマスコンサートを実施する企画を推進する
高橋校長が大学と連絡を取り、交渉していく。
第1回「学びのまじり運営委員会」をその日に開催する予定。
- ・草刈りの時期を、中高の卒業式や入学式の直前に企画する。
生徒の奉仕活動としてもよい。

【資料5】「学びのもり」運営・管理の原案

平成21年11月20日
学びのもり準備委員会

「学びのもり」管理・運営に関する組織について

1. 組織イメージ



2. 組織の構成

- (1) 学びのもり運営委員会 (10名)
委員長 (学校長) 副委員長 (中高副校長)
顧問 (嶽山さん=設計者) PTA (中高会長・中高女性副会長) 教育後援会
- (2) 活用部会
学校 (中高教員、授業など) 生徒 (生徒会、自治会、図書委員会、顧問 各種
クラブ活動《情報科学部、生物部、地学部、プラスバンド部、有志)
PTA (中高PTA役員、委員会、PTAコーラス、有志)
教育後援会 (理事、中高評議員)
- (3) 管理部会
学校 (中高教員、中高生徒〔生徒会・厚生委員会、自治会〕)
顧問 PTA (中高施設委員長・委員会、中高PTA役員・実行委員会、有志)

教育後援会（理事、中高評議員）

(4) サポーター

青松同窓会 大阪教育大学 一般地域住民 教育関係諸機関

3. 活動内容

(1) 学びのもり運営委員会

学びのもりに関わるすべての活動の最終意志決定の場とする。

(2) 活用部会

活用部会構成員がビオトープ区域、道草館区域、広場区域において各種活動を企画・実行する。各種活動とは授業をはじめとした、調査・研究・探求活動、読書活動、表現・発表などの創造的な活動を指す。中高のクラブ活動や委員会活動、また、自由研究などの個人活動、グループ活動を展開することも考えられる。さらに、種々の活動内容については生徒たちの自由な発想を生かすべく生徒からアイデアを募ることも考えていく。

(3) 管理部会

学校と中高PTA施設委員会が中心となり、学びのもり（ビオトープ区域、道草館区域、広場区域）全体の維持・管理を顧問の指導の下に計画的に行う。必要に応じて、教育後援会の財政的支援を得ることとする。

(4) 顧問

顧問は学びのもり運営委員会の一員として、学びのもり全体に関わるアドバイスを行う。特に学びのもりの維持管理や生徒活動など全般にわたり指導・助言を行う。

(5) サポーター

地域連携を図るため、一般公開・参加できる企画に関しては、広報活動を積極的に行う。卒業生や大学などにも協力を要請することも考えられる。

【資料6】 中高生徒へのアイデア募集

2009. 11. 25

中高生徒の皆さんへ

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎主任
大阪教育大学附属天王寺中学校長
高橋 誠

学びのもり ビオトープ の活用について

本校のビオトープが完成してから、約1年経過しました。この間、ビオトープを流れる井戸水に何度かトラブルがあり、せせらぎの水が赤茶色に変化したことが何度ありました。しかし、今はきれいな水が流れています。

夏には、ビオトープに雑草が茂りました。この雑草は在校生や卒業生の保護者の方々に刈っていただきました。草刈りの当日は、ビオトープの設計者である本校卒業生の嶽山さ

ん、ビオトープの工事を担当した廣瀬さんにもお手伝いいただきました。

最近、ビオトープにテーブルベンチを設置しました。このテーブルベンチは、北館の北側にあるヒマラヤスギからつくったものです。昨年、2本の枯れたヒマラヤスギを伐採し、半年間乾燥させてつくりました。現在も4本のヒマラヤスギが枯れています。このヒマラヤスギを使って、テーブルベンチを増やすことも出来ます。

このように、少しずつ生徒のみなさんにビオトープを使ってもらうための努力を行っています。しかし、生徒のみなさんがどのようにビオトープを使いたいかわからない部分もあります。そこで、今回、生徒のみなさんから、ビオトープの有効活用についてアイデアを募集したいと思います。下の用紙に書いて担任の先生に提出してください。多くの中高生のアイデアを期待しています

《生徒の主なアイデア》(校長が下線を引いた項目のみ抜粋)

高校生

- ・もっと美しさが欲しい ・もっと木を植えてほしい ・クラブの活動場所
- ・ビオトープの木に鳥かごを付けたり、春にきれいな花が一面にさくように
- ・安らぎの場所であり、憩いの場 ・整いすぎた環境をどうにかして欲しい
- ・木や植物を増やして欲しい
- ・日マラヤ過ぎが余っているのなら、それをプランターに作り替えて花を植えたり、

中学生

- ・枯れているヒマラヤスギも、花壇や畑の囲い
- ・「道草館」は野外にあるので、季候が良く、天気の良い日しか利用することが出来ないで、改善してほしい
- ・昼休みに開放してお弁当を食べれるスペースをつくってみる
- ・立体的なものを作って欲しい ・春夏秋冬それぞれに咲く花を植える
- ・リラックスできる場所 ・気持ちを落ち着かせる場所
- ・本の冊数をもう少し増やして欲しい ・イスなどをもう少し増やして欲しい
- ・自由菜園のコーナー ・ベンチをもっと多くして欲しい
- ・読書スペースとして活用したい ・イスに座って友達としゃべる
- ・夏に木陰で涼しく過ごせる様に ・吹奏楽部のコンサート
- ・池があるので、それを観賞できるイスが池周辺に設置すれば良い
- ・のんびりとベンチに座ってぼーとしたい
- ・軽く腰掛けて話せる様なものがあつたらいいんじゃないでしょうか。デザインを独特なものにしたりすれば
- ・背もたれのついたイスをよく使います。もっとあつてもいいのではないかな
- ・何かコンサートなどみんなが楽しめるもの
- ・植林活動 ・ヒマラヤスギで小物を作る
- ・ビオトープの情報を知らせるために、掲示板の様なもの(余っているヒマラヤスギ)
- ・委員会などで催し物をする
- ・吹き抜けからビオトープに行く時の板がゆるゆるで危ない目にあつたので直して欲しい

- ・外での練習の時、白いベンチなどすぐ役に立っています。
- ・池でメダカやアメンボなどを育てたらいい
- ・ピオトープの植物図鑑
- ・学びのもりの本を貸し出し制にして欲しい

【資料7】 学びのもり運営委員会記録（学びのもり総会資料）

日 時：平成22年3月25日14：00～16：00

出席者：嶽山さん（顧問）、（高PTA会長）、（中PTA会長）、（高PTA副会長）、
（教育後援会）、（教育後援会）、高橋先生（中校長・高校舎主任）、
岡先生（高副校長）、金井先生（中副校長）

- 内 容：1. 「学びのもり」管理について
- ・スケジュール表をもとに草刈りなどの日程を検討する
2. 「学びのもり」活用について
- ・生徒のアンケートをもとに活用内容を検討する
3. 引き継ぎのための総会の開催計画を検討する

提案事項・確認事項

1. 草刈りの日程（案）

中高施設委員会主催・中高役員会協賛

第1回 6月19日（土）（ティーパーティー？）

第2回 8月28日（土）〔懇親会付き（お父さんが参加しやすい企画を）〕

第3回 11月13日（土）（できれば補修も）

〔第4回 4月（入学式前日）（必要があれば生徒と先生が中心で）〕
2. 活用計画（案）

4月7日（水）	野点の会（中学校入学式）→ 実施済み
4月～5月	ブラバン演奏
5月10日（月）	交流会？（中2の一部の生徒との交流）
6月中	学校施設見学（施設委員会主催）
6月	PTA コーラス
6月～7月	スプリング・コンサート
12月	クリスマス・コンサート
12月	ブラバン演奏
3. 活動計画
 - ・学校のHPに学びのもりコーナーを作成し、情報を提供したり、活動報告をアップし、保護者や一般に情報公開する
 - ・学びのもりに掲示板を設置し、「学びのもり」のコンセプトを常設し、情報を生徒、保護者に提供する
 - ・「学びのもり」の使用規定を作成の上、使用簿を作成する
 - ・次年度への引き継ぎのための「学びのもり」の総会を5月6日（木）17時から実施する

【資料8】 学びのもり反省会の議事録

平成24年3月27日3時～4時（会議室にて）

1. 挨拶

中学校副校長が校長に代わって、学校からの挨拶をする。

2. 平成23年度学びのもりの活動報告について

（1）活用部会から報告

委員長から本年度に実施した草刈り、懇親会、コンサートについて報告があった。第3回は高校の保護者が附高祭の準備で忙しいので、草刈りと懇親会は中学が主体になって進めてほしいという意見も出た。学びのもりで、冬のプラスバンドの発表は厳しいという意見が出た。

（2）管理部会から報告

委員長から草刈りについて詳細な報告があった。今年度は草刈り活動が定着できることと安全に配慮することを目標に実施した。第2回は生徒会が中心に（事前の声掛けが功を奏した。）なり、中学校プラスバンド部も全員参加で実施できた。課題として、実施の判断が難しい時に誰が決定するか、また、その時の連絡方法について考えなければならないという意見があった。

（3）道草館部会から報告

委員長から今年度前後期の活動内容について報告する。

H22 後期 184 冊、H23 前期 139 冊、H.23 後期 193 冊合計 516 冊を搬入している。

今年度高校生の有志参加があった。準備作業もほぼ定着してきた。

・課題：ブースが満杯になってきた。入らない蔵書の処理について検討していく。

返ってこない本や傷んだ本の修理について検討が必要である。

同じ本が重複した場合の取り扱いを検討。搬入したいが高価な本なので購入するかどうかの検討も必要である。

活動が定着してきたので、保護者や教育後援会の大人がどこまで手伝うか、意見をするのが難しくなってきた。親が何をどこまでしたらいいか迷い、その必要性があるのかどうか考えるという感想がでた。生徒だけでなく、生徒、保護者、学校の三者が協働する活動に学びのもりの意義があるとの意見が出された。

この活動は6年を一区切りと考えている。道草館のブースが足りないようだが、どのように考えているかという質問もあった。

3. 平成24年度学びのもりの活動について

気軽に交流できる場がいい。草刈りは参加しやすい行事で、楽しく活動、交流できた。もっと多くの保護者に知ってほしい。高校生にももっとアピールをした方がいい。日程やプラスの企画（お茶を飲みながらの会）を入れたらいい。

4. その他

5. 挨拶 高校副校長が最後に「ありえないはありえない」という心構えで運営していきたいという趣旨の挨拶をした。

【資料9】「学びのもり草刈大会」案内状（生徒会作成）

平成24年7月5日

PTA 会員の皆様

大阪教育大学附属天王寺中学校
同 生徒会会長

第二回「学びのもり草刈り大会」のご案内

七月に入り連日蒸し暑い日が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、早くも今年2回目となる「学びのもり草刈り大会」のご案内をさせていただきます。今回はPTA 役員の皆様のご協力の下、私たち中学校生徒会が主体となって行います。これまで、保護者の皆様とともに多くの附中・高生が参加してきた草刈り大会ですが、今回は準備・片付け・全体の進行に至るまで中学校生徒会役員が仕切らせていただくことになりました。和気あいあいとした雰囲気大切に、また附中生徒会の伝統行事として引き継いでいくためにも、役員一同てきぱきと進めていきたいと思っています。うまくいかないところもあるとは思いますが、温かい目で見守っていただけたら嬉しいです。

今回は平日の午前中に行くということで、お忙しい方も多くおられると思いますが、お時間の許す限り参加していただければ幸いです。また今回に限り、出席の申し込みを取りませんので、気軽にご参加ください。

なお、作業は短時間ながらも時節柄きびしい日差しや暑さが予想されます。帽子や日焼け止めなど忘れずにお持ちください。さらに、雨天決行ですので雨具等の用意も各自よろしくお願ひします。たくさんのご参加お待ちしております！

記

1. 活動日時 7月20日（金） 午前11時～11時40分頃
2. 集合場所 吹き抜け～学びのもり広場
3. 持ち物・服装 作業しやすい服装、帽子、軍手、汗ふきタオル等
(雨天時は雨具の用意も忘れずに)

【資料10】 学びのもりクリスマスコンサート案内状

平成23年12月5日

中高保護者の皆様

学びのもり活用部会
委員長

学びのもりクリスマスコンサートのご案内

師走を迎え、気忙しい毎日が続いておりますが、皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より学びのもり諸活動にご理解、ご協力いただき、誠にありがとうございます。

先日は、悪天候の中、第4回学びのもり草刈り大会に多数ご参加いただきありがとうございました。お陰様で、美しい学びのもりが維持・管理できております。保護者と生徒、先生が共に協力して、学びのもりを整備できることは本当に嬉しいことと存じます。

さて、今回「学びのもりクリスマスコンサート」を、関西フィルハーモニーの精鋭をお招きして実施する運びとなりました。この企画が実現したのは、本校中高の卒業生でもあり、現在学校評議員をしてくださっている方のご尽力の賜であります。ここに、深く感謝したいと存じます。

また、コンサート終了後、高校のプラスバン部の金管吹奏楽パートもご指導を仰ぐこととなっております。

このコンサートは平日お昼実施のため、お忙しい方も多数おられるかと思いますが、是非ご来校いただき、生徒とともに師走のひとつときを楽しくお過ごしいただければ幸いです。ぜひ、皆様お誘い合わせの上、お越しくださいませようご案内申し上げます。

Merry Christmas and A Happy New Year!

記

1. 日 時 12月20日(火) 午後12時40分～1時10分頃
2. 公演場所 学びのもり広場 (雨天：小講堂)
3. 曲 目 クリスマス曲を中心に (当日をお楽しみに)

【資料11】 教員へのアンケート

平成24年12月21日

学びのもり活用部会

学びのもりについてのアンケートのお願い

「学びのもり」は附中創立60周年・附高創立50周年記念事業の一つとしてトイレ改修・校舎改修とともに平成20年10月に天附連(大阪教育大学天王寺中・高等学校支援連合会〔中学校PTA、高校PTA、中高教育後援会、青松同窓会、一般財団青松会〕の5団体の総称)が建設したものです。天王寺の文化を広く世に情報発信することを目的として構想されました。「学びのもり」はピオトープ、パフォーマンスの広場、道草館の3つの部分からなり、Ecology—地域の生態拠点—、Disaster Prevention—防災—、Research—調査活動—、Reading—読書—、Presentation—表現の場—、Regional Partnership—地域連携—

といった諸活動やコンセプトを持って構築されました。しばらく手つかずの状態でしたが、平成21年10月に学びのもり準備委員会が発足し、平成22年4月から「学びのもり委員会」が正式に発足し「管理部会」と「活用部会」を中心に活動をスタートさせました。平成22年9月に「道草館部会」が新しく加わり、現在の「学びのもり」の組織が一

On Various Activities in "Tennoji Manabi-no-mori"

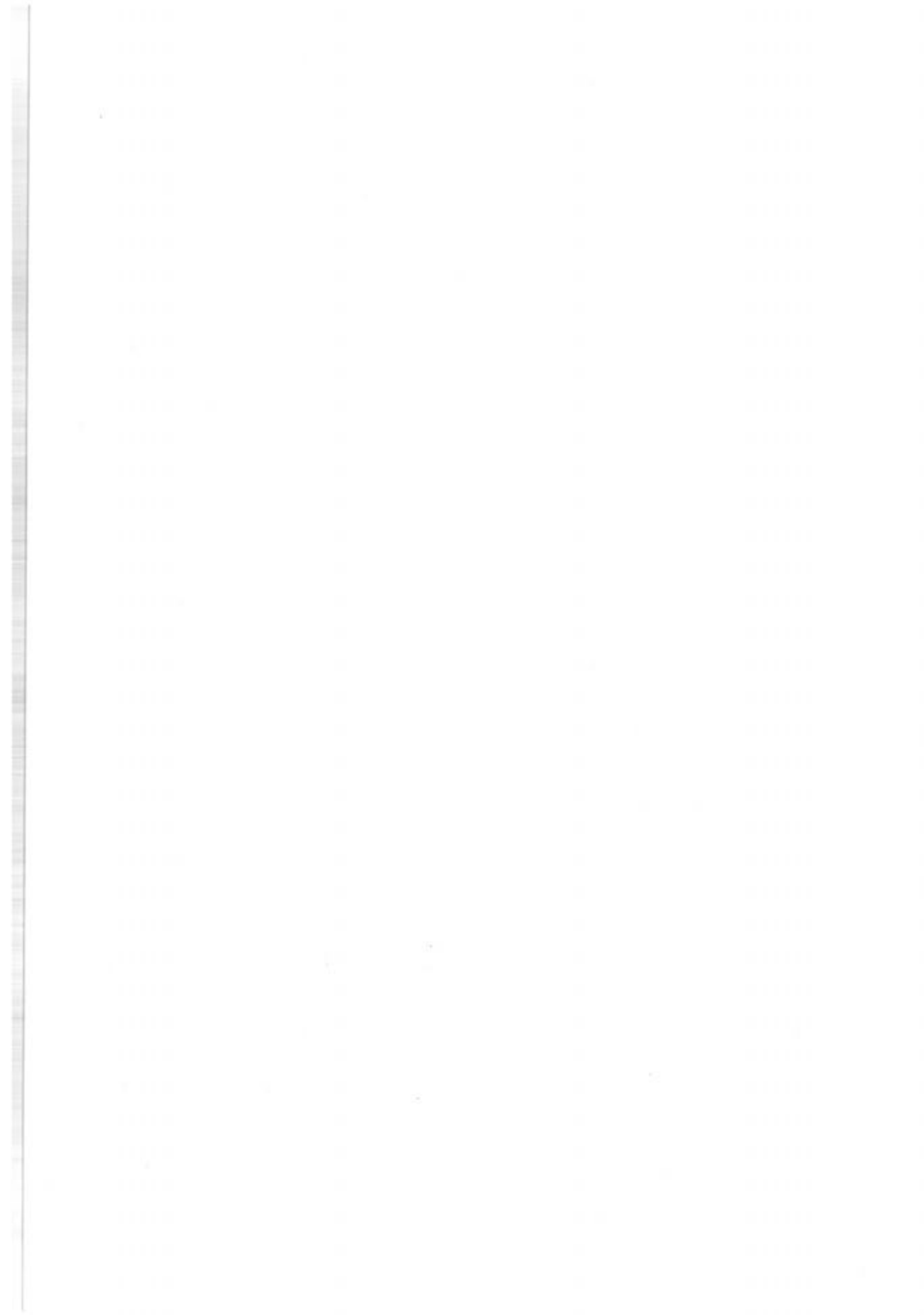
—For effective use of Manabi-no-mori facility —

KANAI Tomoatsu

Abstract:

We have celebrated the 60th anniversary of the founding of our junior high school and 50th one of our high school and done the commemorative projects. As one of the projects we have completed a facility named 'Manabi-no-mori' in the school yard in October, 2008. Soon after a preparatory committee of Manabi-no-mori in September, 2009, we have started Manabi-no-mori committee. The activity has begun on a full scale. In this paper I will report on the process of constructing the facility and making the organization of Manabi-no-mori and various activities..

Key words: concept of Manabi-no-mori, maintenance, good use, Michikusakan,
collaboration of students, parents and teachers



iPad を活用したメディアリテラシー教育の実践

—ニュース番組の編集を通して—

やまねまさこ
山根雅子

抄録：近年、映像や音声の複合的な表現や、双方向性を持ったメディア情報が、ますます日常的に浸透してきた。この授業では、情報は意図を持って編集されたものだということを理解し、情報を目的に応じて選択して用いる力をつけるために、ニュース番組の編集を行った。その際、編集作業のストレスを減らし、効果的な編集をするために、iPadの動画編集アプリiMovieを活用した授業を試みた。

キーワード：国語教育、メディアリテラシー、編集、ニュース番組、iPad

1. はじめに

昨年度、修学旅行の班別学習で、3年生に「乗鞍PR用CM」を制作させた。5人班で、テーマを決め、撮影と編集を行い、約30秒のCMにまとめるという取り組みだった。

まず、テーマ設定のため、「乗鞍」という場所の観光資源を調べるところから始めたが、ガイドブックや地図などこちらで準備する資料の負担は少なくなかった。インターネットを使って調べてくるという宿題も出したが、全員が同じような質で調べてくることは難しく、結局こちらで準備したテーマから選ぶという形になってしまった。授業者が作ったCMや地方自治体が作っているCMを視聴し、自分たちで作りたいCMの企画案を作らせたが、乗鞍に対する情報の少なさから完成図がイメージできるほどにはなっていなかった。

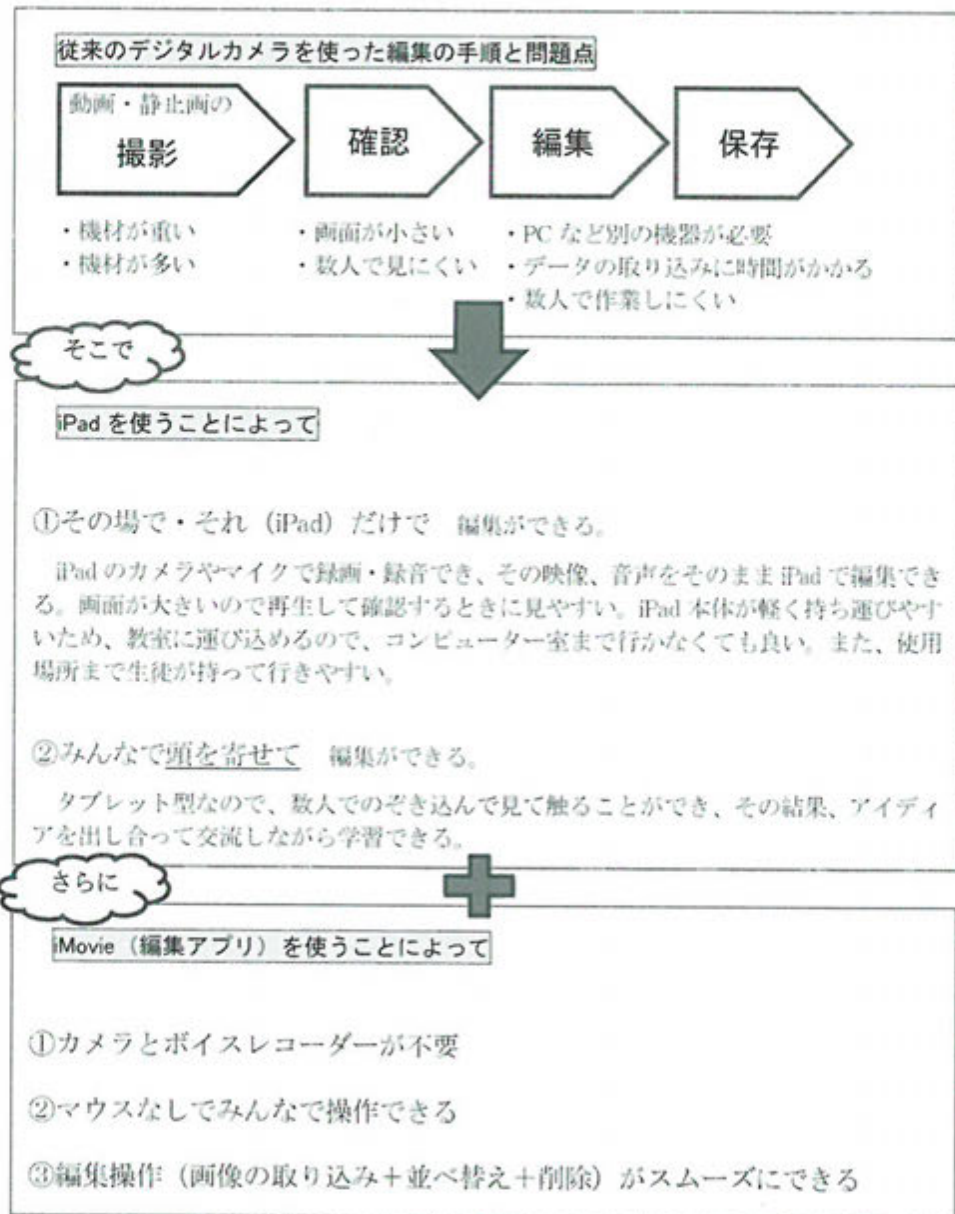
撮影にはデジタルカメラを使い、PowerPointのスライドショーの機能を使って再生することにした。編集のしやすさを考えて、動画ではなく静止面で写真撮影した。ナレーションなどの音声録音はボイスレコーダーを利用し、パソコンに取り込んで、映像と合うように編集させた。BGMは著作権フリーの音響データを授業者で準備して事前に渡しておいた。そのため、この修学旅行に持って行かなければいけなかった機材はかなりの荷物になった。パソコン、デジタルカメラ、ボイスレコーダー、そして充電器、これらを班の数だけもって行かなければならない。修学旅行は分宿なので、機材の数が多いと、運搬だけでなく保管も大変である。また、編集する段で、パソコン操作で手間取る班がほとんどであった。

そこで、編集する情報に対する知識量、撮影や編集機材の利便性という二点を解決しつつ、情報は意図を持って編集されたものだということを理解し、情報を目的に応じて選

決して用いる力をつけるために、今年度はiPadを用いたニュース番組作りを行うことにした。

ただし、道具はあくまでも、学習を助けるものにすぎない。道具の使用に気をとられて、授業のねらいとなる知識理解や思考が疎かになっては本末転倒である。iPadを実際に使う授業までに、どのような授業展開を行ったのかも、ここにまとめておこうと思う。

2. iPadを使って編集を行う利点



場合によっては、編集したものをそのままYouTubeなどインターネット上にアップロードしたり、メールで送信したりすることも可能である。

3. 授業計画

時間	授業内容
第1時	教科書教材「ニュースの見方を考えよう」(池上彰)に書かれた「編集」の例を知り、筆者の考えを読み取る。
第2時	ニュース番組を分析し、編集の工夫を知る。
第3時	ニュース番組の編集をする。(企画案作り)
第4時	ニュース番組の編集をする。(撮影と編集作業)
第5時	ニュース番組を放送し、評価し合う。

4. 指導の実際

(1) 第1時 教科書教材「ニュースの見方を考えよう」(池上彰)を読み、「編集」の例を知り、筆者の考えを読み取る。

- ①ニュースは編集されたものだということを知る。
- ②編集の具体例を知る。
- ③ニュースキャスターやコメンテーターの発言に対する筆者の捉え方を読み取る。

教科書は「新しい国語1」(東京書籍)を使用している。「編集とは何か」や「ニュースの情報を批判的に見ることの重要性」が平易な文章で書かれているため、ニュースの見方を考えるきっかけとして扱った。

(2) 第2時 体育大会の結果を伝えるニュース(授業者制作)と、録画ニュース「NHKおはよう日本」(2012年8月10日(金):サッカー女子決勝の結果)を視聴し、編集の仕方を分析し、制作者の意図をとらえる。(資料1)

- ①「練習が最初はうまくいかなかったが、団結して体育大会本番では勝ったB組」を伝える編集例(授業者制作VTR)を見る。
※選んだ写真・写真の並べ方・ナレーションの内容・コメンテーターの発言に注目する。
- ②ロンドンオリンピックの結果を伝えるニュース番組のナレーション原稿を分析し、制作者の意図を捉える。
- ③ロンドンオリンピックの結果を伝えるニュース番組を視聴し、使われている映像を分析し、制作者の意図を捉える。

今回は、ナレーションのみを分析させてから、映像とナレーションが入ったニュースを見せて映像の分析をさせた。ナレーションだけでも制作者の意図は読み取れた。さらに、制作者によって選ばれた映像がどんなものか分析することで、編集の意図をも知ることができた。

しかし、本来の編集の手順としては、映像があって、それにナレーションをつけていくので、音消で映像のみのニュースを分析させてからナレーションの入ったニュースとないっていないニュースの印象の違いを挙げさせたほうがよかったのかもしれない。

(3) 第3時 ニュース番組の編集をする。(企画案)

- ①録画番組『メディアのめ「選びぬいてつなぐ!映像編集」』(NHK Eテレ 2012年10月22日(月)放送:池上彰出演)を視聴し、映像編集によって視聴者に与える印象の違いを知る。
- ②番組制作に使う写真とナレーション原稿(教科書教材:北京オリンピック女子サッカー3位決定戦日本対ドイツの結果を伝えるニュース)を確認する。
- ③制作意図(「健闘を中心に伝える」または「残念さを中心に伝える」)にあわせて、写真とナレーション原稿を選んで並べ、企画書を書く。(資料2)
※ナレーションはつながりを考えて、少し変えても良い。
- ④最後のコメントターの言葉を考える。
- ⑤1分程度になるように、ナレーションの音読練習と手直しをする。

4人班でニュース番組を作っけていかせた。これは、お互いの考えを交流させることと協力して一つのものを作り上げていさせるためである。アナウンサー・キャスター・カメラマン・発表代表者の4つの役割を分担させた。

普段、作文などの創造的な活動に取り組ませる場合、「伝えたいこと、書きたいことがない」ということや「文章の組み立て方が分からない、書き方が分からない」という、内容と構成の問題から、活動がうまくいかないときがある。しかし、この企画書の段階では、すでに教科書に準備されている写真と文(ナレーション)を、与えられた編集意図に合うように、選んで記号で並べ替えるだけなので、編集する情報への深い知識がなくても編集を行うことが簡単にでき、「考える」ことに集中できていた。

編集で使える9枚の写真が、それぞれどのような場面の写真かクラス全体で確認したが、一枚の写真でもいろいろな捉え方ができるので、一人ひとりにどのような場面の写真か考えさせてから、企画案を作らせればよかったと思う。また、この活動をする前段階として、「写真を読む」練習があればより深く考えた編集ができたのではないだろうか。

企画書を作る際に、写真から選んで並べ始める班と、文(ナレーション)から選んで並べ始める班があった。編集するときの手順としては、映像ありきで、それへの意味づけをするのが文(ナレーション)なので、写真を選んでからナレーションをつけるのが思考の流れとあっている。第2時のニュース分析で、ナレーションから分析させたので、ナレーションから選ぶグループが出てきたのではないだろうか。また、制限時間1分~1分30秒のニュースをつくるという縛りがあったので、ナレーションの長さを調整するところから始めたとも考えられる。第1時では、どんな番組をつくるか決めてから取材に行くという番組制作の流れを知ったので、先にナレーションを決めてから、それに合う映像をもってくるというの、取材の流れとしては間違っていない。先に写真を選んだ班と、先に文を選んだ班とで、今回の編集に大きな差が出たとは思えないが、もう少し授業の流れを練っておくべきだったと思う。

グループによって進度に多少差が出たが、早く企画書のできたグループはナレーションの練習をするように指導した。

(4) 第4時 ニュース番組の編集をする。(撮影)

- ①iMovie (iPad用アプリ) の操作方法を知る。
- ②企画書に従って、写真を並べる。
- ③オープニング映像とコメンテーターの発言を撮影する。
- ④企画書に従って、ナレーションを録音する。

実際にiPad (第3世代) を使用したこの第4時の展開については、以下に「事前準備」「説明」「編集」「発表準備」の詳細を記す。

(i) 事前準備 (授業者)

- ①iPad11台 (10班+授業者用) にiMovieアプリをダウンロード
- ②ニュースで選択する写真9枚をiPad内のカメラロールに保存
- ③iMovieの新規プロジェクトに、オープニング (映像とBGM) 5秒を作成
- ④プロジェクトを4クラス分コピーし、他の10台のiPadも同様のプロジェクトを作成
- ⑤授業者用のiPadをHAMIケーブルで電子黒板に接続し、ミラーリングができるか確認
- ⑥生徒用編集操作マニュアルを製作 (資料3、資料4)

(ii) iMovie (iPad用アプリ) 操作方法の説明 (10分)

- ①編集操作マニュアルを班に一部配布
- ②電子黒板にiPadを接続し、ミラーリングで操作手順を実演 (写真1)

使用するアイコンを示すときは、直接電子黒板を触って説明した。

操作の実演では、実際に写真の挿入、並べ替え、撮影、録音、削除をして見せた。

生徒は実演をよく聞いていて、マニュアルを見なくてもすぐに撮影・編集していた。

作業に入ってから操作についての質問があったが、T.T.であったのですぐに対応できた。



写真1 iMovie 操作説明

(iii) 編集 (30分)

- ①企画書に従って写真を並べる。(写真2)
- ②授業者に見せ、正しいプロジェクトを使用しているか確認を受ける。
- ③企画書に従って、オープニング映像とコメンテーターの発言を撮影する。
(写真3)
- ④企画書に従って、ナレーションを録音する。
- ⑤効果音等の演出を加える。

③と④は作業順序が前後しても可、⑤はなくても可、とした。

3部屋に分かれて撮影したが、同時に撮影や相談をしているので、他の班の声がアナウンスのノイズとして入ってしまった。改善が必要な点である。また、ナレーションが早口だったり、声が小さかったりする班が多いので、「話し方」の指導ももっと必要であると感じた。

第3時でニュース編集の例を見せていたので、構成のイメージができていたようだった。

生徒は積極的に授業に参加し、工夫し、30分で全班が1分程度のニュース番組を完成させることができた。



写真2 編集作業風景



写真3 撮影風景

(iv) 放課後 全班の発表準備 (授業者)

- ①全班の制作したニュース番組の内容を確認する。
- ②すべてのニュース番組を1台の発表用iPadにまとめて入れる。
- ③iPadを電子黒板に接続し、制作したニュース番組が表示できるか確認する。

(5) 第5時 編集したニュース番組を発表する。

- ①編集意図の発表用原稿を書く。(資料2)
- ②各班のニュース番組を見て、編集の工夫点とそれによってどう感じたか、編集意図を読み取る。(写真4)
- ③制作した班から編集意図を発表する。
- ④「ニュースの見方を考えよう」を読んだり、実際にニュースの編集をしたりして分かったこと・考えたことを書く。



写真4 発表と評価の様子

第5時で生徒が気づいた「編集の工夫」を以下に挙げる。

- ・日本選手ががっかりした写真を選んでいる。または、選んでいない。
- ・ドイツ選手が喜んだり、活躍したりしている写真を選ぶことで、日本の残念さが際立つ。
- ・ナレーション原稿で監督のコメントが2種類あったが、制作者の意図に合わせて選んで使っている。

- ・コメンテーターに制作者の意図が表れるような直接的な発言をさせている。
- ・キャスターの声の調子や、表情の明るさ、または、暗さが制作者の意図を表している。
- ・番組の後の方にある情報の方が、印象に残りやすい。番組構成に制作者の意図が表れる。
- ・字幕を使って、伝えたいことを印象づけている。
- ・拍手や声援の音響演出を加えることで、臨場感をだしている。

今回は、撮影と編集を30分という短い制限時間の中で行った。こだわった演出をしていくのは難しい中で、字幕や音響効果を入れて編集できた班もあった。

生徒を指名して、他の班のニュースの工夫点と受けた印象を発言させたが、その発言内容から、ほとんどの班が制作意図を視聴者に分かるように制作し、視聴者となる生徒もそれを捉えることができていたように思われる。

ただし、上記の工夫の要素の中の「健闘を中心に伝える」ものと、「残念さを中心に伝える」ものが組み合わせあった編集をして、編集意図が分かりづらくなっていた班もあった。

5. 授業後の生徒アンケート結果とその考察

(1) 授業後の生徒アンケート結果

第5時終了後に、欠席者を除いた155人から回答を得た。質問4と質問5については、主な回答を載せる。

なお、全体の半数に当たる男子生徒は、すでに体育の授業でiPadを使用している。

質問1：今回の授業以前にiPadを使ったことがあるか。

- ある92人（体育の授業以外で「使ったことがある」だと 43人）
- ない63人

質問2：(質問1で「ある」と答えた生徒のみ回答)

体育の授業以外で使ったことのあるiPadは、誰のものか。

- | | |
|---------|-----|
| 自分 | 2人 |
| 家族 | 31人 |
| 友人 | 2人 |
| 習い事・クラブ | 2人 |
| 小学校 | 6人 |

質問3：今回の授業以前にiMovieを使ったことがあるか。

- ある 4人
- ない 151人

質問4：iPad(iMovie)を使ってニュース番組を作ってみて、良かった点は何か。

- ・表示がわかりやすかった。感覚的に操作できた。
- ・画面が大きくて見やすかった。画像や音がきれいだった。
- ・作ったニュース番組を、その場で、何回も再生して確認することができた。みんなで確認しながら編集作業を進めていった。
- ・みんなとアイデアを出し合い、協力して作業できた。
- ・タップする操作（マウスではなく直接手で操作できる）が簡単だった。
- ・自分のしたい操作がタップだけでできるので、時間がかからなかった。面白かった。
- ・途中で簡単に画像の順番や長さを変えることができた。間違ってもすぐに取り消しができた。
- ・効果音やBGMを入れられて、自分たちのオリジナリティが出せた。
- ・いろいろなBGMが入っているので、場面に合わせて変えられるのが便利だった。
- ・iPadだけで動画の撮影、アナウンスの録音ができた。映像や音声の読み込みが速い。
- ・動画やアナウンスと、写真（静止画）を組み合わせる編集ができる。
- ・遊んでいる感覚でできて楽しかった。
- ・今までに使ったことのない機器を使って作業するので、興味が沸いて楽しかった。
- ・「本物のニュース」らしくできた。
- ・達成感があった。完成作を見て、作った甲斐があったと思った。
- ・他の人とは違う、「自分たちだけのもの」を作ることができた。
- ・実際に「編集」ができた。
- ・実際にニュース番組を作ることを体験し、「意図を持った編集」が分かった。
- ・編集者の意図によって、使う写真やコメンテーターのコメントが変わることが分かった。
- ・ニュース番組の作り方に興味が持てた。ニュースをただ見るだけでなく、考えて見るようになった。

質問5：iPad(iMovie)を使ってニュース番組を作ってみて、悪かった点・難しかった点は何か。

- ・班のみんながiPadを触りたがって、作業がなかなかすすまなかった。
- ・失敗したときにどうやって、元に戻せばいいかわからず戸惑った。
- ・iPadの画面上に指以外が触れたときも反応していた。タップしても、反応しているかどうかわかりにくかった。細かい部分を手で操作するのは難しかった。ミスタッチで、動画を消去してしまった。
- ・カメラ部分がどこか分からず、動画撮影のときにどこを見れば良いか分からなかった。
- ・iPadを持つときに、録音マイク部分を手でふさいでしまうことがあり不便だった。
- ・周りで撮影している班の声が入ってきた。
- ・iPadと離れて撮影していると、音声が入りにくかった。
- ・映像と音声の長さが合うように調節するのが難しかった。
- ・写真が動く設定になっていて、自分たちが映したい部分が中心に映らなくなっていた。
- ・ニュースのオープニング映像（授業者が作成したもの）がすでに入っていたが、それぞれ班が自分たちでオープニングを作れたら良かった。

- ・字幕や効果音を入れたかった。時間が足りず、字幕や効果音を入れるのが難しかった。
- ・写真ではなく、動画で編集をしてみたかった。
- ・普通のビデオカメラに比べ、ズームインやズームアウトがしにくい。手ぶれが伝わりやすい。
- ・撮影のときに緊張して、顔が引きつったり、声が小さくなったりした。
- ・意図が伝わるように編集しようと、写真や文を選ぶのが難しかった。

(2) アンケート結果からの考察

iPadを使用したことがある生徒は多いが、日常的に使用しているわけではなく、iMovieについてはほとんどの生徒が初めて使うという状況だった。

しかし、一度の説明で、大まかな使用方法は理解し、すぐに作業にとりかかっていた。実際、多くの生徒が、速く、そして思い通りに編集作業ができたと回答している。また今回は、1時間で撮影、録音、編集をするということで、時間に制限があったため最小限の操作方法しか説明しなかったが、動画編集や、字幕を入れるといった、もっと凝った編集をしたいという希望が多く出ていた。

これらのアンケートの回答から、自分たちの意図を伝えることや独自性を出していくことに夢中になり、楽しく工夫しながら編集作業をしていたことが伝わってくる。iPad (iMovie)を使うことで、編集「作業」へのストレスを軽減し、編集「内容」に集中させることができたと言えるのではないだろうか。

6. おわりに

今回の実践では、期待通りの反応を生徒から概ね得ることができた。生徒のワークシートの記入内容やアンケート回答から、実体験を通して知識を身につけることができたと言えそうだ。ただし、この授業を行う上で、機器を貸していただいたり、操作方法を教えていただいたり、T.T.に協力していただいたりと、多くの方にお世話になっている。果たして、他の学校、違う環境でもこの実践は生かせるのだろうか。

文部科学省は2011年4月にまとめた「教育の情報化ビジョン」で、電子黒板やタブレット型PCなどを授業でフル活用して、一斉授業や個別学習はもとより、子どもたち同士が教え合ったり、学び合ったりする「協働学習」を推進するよう提言している。また、政府は「新たな情報通信技術戦略」の中で2020（平成32）年度までに児童生徒一人1台の各種情報端末・デジタル機器を活用した授業の推進を打ち出している。しかし、現時点ではまだその整備が十分に進んでいるとは言えない。

今回使用したiPadは、全生徒への配布が完了していないため、学校で準備しようとする高額な費用がかかる。アプリにしても、同じアプリをコピーして使うことはできないので、iPad 1台ずつにアプリを購入してダウンロードしなければならない。生徒の人数分アプリを購入して、ダウンロードするには、学校のICT機器の一括管理をする管理者が必要となってくる。教員でもよいが、日々の授業や学級経営などで逼迫した状況で、さらに仕事が増えるのはなかなか厳しい。もちろん、新たに管理者を雇用して設置するのも難しいだろう。ゆえに、今回の実践を本校以外で行う場合、費用と管理者という問題が生じてくると考えられる。

また、まだ一人1台の情報端末がないということは、「共有」の問題も生んでいる。いくら1台が軽いiPadでも、授業者一人で数十台をもって教室間を移動するのは重労働である。そのため、今回は特別室にiPadを置いておき生徒が来て使うようにした。さらに、4人班に1台のiPadを使い、1台のiPadの中に4クラス分のプロジェクトを保存させていたので、別のクラスのプロジェクトを開いて消さないように指導する必要があった。

そして、場合によってはT.Tが必要になってくるので、先ほどのICT機器一括管理者などと連携していく必要がある。今回の授業は、録音するのに静かな場所が必要なため、三つの教室を使用し、お互いに譲り合いながら録音をさせた。しかし、複数グループが一斉に同じ教室で撮影や編集をしているので、やはりお互いの班の音が気になっていた。班をさらにばらばらになるように撮影場所を指定することもできるが、生徒の安全確保や操作方法の援助の面からT.Tで行うのが望ましいだろう。

学習環境はなかなか変えられるものではないと思う。逆に道具だけそろっていればいいというものでもない。授業で扱うことの本質を理解しておくこと、理解しようと努めることを大切に授業をしていきたい。その上で、教える内容に適切な教材を選んでいくことは、今までも、そしてこれからも変わらないと思う。

7. 参考文献

- ・松山雅子編「自己認識としてのメディアリテラシー PART 2」教育出版,2008

Practice of the Media Literacy Education Using iPad

—Through editing the news program—

YAMANE Masako

In recent years, multiple expressions produced by images and audios, and interactive media information have penetrated our daily lives increasingly. In this lesson, the students learned that the news program is edited through the producers' censorship and how to select the information properly. In order to reduce the stress of the editing work and to carry it out effectively, the lesson which utilized the video edit application iMovie of iPad was tried.

Key Words : Japanese education, media literacy, editing, news program, iPad

ニュース番組分析

	ナレーション	映像 (どのような場面か)
導入部		
前半	<p>次は、サッカー女子の決勝です。 なでしこジャパンは、1対2でアメリカに敗れ、金メダルはなりませんでしたが、オリンピックのサッカーで、男女を通じて初めての銀メダルを獲得しました。</p> <p>起頭の頂点へ、勝ちたい気持ちでは負けないと日本、相手は3連覇を狙うアメリカ。去年のワールドカップ決勝と同じ組み合わせになりました。</p> <p>序盤はアメリカのペース、いきなり攻め込まれます。</p> <p>前半8分、ロイドのゴールで先制されます。</p> <p>日本はサイドから攻撃を展開、リズムを取り戻します。</p> <p>川澄から大機見、33分には宮間。</p> <p>ゴールをわることはできず、1点をリードしたまま前半を折り返します。</p>	<p>胸に手を当てて、勝利を願っているが国歌を歌う日本とアメリカの選手。</p> <p>円陣を作って気合いを入れる日本。</p> <p>アメリカのシュート。裏手アメリカ。</p> <p>指示を出す佐々木監督。サイドからの日本のシュート。</p> <p>何度もシュートしている日本。</p> <p>指示を出す佐々木監督。</p>
後半	<p>早く同点に追いつきたい日本。</p> <p>しかし、後半9分ロイドにドリブルで持ち込まれます。これで、リードは2点に。</p> <p>それでも日本は素早いパス回しから、18分でした。滑りかねばって、最後は大機見、1点を返します。</p> <p>攻め続けた日本。</p> <p>38分には途中出場の新井。</p>	<p>円陣を作って気合いを入れる日本。</p> <p>ロイドのドリブルシュート。裏手ロイド。</p> <p>パスを何度もしつとにシュートした日本。</p> <p>裏手日本チームと応援団。</p> <p>日本いろいろな方法でのシュートを続ける。</p>
試合終了後	<p>日本、あと一歩及ばず、金メダルには届きませんでした。</p> <p>そして、表彰式。</p> <p>オリンピックのサッカーで日本が銀メダルを獲得するのは男女を通じて初めて、また新たな歴史を作ったなでしこたちが笑顔で大会を終えました。</p>	<p>裏手アメリカ、泣く日本。</p> <p>応援団に挨拶をする日本選手たち。</p> <p>笑顔でメダルを受け取り、手を振る選手たち。</p>

ナレーションから分かる中心として伝えたいこと

- ・金メダルではないが、史上初の銀メダルを獲れた。

映像から感じた編集者の意図(どんなことを表したいか、印象をもたせたいか、)

- ・何度もシュートしていき、後半は攻め続けた。
- ・よい結果である。
- ・日本とアメリカの対照的なようすを表す。

1年日組 橋 希龍

放送 写真配り オープニング 出演	文 記号	企画案
		ナレーション・コメント 原稿
		こんにちは、ニュースの時間です。 まずは、北はオリンピック サッカー女子三試合実況 日本対ドイツ後のインタビュー。 ⑦ ⑧の2つの試合実況で、日本代表のインタビュー、0対2で勝つことになりました。
A	A	日本は前年、得意のパス回しで、ホルンを交響記します。
D	D	前半はブンファンスをものににドイツに、こぼれ球をぬき、日本は先制点を奪われます。
E	E	追いつきたい日本は、リスクを覚悟で攻撃に打って出ますが、後半途中逆にドイツに追いつかれました。
G	G	その後も日本は諦めずにゴールを目指し、サボリも憚りなく、試合終了後には立ち上がり、このあたりで選手もいろいろの感情を表現しました。
キャスター コメンター	キャスター コメンター	⑦⑧の2つの試合実況で、後半は試合結果を伝えます。 ⑨の試合実況で、後半は試合結果を伝えます。 ⑩の試合実況で、後半は試合結果を伝えます。

注BGMは効果を考えて挿入してもよい。
 ・キャスター……ニュースを紹介しながら、司会・進行する
 ・コメンター……ニュースを解説する
 ・発表者……ニュース上映像に番組内容の発表
 ・記録者……カメラマン・資料管理

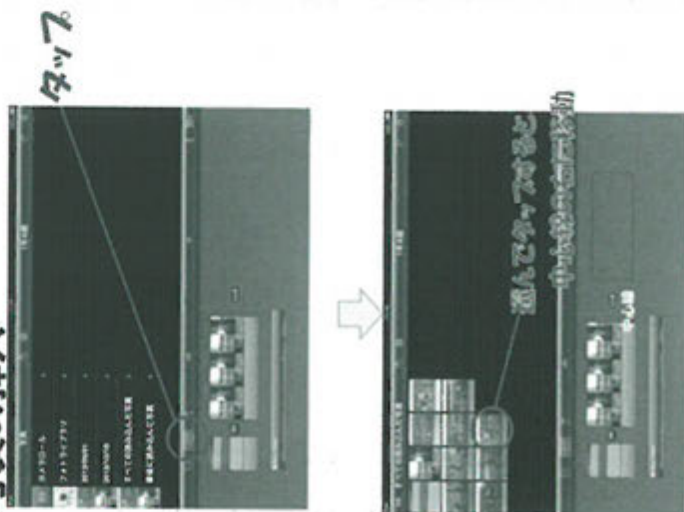
1年日組 橋 希龍
編集案 発表原稿

・どういった番組でどの写真や文を選んだのか、などを書きましよう。
 ・どのような工夫により、どのような効果をもたらしたか、などを書きましよう。

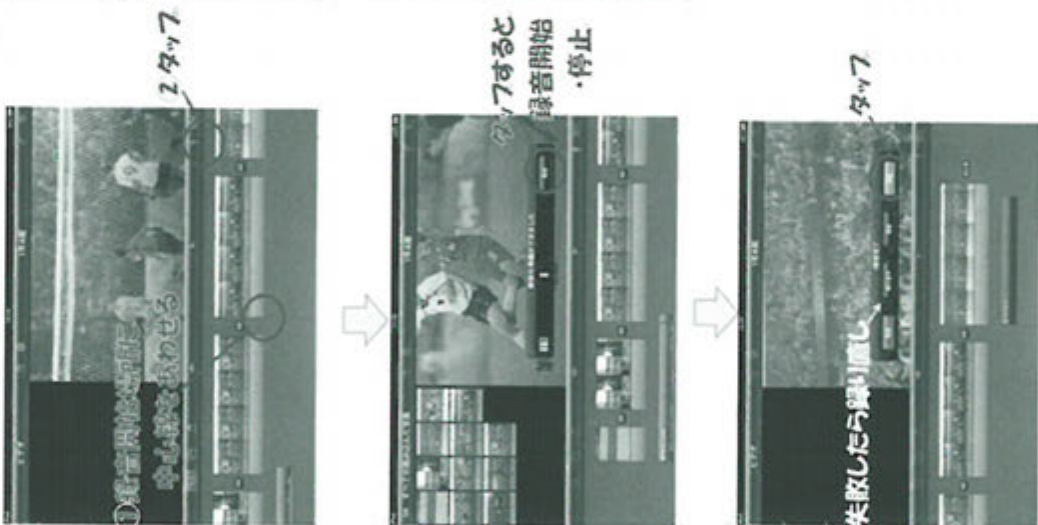
ドイツのゴールシーンを入れて、日本が、おすげいのことを、アピールしたから、BGMでメダルを、ドイツの選手に、メダルをくれたことを、わかりやすく表したかったから。

原	編集の工夫・感じられる理由	
1	試合後選手が抱えている写真など、感動を、伝えている。	ア
2	ドイツに、点が入らないうちに、写真が、来たから、	ア
3	最初、負けという様子が、最後、には、頑張、ていると、解、る。で、頑張、り、を、伝、え、て、ま、さ、し、	イ
4	試合中に、金、で、罰、金、を、取、ら、れ、る、こ、と、を、告、げ、て、ま、さ、し、	ア
5	おしくも、負け、た、と、い、う、こ、と、を、伝、え、て、ま、さ、し、	イ
6	おしくも、負け、た、と、い、う、こ、と、を、伝、え、て、ま、さ、し、	
7	佐々木さんとの言葉で、日本に、恥、を、感、じ、し、て、ま、さ、し、	イ
8	コメントで、おしくも、負け、た、と、い、う、こ、と、を、伝、え、て、ま、さ、し、	イ
9	最終、コメントで、おしくも、負け、た、と、い、う、こ、と、を、伝、え、て、ま、さ、し、	ア
10	佐々木さんとの言葉で、日本に、恥、を、感、じ、し、て、ま、さ、し、	イ

写真の挿入



アナウンスの挿入



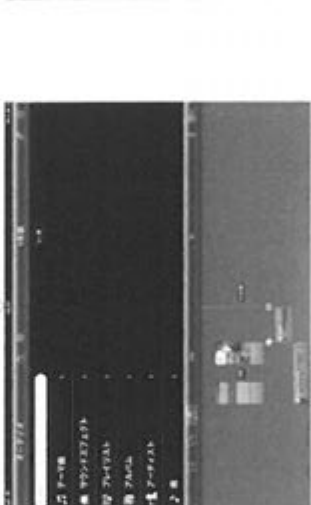
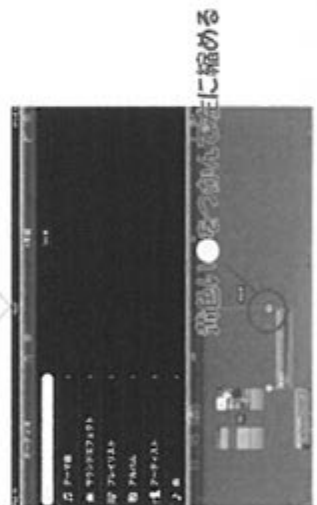
ビデオの挿入



効果音の挿入

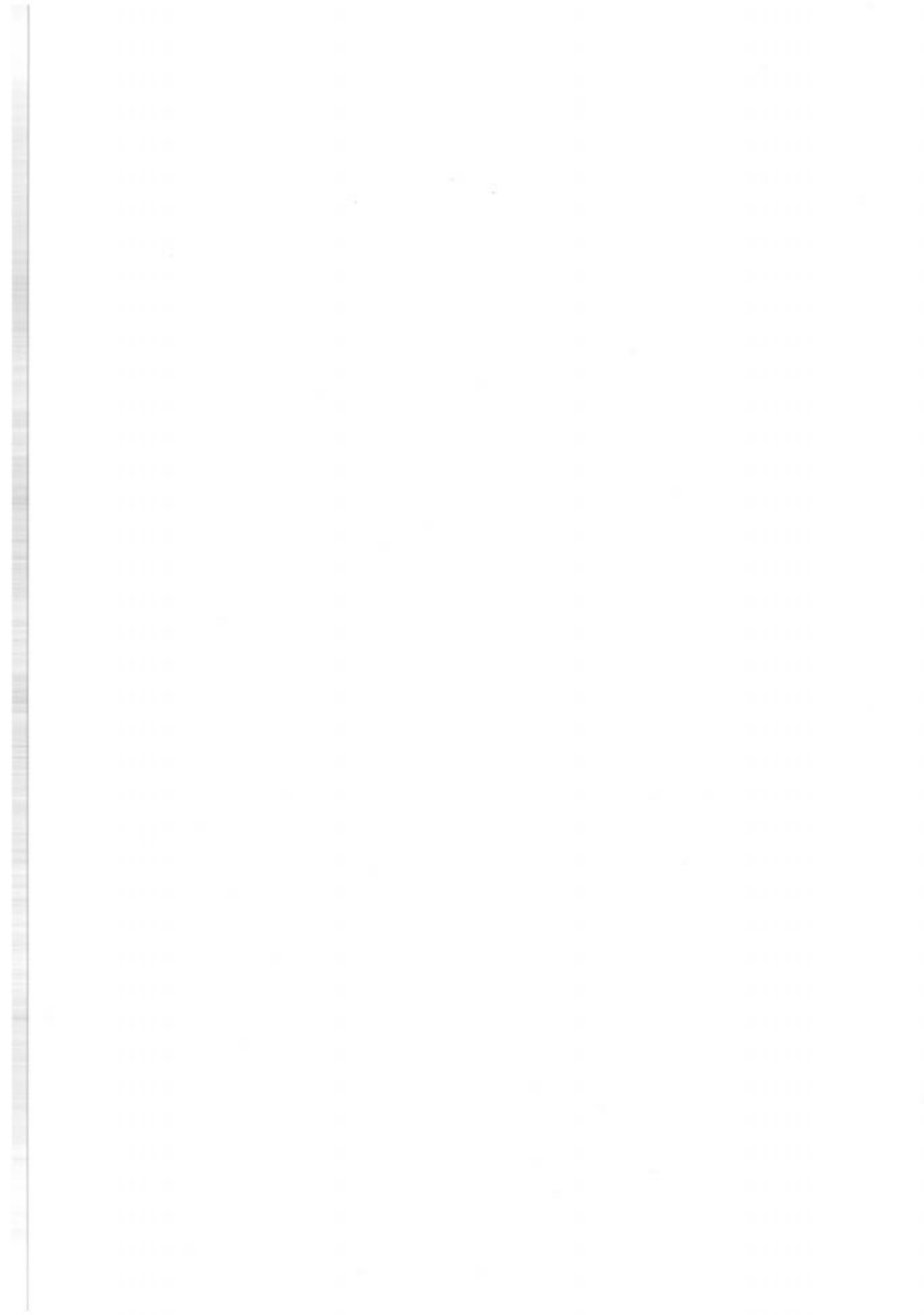


クリップの長さの変更



削除のしかた





時代が見える歴史授業の構築

— 事件と思いでつながる古代の日本 —

い て や あきら
射 手 矢 明

抄録：生徒が身近な問題として古代の時代を思考し表現できたとき、生徒にとってはその時代が見え、歴史授業は楽しいものになる。古代の日本の時代が見える歴史授業は、古代の単元全体を貫く2本の柱と、単元全体を大観する「問い」を設定することによって、構築が可能であると考えた。また、この試みは新学習指導要領で新たに設定された歴史のとらえ方である「学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動」の授業での具体化でもある。

キーワード：歴史教育、古代を大観するための「問い」、単元全体を貫く2つの柱

1. はじめに

本校の教育研究会における社会科（歴史的分野）のテーマは「時代が見える歴史授業」であった。時代が見える授業とは、どのような授業なのか。私は、時代の特色をとらえることが、時代が見えることであると考えた。それでは、授業で生徒にどのようにして時代の特色をとらえさせるのか？それは、中学校学習指導要領の社会科歴史的分野の内容「(1) 歴史のとらえ方」のウとして新設されたものに明記されている。

ウ 学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせる。

すなわち、学習した中で得たその時代の知識を幅広く駆使して、その時代全体に関わるテーマで思考し判断し（これを大観化とする。）、表現することによって、各時代の特色をとらえることができると考えた。そこで、新学習指導要領で時代の全体像を大きくとらえるように構成された古代を取り上げて、古代までの学習の大観化を行い、古代までの時代が見える授業づくりに取り組んでみた。

2. 古代までの学習の大観化

中学校で扱う古代は、学習指導要領の内容「(2) 古代までの日本」に示されてある。この大項目では、12世紀ごろまでの歴史を扱い、我が国の古代までの特色を、世界の動きとの関連に着目して学習させることになっている。従前の四中項目から三中項目になり、従前の中項目アとイが、我が国の古代までの特色を大きくとらえさせる観点から一つにまとめられた。また、小学校での学習の単なる繰り返しにならないように留意し、その内容

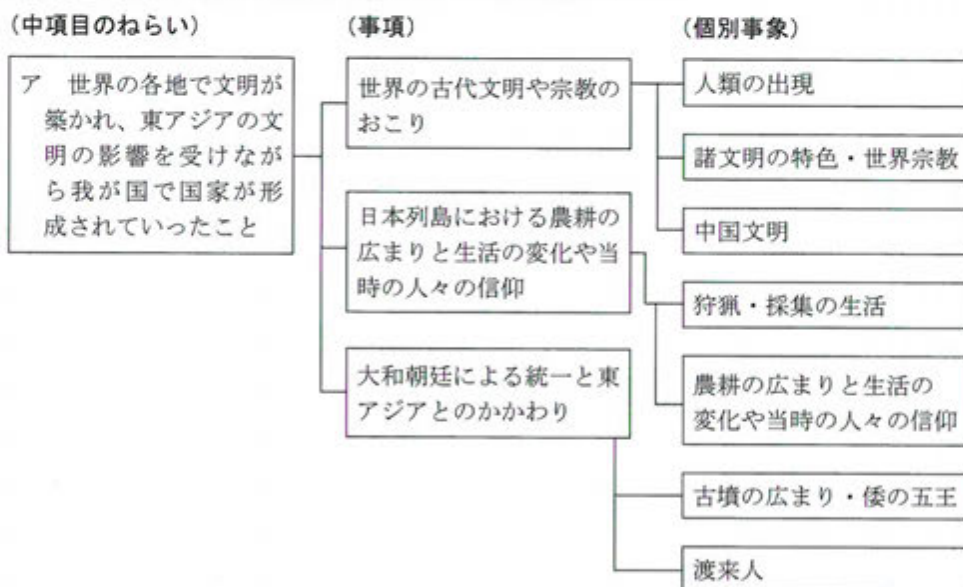
を有効に活用しながら、時代の全体像を大きくとらえるようにすることも示されている。次に、学習指導要領に示されているこれらの内容を授業として具体化し、古代までの時代が見える授業をどのように構築していくかについて述べる。

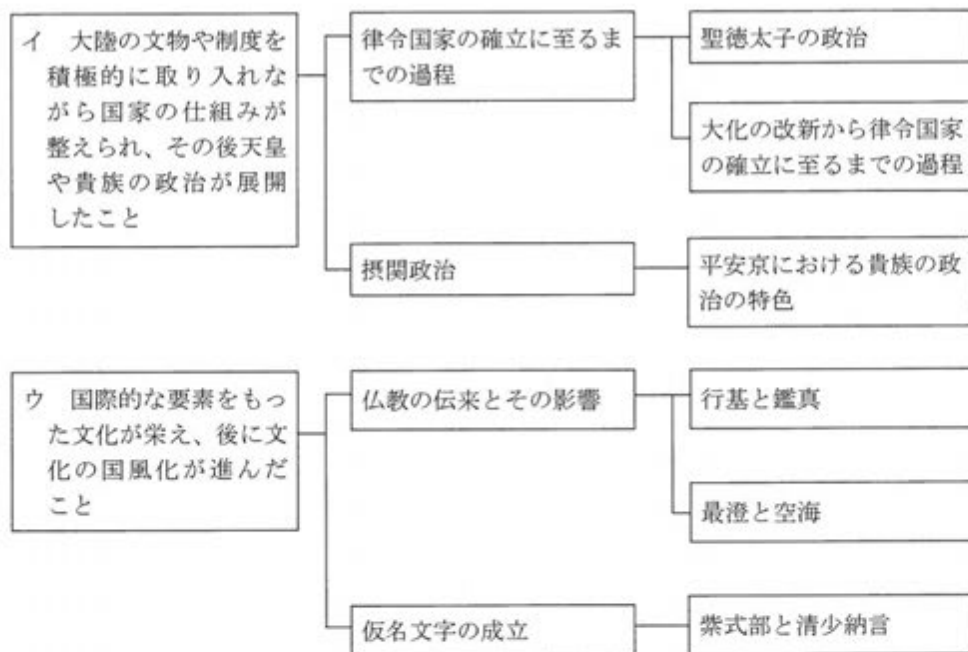
3. 学習内容の構造化と焦点化

各時代の特色をとらえることは、歴史的分野の基礎・基本の学習である。また、歴史的分野の学習の中心である「我が国の歴史の大きな流れ」の理解のために踏まえるものとして新しく位置付けられている。各時代の特色をとらえる学習は、学習した内容を活用して大観し表現する活動を通して行くと学習指導要領に示されている。それでは、生徒が時代の特色をつかむために、まずどのような内容を学習しなくてはならないのかを整理してみたい。すなわち、学習内容の構造化を行い、理解すべき学習の焦点を明確にし、さらにそれらをどのように活用し大観するのかを明確にしながら、古代までの時代が見える授業の構築について述べたい。

まずは、学習指導要領の内容の「(2) 古代までの日本」の構造化図を作成し、古代の学習で何を学ばせるのか整理し、生徒に理解させる学習内容を明確にした。(図1参照)次に、古代を大観するためには構造化図で浮かび上がってきた個別事象を単発で取り上げるのではなく、生徒の思考が途切れぬように各個別事象をつなぐことによって古代の単元全体を大観しやすいようにする必要があると考えた。

【図1】 内容の「(2) 古代までの日本」学習内容の構造化図





4. 古代を大観するための「問い」と、単元全体を貫く2つの柱

各個別事象をつなぐために、古代を大観するための「問い」と、単元全体を貫く2つの柱を設定した。古代を大観するための「問い」としては、「古代を代表する人物は誰か？」と生徒に問うことにした。この「問い」にした理由は、小学校での人物中心の歴史授業の流れを引き継ぐことで、生徒が古代の歴史について思考しやすくなるということ。もう1つは、生徒が苦手としやすい文化の学習においては、内容(2)の取り扱いに「文化を担った人々などに着目して取り扱うようにすること」と学習指導要領では人物中心で取り上げることを奨励しているようにも読み取れるということ。それらの理由から、人物を中心に考える方が、生徒は古代の人物に自分の思いや願いをこめやすく古代の歴史を身近な問題として思考しやすくなると思った。また、内容(2)の取り扱いエの「当時の人々の信仰やものの見方などに気づかせる」ことにも留意した授業作りがしやすくなると思った。

まず単元の始めに、「古代を代表する人物は誰か？」の討論会を実施することにした。始めに大観させる「問い」を設定したねらいは、学習前の生徒達がどのような古代のイメージを持っているのかを把握し、それをもとに単元全体の学習課題を設定するためである。

討論後の生徒達が、古代を代表する人物と考えた人物の集計結果は図2のようになった。聖徳太子が圧倒的に多く半数以上を占めた。ここに上がってきた人物に対して生徒達は興味を示していることがわかった。そこで、生徒が上げてきた人物に関する事件を取り上げ、各事件をつなげていけば、生徒達の興味・関心が継続する単元全体を貫く1つの柱ができると考えた。

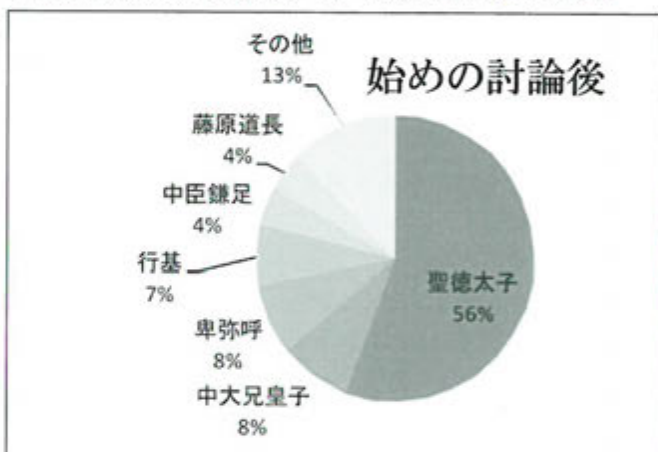
(※ 聖徳太子に関しては中世以降の太子信仰の中で生まれた話を根拠にしている生徒が多くいた。そのため、できるだけ中世以降の伝承を除いた古代の聖徳太子像を生徒に理解させる必要を感じた。そこで、聖徳太子不在論を交えた討論会を組みこんだ。)

ただ、ここで取り上げた事件は、当時の事件だけでなく今日議論になっている事も含めて広い意味での事件としてとりあげた。生徒達の興味・関心にそった事件を並べ古代を考え合う授業を設定してみた。しかしながら、各事件を並べてみると、それぞれの事件に明確なつながりが無く、また貴族や天皇家内の権力闘争だけの理解になるおそれがある。そこで、当時の人々の思いが込められている「もの」に着目し、当時の人々がその「もの」にどのような思いを込めているのかまた、この思いが次の時代にはどの「もの」につながっていくのかを考えながら、当時の人々の信仰やものの見方を考える授業を、事件と並列させて単元計画の中に組みこんでみた。これを二本目の単元全体を貫く柱とし、もう一本の各事件の柱と並立させ、二本の柱によって単元全体を貫く柱とした。

そして、まとめとして単元全体の終わりに古代を大観するための「問い」でもう一度討論会を行い、議論を通して古代が見える授業を展開したいと考えている。(図3参照)

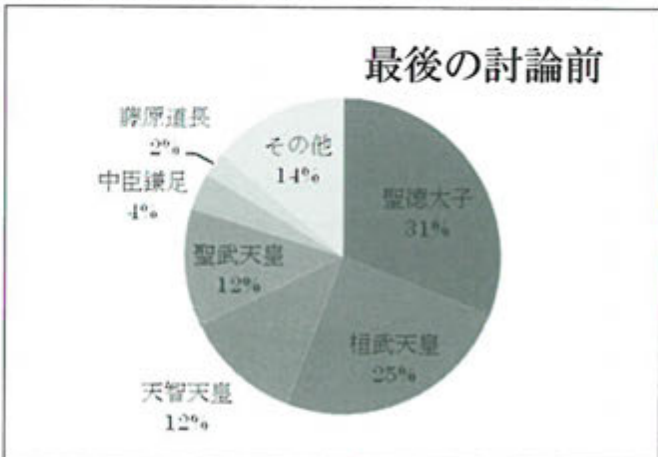
【図2】

「古代を代表する人物は誰か？」での始めの討論後の集計



その他の内訳	人数
鑑真	3
坂上田村麻呂	2
聖武天皇	2
菅原道真	2
山上憶良	2
ワカタケル大王	2
わからない	2
小野妹子	1
桓武天皇	1
最澄	1
藤原清衡	1
藤原不比等	1

「古代を代表する人物は誰か？」での最後の討論前の集計



その他の内訳	人数
藤原不比等	3
光明皇后	3
菅原道真	3
蘇我馬子	2
天武天皇	2
坂上田村麻呂	2
空海	2
神武天皇	1
卑弥呼	1
行基	1
最澄	1
藤原頼通	1

【図3】「古代までの日本」の単元全体の構想図

	思いのつながり	事 件	その他
旧石器時代	◎日本人のルーツと縄文時代（3時間） ○旧石器人はなぜだったのか？ ・野尻湖、岩窟遺跡から考える。	○旧石器時代の埋蔵事件から ・相沢忠洋の熱意にせまる。	◎人類の始まりと文明（4時間） ・人類の誕生 ・世界古代文明
縄文時代	○土器にこめた思いは？ ・縄文、弥生土器の比較から考える。		・中国文明 ・宗教のおこり
弥生時代	◎古代の始まり（2時間） ○古代を代表する人物は誰か？（古代を大観する始めの問い）		【討論会】
	◎稲作の広まりと弥生時代（3時間） ○銅鐸にこめた思いは？ ・銅鐸の定礎から考える。	○弥生人はどうして戦争を始めたのか？ ・縄文、弥生の集落の違いから考える。	
古墳時代		○邪馬台国はどこだ？（卑弥呼） ・色々な説をもとに考える。	【討論会】
	◎ヤマト王権と渡来人（3時間）※中国・朝鮮の統一を含む ○古墳にこめた思いは？ ・平形の意味か？	○ワカタケル大王は偉大な王か？（雄略天皇） ・日本書紀、古事記の話をもとに考える。	◎夏休みの宿題 「古代を代表する建造物調べ」
飛鳥時代	◎蘇我氏と聖徳太子（2時間） ○寺院の塔に込めた思いは？ ・寺院の伽藍配置と飛鳥寺の塔の下から出てきたものから考える。	○聖徳太子の正体は？（蝦夷王） ・偉大な人物説から、実在しなかった説までを含め古代の聖徳太子像について議論する。	【討論会】
奈良時代	◎律令国家をめざして（2時間）	○入鹿は悪いのか？（中大兄皇子、中大兄天皇） ・大化の改新から壬申の乱までを、中国・朝鮮の統一も含めて考える。	
		○藤原京とは？（天武天皇、持統天皇） ・短期間で都の役目を終えた理由を考える。	
	◎奈良の都と律令制下の暮らし（2時間） ○大仏に込めた思いは？（聖武天皇、行基、鑑真） ・行基と鑑真の違いをもとに、盧舍那仏造立の意味を考える。		

◎京都の都（2時間）

○密教に何を期待したのか？
・最澄と空海の業績から考える。

○天皇が目指した理想の日本国とは？
(桓武天皇、坂上田村麻呂)
・藤原緒調の建議から考える。

◎摂関政治（3時間）

○道長は天皇権力の篡奪者か？
・摂関政治の仕組みから考える。

◎冬休み宿題
「古代を代表する人物調べ」

○阿弥陀如来に何を期待したのか？
・当時の社会背景から考える。

○紫式部と清少納言
・国風文化の特徴を考える。

◎武士の登場（2時間）

○平将門と藤原純友は何故反乱をおこしたのか？
・反乱をおこした背景について考える。

○源義家は英雄か？
・粉河寺縁起絵巻、後三年合戦絵巻から当時の武士の実態を考える。

◎古代のまとめ（2時間）

○古代を代表する人物は誰か？（古代を大観する最後の問い）

【討論会】

5. 古代のまとめ2 / 2時の展開(古代を大観する最後の問いの授業)

本時のテーマ 古代を代表する人物は誰か。

本時の目標

- ・今までに学習してきた事をもとに自分の考えを持って討論に参加しようとする。
- ・古代とはどのような時代なのか自分の言葉で説明できる。

本時の展開

学習活動	時間	指導上の留意点	資料(準備物)
○古代の代表的な人物のジャンル分けをして、共通点を探る。	10	○各人物の共通点を上げさせ、討論の内容をかみ合わせる素地をつくる。	古代の年表
古代を代表する人物は誰か。			人物肖像画
○討論の対象となる人物を確認にし、各人物の良さをアピールをする。	10	○キーワードを上げ、その根拠も明示させる。	
○古代を大観しながら討論を行う。	20	○各人物の事件性、当時の人々の思いを根拠に話し合いをさせる。	
○古代とはどのような時代なのか説明する。	10	○ノートにまとめさせ、時間があれば発表させる。	

6. おわりに

平成24年度の本校での教育研究会の社会科のテーマが「時代が見える歴史の授業」であった。その教育研究会で実践した内容をここに報告させていただいた。このテーマは平成18年度の時のものをそのまま借用させていただいたものである。また、今回の私の実践報告の題名も、「時代が見える歴史授業の構築」とほぼそのまま借用させていただいた。このテーマに決まったとき、まず始めに「時代が見える」ということはどのようなことなのか、自問自答してみた。

考えるきっかけにしたのは今である。今の時代が見えたと思うときはどんなときだろうと考えた。まずは、今起きているわからない出来事をもっと知りたいと思う。どのような仕組みで、どのようなところでなど、見てわかるものに、まずは目が行く。しかし、見て読んで聞いて得た知識だけでは、「時代が見えた」という実感はわからない。得た知識をもとにそれに関わった人物や周囲の人々がどんな考えや思いを持っていたのかを推測し（考えるときは一人より複数の人と意見交換するのがいい。）、一定の落ち着いた解答に行き当たったとき（中には「よくわからない」が解答の場合もある。）、「時代が見えた」という実感がわいてくる。そのような私なりの推理を踏まえて、「時代が見える歴史授業」とは、興味を持っている出来事を調べ、それで得た知識をもとに当時の人々の考えや思いをあれこれ考え合うことが、「時代が見える歴史授業」であると考えに至った。

古代の学習は解らないことがたくさんあって楽しい。新たな遺跡の発掘結果を受けて古代は過去の決まった事ではなく、現在も内容は流動的である。教科書や資料集に出ていることも、これから新たな発見や学者の新説を受けて、変わるかもしれない話題性のある出来事がたくさんある。この出来事を事件として、とことん調べ、調べたことをもとに当時の人々の思いにあれやこれやと推測するのは、私も生徒も楽しかった。また、当時の人々の考え方に思いを馳せるとき、今の私たちの考え方がベースとなり考えてしまう。そこに、知らず知らずのうちに古代と今の接点が見えてくる。古代の学習は過去の学習ではなく、今の学習であるという実感が自然と湧いてくる。

【参考文献】

- ・相沢忠洋『『岩宿』の発見』（講談社 2010年）
- ・岡村道雄「縄文の生活誌」（講談社 2002年）
- ・寺沢薫「王権誕生」（講談社 2000年）
- ・熊谷公男「大王から天皇へ」（講談社 2001年）
- ・渡辺晃宏「平城京と木簡の世紀」（講談社 2001年）
- ・坂上康俊「律令国家の転換と『日本』」（講談社 2001年）
- ・大津透「道長と宮廷社会」（講談社 2001年）
- ・文部科学省「中学校学習指導要領解説 社会編」（平成20年）
- ・朝倉啓爾・伊東純郎・橋本康弘「中学社会をよりよく理解する」（日本文教出版 平成20年）
- ・射手矢 明「時代を大観し表現する授業の構築」（附属天王寺中・高 研究集録 第54集 平成24年）

An Approach to the Teaching of History which enables Students to see the Times

— Ancient Japan seen from the linking of the events with the thinking,
feeling, and believing of the time —

ITEYA Akira

If students think of the ancient times as the present day and express themselves, they will come to see the times and will find the study of history interesting and fascinating.

I think it possible to realize the teaching of history which enables students to see the times of ancient Japan, by setting two pillars in the unit and also the 'questions' which help students to take a general survey of the unit.

And also this approach, I believe, will embody a new item in the New Course of Study— 'activities which enable students to take a general survey of the times and express themselves' .

Key Words : The teaching of history

The 'questions' which help students to take a general survey of ancient times

Two pillars in the unit

人口減少社会を学ぶ公民の授業

—量から質への転換—

かわ ち しゅう じ
川 地 秀 治

抄録：日本は少子高齢化が進み、人口が減少している。このような状況であるため、日本社会は量の減少を避けられない。それを補うため、日本社会は質の向上を目指す必要がある。その状況を踏まえた授業を展開し、生徒の生きる力を養う。

キーワード：少子高齢化社会、人口減少社会、量の減少、質の向上、生きる力

1. はじめに

国立社会保障・人口問題研究所によると、1億2800万をこえていた日本の人口は、2030年に1億1522万人、2050年には1億を切り、2100年には4771万人まで減少することが予想されている。

第一次世界大戦の時代まで、産業革命後ヴィクトリア女王のもとイギリスが繁栄した。このころの時代の列強国は、工業力、軍事力、進んだ文化・制度・技術を発展させることをめざし、植民地・勢力範囲を広げることが列強の条件として考えられた時代でもあった。その国力の源泉の1つとして、国の人口が大きく影響していた。

もちろん、現在は列強国が植民地を拡大する時代ではなく、一概に人口が多ければ良い、という時代ではない。

しかしながら、国力という観点から言えば、人口は大きな要素の1つである。単純に考えれば納税額が増加することは考えにくい。公債残高が増大していく一方で人口が減っていくことは財政上も極めて深刻な状況である。すなわち、社会保障をはじめ、防衛、教育などにしわ寄せがいくことになる。さらに、2012年12月におこった笹子トンネルの事故でクローズアップされたが、公共事業に関しても、新規事業とともに高度成長期を中心に作られたインフラの補修点検も重要事案として浮上している。さらに生産年齢人口の減少による購買力・市場の減少、高齢者人口の増大による社会保障の負担はまぎれもなく近年の日本のデフレ傾向にある経済の伸び悩みを招いており、日本の国力を損なっている。

また、漁船衝突事件以降クローズアップされてきた尖閣諸島問題は、2012年9月の野田内閣による閣議決定で尖閣諸島の国有化が発表されて以降、中国の多数の都市で反日デモが多発した。その後、日本製品の不買運動が長期化し、日本経済にも少なからず影響が生じている。さらに、中国の海洋監視船の尖閣諸島領海侵入も常態化し、さらに中国国家海洋局所属の航空機による領空侵犯が生じるなど、対立がさまざまな面で生じている。こ

の背景としては、いろいろな要因があるとは考えられるが、大きな理由としては、中国の外交姿勢は経済的な実力の裏付けがある。すなわち、1990年には日本のGDPは中国の約8倍（世界国勢図会）であったが、2010年に中国が日本のGDPを抜くなど、中国の経済発展と、失われた20年といわれるバブル崩壊以降の日本の伸び悩みが大きいことは紛れもない事実である。

もちろん、中国と仲良くつきあうことは大切である。ただ、地理や歴史を学んでいけば分かるように、領土問題はすんなりと解決する問題ではなく、すぐにでも戦争に発展する事象である。第一次世界大戦時、イタリアが三国同盟から離脱した大きな要因は南チロル地方をめぐる領土問題であるし、ダンツィヒをめぐる領土問題により勃発した第二次世界大戦、ダマンスキー島（珍宝島）をめぐる中ソ国境紛争、カシミールを巡る印パ戦争、民族分布と国境が一致しないことで生じているアフリカ諸国の紛争など、枚挙に暇がない。例えばフォークランド紛争（民衆の不満が高まっていたアルゼンチンで、アルゼンチン政府がフォークランドの領土問題をクローズアップし、アルゼンチン世論においてフォークランド問題が過熱し、宣戦布告なしでアルゼンチン軍のフォークランド諸島への上陸で始まったイギリスとアルゼンチンの武力衝突）の形式の武力衝突が日中間でも生じないともいえない。というか、固有名詞を変更すれば恐ろしいほど状況は重なっているような気がする。武力衝突が起こらないまでも、我々の子・孫、それ以降の世代にも経済面を中心に様々な形で影響が残る内容かもしれない。

話はそれだが、中国などの新興国の台頭と、日本の伸び悩みは、近年さまざまな面で表面化している。円高による輸出競争力の低下に伴う日本の製造業が試練にさらされる中で空洞化の進行、デフレの進行、高齢化及び生産年齢人口の減少、増大する社会保障、危機的な財政状況など、さまざまな経済面や財政面、社会保障面で厳しい状況にさらされている。それに加え、福島第一原発の被害を含む、東日本の震災被害があるのである。パナソニックの津賀社長が2012年末に「われわれは負け組」と発言するなど、日本を代表する企業ですら、厳しい局面に立たされている企業も少なくはない。

そんな状況の中で、我々の社会を担う人材を育成しなければならないのである。個人的には私の安定した老後の為に、そして何よりも生徒や若者、我々の子孫のために、良い社会を構築しなければならないのである。まあ、出生率がもしかすれば今から急速に回復し、子どもがバンバン生まれるかもしれない。ただ、少なくとも15年や20年は現在の少ない若年人口しかいないので、生産年齢人口の急激な増加は見込めないのである。もちろん、子どもがバンバン生まれることも、現在の状況では少子化が進行した社会が大きく変動しているとは思えないので考えにくい。

とりあえずは、出生率の向上も大切である。出生率が向上する社会の構築も視野に入れる必要がある。ただ、冒頭の国立社会保障・人口問題研究所の予測は、公的なものでもあり、軽視するわけにもいかないだろうし、そうなる公算は少なからずあるだろう。学習指導要領の目標には、「広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」とある。人口減少社会の中で公民的資質を養い、生きる力を育む公民の授業を、どのように興味関心を持たせるか、思考させるか、資料を活用するか、知識を定着

させていくか、ポイントは何かということを中心に考察していきたい。

2. 中学校学習指導要領の公民的分野

公民的分野の2内容の項目は、以下のようになっている。

- (1) 私たちと現代社会
 - ア 私たちが生きる現代社会と文化
 - イ 現代社会をとらえる見方や考え方
- (2) 私たちと経済
 - ア 市場の働きと経済
 - イ 国民の生活と政府の役割
- (3) 私たちと政治
 - ア 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則
 - イ 民主政治と政治参加
- (4) 私たちと国際社会の諸課題
 - ア 世界平和と人類の福祉の増大
 - イ よりよい社会を目指して

以上のような構成である。それを踏まえて行う、人口減少社会の中で量から質への社会を学ぶ公民学習について、次に見ていく。

3. 中学校学習指導要領を踏まえた、公民の学習

学習指導要領を踏まえ、授業のポイントをおさえ、実際にどのように授業を行ったかを以下に確認する。実際の授業は、大阪教育大学附属天王寺中学校の64期生、中学3年生の公民で実際に授業を实践した。用いた教科書は、東京書籍の「新しい社会 公民」である。(1)~のかつこつき数字、ア・イ~のカタカナは学習指導要領の内容である。また、●は教科書の対応する表題であり、そのあとに教科書の頁を記入している。

(1) 私たちと現代社会

ア 私たちが生きる現代社会と文化

現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などがみられることを理解させるとともに、それらが政治、経済、国際関係に影響を与えていることに気付かせる。また、現代社会における文化の意義や影響を理解させるとともに、我が国の伝統と文化に関心をもたせ、文化の継承と創造の意義に気付かせる。

イ 現代社会をとらえる見方や考え方

人間は本来社会的存在であることに着目させ、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考えさせ、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解させる。その際、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任などに気付かせる。

●グローバル化・情報化・少子高齢化・文化、現代社会の見方や考え方（P8～30）

グローバル化についての教科書の内容自体は決して細かくはなく、学習事項も少ない。ただ、現在の日本が置かれている状況を踏まえなければならない根本的な内容が含まれて

おり、個人的には最重要単元の1つであるとも考えている。

おさえなければならないことは、賃金の安い外国に工場がつけられたり日本企業が移転したりするような状況が増加していることである。これが、さまざまな影響を日本社会や生徒の就職に影響を与えている根源的なものが多い。

1 日本の空洞化が進む。

2 技術などの移転が進展し、新興国の台頭が生じ、サムソン・LGの業績に、日本の大手家電が束になってもかなわない状況に代表される、日本の大企業ですら厳しい状況におこまれる。

3 給料の高い日本人の雇用が減少し、大学生の就職難に直結する。また、グローバル化が進展し、日本人大学生の雇用が減少するにも拘わらず、外国人採用が増加する。

4 外国の安い製品の流入により、物価が下落し、デフレ傾向となる。また、安い外国製品に対抗するため、日本国内において比較劣位にある産業を中心に低賃金長時間労働を余儀なくされる状況が生じやすくなる。そのような状況において、ブラック企業などに代表される従業員の劣悪待遇や使い捨て、失業・精神疾患の増大などの諸現象が生じるなどの諸問題が発生する背景にもなっている。

5 2010年に経営破綻したJALなどに代表される、かつては花形であった職業が、外国との激しい競争を強いられ、企業は経営状況の悪化、労働者は待遇の悪化が生じる。

6 かつて社会主義国であったり独裁体制であったりした、知識水準はそれほど低くないが所得の低かった国の社会が冷戦の終結に伴い開放され、その国々への進出が強まる。そのような結果、国際社会全体としては、労働力の安い国に工場が移転し、競争力に劣る産業は賃金が安く待遇が悪くなり、製品価格が安くなる。

授業においては、TPPへの参加をどうするのか、比較優位にある産業を伸ばすのか、比較劣位にある産業を保護するのか、という内容は2年時までの地理的分野の学習で重点的に行った。3年の公民的分野においては、TPP学習を踏まえることもでき、外国人労働者の流入の写真があり、国際協力・多文化社会の項目を踏まえ、日本の外国人労働者の流入について考えた。外国人労働者の就労を積極的に受け入れた方が良い職業と、あまり受け入れるべきではない職業を生徒の中で分類するとしたら、ということを導入にして考えさせ、グループでも討議させた。

ちなみに、職業は、医者、住宅の販売員、石油輸入を行う現地商社員、機械の開発・研究者、介護サービス者、理容師・美容師、弁護士、パイロット、スーパー・コンビニのレジウチ、日本料理人、自衛官、新聞記者、タクシードライバー、看護師・介護員、警備員、農業・農家、パソコンプログラマー、会社社長、駅員、薬の開発者の20である。これは、読んだ人ならすぐわかるが、元ネタの大半は東洋経済の「10年後に食える仕事食えない仕事」である。生徒の将来の職業を考えたときに、とても参考になる本であるが、中学生にはもちろん難しい部分が多いので、本質を考えさせるような展開を考えて行った。

情報化に関しては、インターネットの普及が大きいことはしっかりおさえる。教科書においてはインターネットのホームページの活用や、コンピュータによる商品管理、インターネット利用の注意が扱われている。しかしそれだけではなく、経済的な影響としては、ローンや楽天がアマゾンに強く意識した経営を見せるように、電子商取引が急激に普及している。さらに、2012年4月の英のエコノミスト誌で使われるようになった、「第三次産業

革命」ともよばれる、インターネットの普及による生産様式の変化である。

20世紀は大企業による大量生産・販売による生産方式であったが、21世紀はインターネットを用いた双方向性を活用し、小回りのきく個人の趣味・嗜好を重視した生産方式が台頭するというのである。従来型の下請け製造業→大手メーカー→小売り→消費者の流れから、消費者が下請け製造業・小売店・大手メーカーさまさまにはたらきかける生産へと変動しつつある。また、アメリカでは家電量販店のショールーム化が進行し、家電量販店で品物をチェックし、家に帰ってインターネット販売の安いところで購入するという事象が進行し、家電量販店が苦境に陥っている現状があり、日本でもそのような状況が進行しつつある。

実際の授業においては、経済分野の消費生活と流通の単元を中心に行った。某テレビショッピングのネタを導入し、通販で購入してもかまわない品目と店舗で購入したい品目を、選ぶとともに、協議させた。品目としては、おにぎり、いちご、おかし、おせち料理、服、くつ、めがね、パソコン、デジカメを用いた。それを通じて情報化の学習を行った。そして、第三次産業革命は時間の関係もあり、状況を確認するだけにとどめた。

少子高齢化は、本稿の中心要素である。はじめにもあるように、近年の日本の本質を考えさせる単元である。押さえるべき内容は、単純に言えば、①若年人口の減少②高齢人口の増加③生産年齢人口の減少である。その要因として出生率の減少と平均寿命の増大である。教科書内容としては、これをおさえるとともに社会保障の懸念と、今後の高齢社会のありかたを記している。

しかしながら、この内容の本質は、非常に奥が深い。社会保障は増大するのに対し、納税者である人口、特に主体となる生産年齢人口や、将来の生産年齢人口である若年人口が減少するのである。したがって、教科書では年金負担の表現にとどまっているが、財政的にも極めて深刻な影響を与えることがらである。国力の低下にも直結し、象徴的なこととして韓国の公式な名称発表の順が、2010年まではアメリカ→日本→中国という形で国名を紹介していたのが、中国が日本のGDPを抜いた頃から、アメリカ→中国→日本と変わってきているのである。

生産年齢人口をはじめとする日本の人口減少が、日本の百貨店の業績不振に象徴される内需の減少となり、自動車や家電のみならず日本の広い産業に販売不振という形でしびよっているのである。それが、デフレの進行、ひいては円高傾向（デフレは物価の下落＝貨幣価値の上昇、つまりこの場合は円の上昇）の定着、そして輸出産業の不振という悪循環が日本をとりまき、「失われた20年」といわれる経済の伸び悩みにもつながるのである。

国内の企業も、国内の市場が縮小する中、社内の言葉を英語で会議を行う会社が出るなど、海外に市場を求めてさらなるグローバル化を加速させている。そしてそれが、前述したグローバル化の影響をさらに強める結果になるのである。

一方では、少子化の進行が進むのに対し大学の数が減らず、少子化が進行するにも拘わらず大学生が増えているという現状を産んでいる。つまり、かつては大学生ならば一定水準以上の人材という認識で企業が大学生を見て、大学生を企業に入れてから鍛えるという形式が基本であった。しかし、一般教養がわかっていない水準以下の大学生が珍しくなくなってしまい、即戦力を求める企業、厳選採用を行う企業が多くなっている。そのため、外国人の積極的採用や募集人員に達しなくても欲しい人材でなければ採用しない状況が報

じられるようになっている。

すなわち、少子高齢化・人口減少社会のもたらす影響は、1941年の閣議決定で採択された「生めよ増やせよ」のスローガンが思い出されてしまうが、現在では国内産業の空洞化の進行、国内経済のデフレの進行及び円高傾向の定着と輸出産業の不振、否応なしにグローバル化に対応せざるを得ない企業の増加、増大する社会保障及び危機的な財政状況、国債費と社会保障費は伸びるが公共事業関係費や地方交付税、文教科学振興費、防衛費にしわ寄せがいく状況、そのような状況による国力の減少など、多岐にわたるのである。

授業においては、人口ピラミッドの作成作業を行い、高齢人口割合の増大と生産年齢人口・若年人口の減少を実感させた。そして、大学生の就職難に関する新聞記事を活用し、何故そのような状況がおこるのかを、大学の数の増大と大学進学率の割合の増加、企業の厳選採用の姿勢、外国人採用の増大の状況を読み取っていった。それから、少子高齢化・人口減少社会のもたらす影響を考察させていき、確認した。

文化に関しては、直接的・即効的な影響は少ないが、幅広く、そして将来に与える影響が大きい内容である。代表的な国家戦略としては、韓国の韓流による国家イメージのアップとそれとタイアップした形式によるサムスンやLGなどの輸出振興戦略である。金大中大統領により「ハイテクと文化産業」を振興する政策が推進され、文化産業振興基本法を制定し、国家的なプロジェクトとして歌や映画、ドラマなどの振興が図られている。その結果、日本でも生じた韓流ブームが各国でおこり、韓国のイメージアップにも少なからずつながり、1997年のアジア通貨危機により大きな打撃を受けた韓国経済が2000年代に大きく飛躍する大きな要因ともなった。それに対して、日本もクールジャパン戦略をとり、巻き返しを図っている。また、日本の「もてなしの心」などといわれるまづ相手のことを考える習慣は、日本企業・日系企業の強みともなっている。日本式の教育で基本中の基本として行われる清掃習慣も、外国に進出した日本小売企業・日系小売企業の強みとなっている。

授業としては、ちょうど修学旅行の期間で、その行事の取り組みの1つとして、ちょうど私が担任のクラスで「少女時代」のダンスを行ったことを活用してもらった。その音楽から韓流に関する導入を行い、ドラえもんやポケモンなどに代表されるアニメなどの近年の日本文化、また伝統的な日本文化を確認し、クールジャパン戦略や、世界の人々から賞賛されるマナーの良さなど、世界から見た日本の文化の良さを考えさせた。

現代社会の見方や考え方に関しては、男女平等・女性の社会参加などが少子高齢化・人口減少社会に直結する内容である。教科書内容では生徒にとってポイントがわかりにくい構図になっていると考えた。そこで、私は社会集団のところにポイントをあてて、国家や社会のイメージで授業を展開することとした。

日本社会を客観的に見るとともに公民的資質を育む意味でも、実際の授業に置いては理想の国家像をイメージしてもらうこととした。理想の国家として素晴らしい国とは、どのような国ですか？という発問から、以下のポイントをこちらで提示し、生徒にとって重要項目はどれかというものを、個人・そしてグループで話し合い、序列化させた。

- | | |
|--------------|---------------------|
| A：優れた政治家がいる | B：軍事力が強く他国に征服されていない |
| C：政治機構が整っている | D：治安が良い |
| E：高い医療水準である | F：劣悪な労働条件で働かされない |

- | | |
|------------------|-------------------------|
| G : 宗教的な人物の影響が強い | H : 民主制度である |
| I : 教育水準が高い | J : 工業が発達している |
| K : 差別がない | L : 農業が発達している |
| M : 交通網が整備されている | N : 技術が進んでいる |
| O : 税金収入が多い | P : 環境が良い |
| Q : マナーが良い | R : スポーツがさかんで強い |
| S : 優れた文学や芸術が多い | T : その他（生徒が考えるその他のポイント） |

目指すところは、理想の国はどうか、日本の現状はどうなっていて、また理想の国に近づけるためにどう頑張っていくのか、ということを考えさせることである。ちなみに、生徒の意見として、圧倒的に人気が高い項目はDの治安の良さで、他の人気だった項目はK差別がない、N技術が進んでいる、Qマナーが良いといった項目であった。課題もいろいろあり、悪いニュースも多く報じられているが、日本は意外に良い国だ、という感想が多かった。日本の良さを外国に紹介することが地理的分野の教科書などでも扱われているが、客観的に日本を見ることができる材料にする方向で考えさせた。

(2) 私たちと経済

ア 市場の働きと経済

身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。また、現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させるとともに、社会における企業の役割と責任について考えさせる。その際、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の本質と関連付けて考えさせる。

イ 国民の生活と政府の役割

国民の生活と福祉の向上を図るために、社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護など、市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせる。また、財源の確保と配分という観点から財政の役割について考えさせる。その際、租税の意義と役割について考えさせるとともに、国民の納税の義務について理解させる。

●わたしたちの暮らしと経済（P 105～146）

少子高齢化・人口減少社会における経済の伸び悩みについて、直接的に取り扱う単元である。ただ、経済的な学習は中3の学習において初めて行うことになるので、おおよその単元では経済の基本をおさえていくことになる。従ってまずは基本をしっかりと押さえさせねばならず、深めていく単元は分量的にそれほど多くはできない。ただ、本質は全体を通じてしっかりとおさえさせねばならない。

消費生活と流通の単元において、前述の情報化と組み合わせた学習を行った。これは情報化のところで述べたので、ここでは多くは触れる必要は少ない。

企業の役割と意義の単元においては、企業・株式会社と株式が主な内容である。ここで少子高齢化・人口減少社会と関わりが深い内容は、「失われた20年」を象徴する、株価の長期的な低迷である。

実際の授業においては、生徒が生まれたときの株価と、授業現在の株価がどう変わった

かを、具体的な会社をあげて予想させた。会社としては、生徒にとって身近だと考えられた、マクドナルド、ファーストリテイリング、ソニー、任天堂、サンリオを用い、その生徒の生まれた1997年と2012年の株価がどう変わったかを予想させた。いわゆるデフレに強いマクドナルドやファーストリテイリングの株価が堅調で、ソニー、任天堂、サンリオなどという日本を代表する様な企業も状況が厳しいことを実感させる。それを通じ、このバブル崩壊後の20年間の株価を通じ、それがバブル崩壊とともに、少子高齢化・人口減少社会の進展による高齢人口の割合の増加・生産年齢人口の伸び悩み～減少、と連動している傾向を確認する。

現代日本の企業の単元に置いては、大中小企業と、グローバル化、企業の社会的な責任が主な学習内容である。

グローバル化の内容は、ポイントとしては、(1)私たちと現代社会のグローバル化で述べた通りである。ここでの授業として、能力主義・年功序列賃金の相違を確認し、自分たちで起業するならばどのような形が良いかをそれぞれの意見を考えさせ、グループで協議した。それをふまえて行き過ぎた能力主義の弊害(企業内での交流がなくなり、ギスギスした雰囲気のもと業務が行われ、技術の企業内交流・伝達が行われなくなったこと、など)を踏まえるなどして考えさせた。そしてそれをもとにグローバル化の進捗とともに進む安い商品の流入を100円ショップで買える商品とかつての値段を確認し、デフレの進行のもと低賃金長時間労働を強いられる日本国内の企業につとめる従業員の状況を確認する。また、大中小企業のあり方を、第三次産業革命のことを確認し、従来型の大企業-中小の下請け企業の図式が崩れ始め、双方向性が重視され複線化しはじめていることもおさえる。

また、外国人労働者の増大に関しては、授業では浜松市や太田市の例を紹介し、市役所にポルトガル語がある状況からブラジル人労働者が多いことを導入とした。それから、3Kといわれた低賃金の悪条件の労働を外国人労働者が担っていることが多いことを、農業や工場労働者の例から紹介する。ドイツの例で、低賃金の外国人労働者が増えることでドイツ人の雇用がなくなり移民に反対する声が増大していることを紹介し、外国人就労に関して、(1)私たちと現代社会で行った外国人就労のことを思い出しながら考えさせた。

政府の経済活動と財政に関してでは、ポイントは財政状況の悪化についてである。人口減少、日本経済の伸び悩みとデフレの進行などにより租税収入が伸び悩んでいるのに対し、公債残高が増え続けている厳しい状況になっていることを確認しなければならない。

授業としては、この導入として扱ったのは、日本の年代別金融資産(主に貯蓄)額である。日本の総金融資産額約1500兆円は、年代別ではどのような保有割合であるかを考えさせた。実際は60歳以上がその約6割を保有しているのである。現在では人口の約4分の1の高齢者が、約6割の金融資産を保有しているのである。若者がさぼっている、若者が車を買わないから不景気だ、などと若者が悪者にされる論評があるが、数字だけ見ると若者は金がないから使いたくても使えない、老後の心配が多い高齢者が多く保有している金融資産を無駄遣いしない傾向から市場に資金が出回らないということになるのである。ともあれ、それをもとに、当時の野田首相が政治生命をかけると宣言した消費増税のねらいを考えさせた。ねらいはもちろん、財政再建のための財源確保であるが、景気の影響を受けやすく人口減少やデフレ、経済の伸び悩みにより伸び悩む所得税や法人税に比べ安定している消費税の特色、そして所得税や法人税の課税ではほとんど課税対象にならない6割の

金融資産を保有している60歳以上の世代からの課税を得ることができるという、いうならば世代間格差の是正を目指すことができるなどさまざまなねらいがあることを考えさせる。一方で、当然消費税の逆進性により、格差社会をさらに深刻化させる危険性があることも確認した。

所得税及び法人税増税は、生産年齢及び若年人口の負担が増え、さらにグローバル化が進展する現代社会においては、富裕層や生産拠点の海外移転により、国内から富裕層や生産拠点が失われ、空洞化が進行してしまう恐れがある。フランスにおいて、オランダ政権が富裕層に75%の所得税を課したことから、一部の著名な富裕層が所得税13%のロシアに移民したことが報じられた。産業の空洞化とともにこのニュースをもとに、消費税増税について深く考えさせた。

政府の役割の單元では、景気変動と財政政策、インフレーションとデフレーションの学習となる。近年の課題は、少子高齢化・人口減少社会において構造的な要因として生じているデフレである。

すなわち少子高齢化・人口減少社会のもたらす影響は、国内産業の空洞化の進行、国内経済のデフレの進行及び円高傾向の定着と輸出産業の不振、否応なしにグローバル化に対応せざるを得ない企業の増加、増大する社会保障及び危機的な財政、国債費と社会保障費は増えるが公共事業関係費や地方交付税、文教科学振興費、防衛費が圧迫される状況、そのような状況による国力の減少など、多岐にわたるといことは前述したとおりである。

授業では、学校、道路、鉄道、消防、救急、医療、警察、ゴミ収集を政府が行うべきか、民間に任せるべきか、ということから考えさせ、グループで協議させた。これも読んだ人ならすぐわかるが、元ネタはマイケル・サンデルの「それをお金で買いますか」である。小泉・竹中路線が推進された郵政民営化に代表される新自由主義の路線をどう考えるか、ということにもつながるが、本質的には小さな政府が良いか、大きな政府が良いかをじっくりと考えさせ、議論させることに努めた。実際の例として、消防も保険で加入し、保険に加入していないと火事になっても消火してもらえないアメリカ型の小さな政府の例と、手厚い社会保障で知られるが消費税率25%で、所得の半分程度が税・社会保障の負担になることが珍しくない北欧型の大きな政府を紹介する。それから今後の歳出のあり方と消費税増税を含めた財政のあり方を考えさせ、議論させた。

また、インフレとデフレに関し、アベノミクスとよばれる安倍政権により行われるインフレターゲット政策のねらいと、その効果について、国民生活、国家財政、企業経営の三分野で生徒に具体的に考えさせ、グループ毎でそれぞれ点数化し、発表した。

社会保障のしくみの單元は、少子高齢化・人口減少社会が影響する最も中心的な單元である。社会保障の社会保険・公的扶助・社会福祉・公衆衛生について取り扱う。

授業においては、これはオーソドックスに（というかつまらないかもしれないが）、保険証を用いて通院するシステムから、医療保険を確認し、それから社会保険を学習し、それから公的扶助・社会福祉・公衆衛生を学習した。医療保険が生徒にとって一番身近な社会保障制度であると考えたからである。そして、日本の歳出の変遷を確認して、社会保障費と国債費の激増を確認した。この單元は、社会保障のシステムをまずはしっかりと学習し、社会保障費の増大を理解することがまずは大切である。内容としては、次の少子高齢化と財政の單元につなげる、まずはおろそかにできない基礎の單元なのである。

少子高齢化と財政の単元は、日本の公債残高の増大に直結する単元である。

授業では右の資料を用い、少子高齢化が急激に社会保障費の増大をまねていることを確認する。そして、日本の今後の行く末を、新自由主義に代表される社会保障の削減による

小さな政府型による財政立て直し、

あるいは北欧型の増税・高負担により財政を立て直して手厚い社会保障を構築する、あるいは低負担のまま借金を増やし将来世代への先送りそして国家の破綻の道を選ぶ、その三択の社会システムのいずれかか、もしくは新たな別の革新的なアイデアによる解決策の提案をグループで協議し、発表させた。

世界の中の日本経済の単元は、まさにグローバル化の単元である。教科書内容では、世界金融危機と日本のものづくりについて扱っている。

授業では、日本の強みを考える。日本企業の業界を、とりあえず独断で企業を選び、株価総額の変遷を右のような資料にまとめた。元ネタは下にあるように、「10年後浮かぶ業界沈む業界」である。これを参考に、今までの知識を総合して自分が就職するならばどの業界を選ぶか、を考えさせ、グループで協議させた。考えさせるポイント

としては、グローバル化社会の影響の受けやすさ、受けにくいならば縮小する国内市場の中での将来性、受けやすいならば国際競争力がどの程度の強さなのかと、リスクとリターンはどのようになるか、ということ意識させた。

将来のことであるから、とりあえず「10年後浮かぶ業界沈む業界」の推奨はあるものの、それが正解であるとの結論が出ているわけではないし、この業界が成功するという保証などあるわけがない。ただ、情報を取捨選択し、勝負できる業界は何かを今までの知識・教養で真剣に考えさせた。

20年後のわたしたちと日本の単元はプレゼンテーション単元である。

授業では、教科書の、少子高齢化への対応、労働問題への対応、日本の農業対策をグループで協議した。今までの積み重ねを生かすことを心がけさせた。グループ毎でそれぞれどのような政策が好ましいのか、企業活動としてはどのようにするのか、ということに注目させて発表させた。

▼社会保障費の部門別推移(単位:億円)

	医療	年金	福祉・その他
1980年	107329	104525	35882
1990年	183795	240420	47989
2000年	259953	412012	109225
2009年	308447	517246	172814

(「日本国勢図会」)

金額は株価総額(億円)

	業種	2000年	2012年
R社	ネット	7857	15581
N社	ゲーム	25486	17637
D社	ソーシャルゲーム	69	3458
N社	通信(携帯電話中心)	188647	59975
N社	通信(固定電話中心)	132787	49686
N社	テレビ	9816	3365
M社	商社	13195	31747
S社	鉄鋼	12865	15451
Z社	石油	4327	4306
T社	自動車	133093	123093
N社	電機	34345	4506
S社	家電	72391	17119
C社	精密機械	35025	52150
T社	医薬品	60114	28783
K社	化粧品・トイレ	20409	11429
J社	飲料・食品	17720	46600
S社	小売り	54137	21788
Z社	航空運輸	5657	6312
J社	鉄道	10100	6650
M社	不動産	15850	20522
K社	電力	18975	12034
M社	銀行	65177	32465
N社	証券	40339	13990

東洋経済「浮かぶ業界沈む業界」より作成

通常単元ではないが、教科書に「深めよう」で扱われている為替相場と貿易の単元に関して授業を行った。何故「深めよう」で、通常単元でないのか、個人的には最も理解に苦しむ単元である。私はこの単元が極めて重要な内容であると考え。この「失われた20年」の多くの期間日本を苦しめてきたのは、紛れもなく過度の円高である。「良いものを安く」作ってきた日本国内の製造業が、円相場が上がるだけで良いものだが割高になり、その結果技術も身につけた安い新興国の追い上げにあい激的な競争に巻き込まれて苦境に立たされてしまうのである。また、安価な外国製品が流入することにより、国内のデフレ傾向が進展し、低賃金長時間労働を強いられたり非正規雇用に代表される不安定で待遇の良くない労働者が増えたりする要因にもなる。その結果日本国内の家電や自動車に代表される輸出用製造業の苦境、そしてそこで働く派遣切りやリストラ部屋に代表される労働者の苦境、低賃金長時間労働に苦しむ労働者の苦境、海外に工場が移転し空洞化が進展する日本の苦境をもたらす大きな要因なのである。

授業では、円高の基本はしっかりおさえる。円高については地理的分野や今までの学習でもそれなりに行ってきたので、円高による企業や従業員の苦境については復習の形でおさえた。その上で日本の勝負すべきものは何かを考えさせる。最後に、一例として藻谷浩介氏が主張している「日本製のブランド化」の考えを紹介し、貧しいアフリカの砂漠地方で高くても人気が高い日本の自動車（砂漠でも故障しない）や、日本式教育で清掃が徹底されているため高くても人気がある日系商店の事例を紹介した。

(3) 私たちと政治

ア 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則

人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深めさせ、法の意義を理解させるとともに、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解させ、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について考えさせる。また、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについての理解を深め、日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解させる。

イ 民主政治と政治参加

地方自治の基本的な考え方について理解させる。その際、地方公共団体の政治の仕組みについて理解させるとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる。また、国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解させ、議会制民主主義の意義について考えさせるとともに、多数決の原理とその運用の在り方について理解を深めさせる。さらに、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解させるとともに、民主政治の推進と、公正な世論の形成や国民の政治参加との関連について考えさせる。その際、選挙の意義について考えさせる。

●人権の尊重と日本国憲法、現代の民主政治と社会（P 31～104）

この内容は、もちろん人権思想の発達や日本国憲法、基本的人権、現代の民主政治という極めて重要な内容が多く含まれている。ただ、少子高齢化・人口減少社会に関連させる単元は、ある程度しぼられる。

平等権の単元では、男女平等に関する内容が出てくる。少子高齢化社会・人口減少社会においては、人口が減るのであるから、男性だけで社会を切り盛りするのではなく、少子化が進まないようにしつつ、女性にも能力に応じて頑張ってもらう必要がある。

授業では、女性の年齢別就業割合の資料を活用する。30代で就業率が低下するとともに、30代以降では女性は非正規雇用が増大するという状況を確認する。その背景（当然日本では結婚・出産・育児が中心）をおさえるとともに、社会的に女性の能力の活用を促進させるためのシステム、そして出産・子育てがしやすい社会システム構築のためにどのようなアイデアがあるかを協議し、提案させた。

また、外国人に関しても扱う単元である。授業では、移民政策を意識した。人口減少を補うため移民を促進するという意見は数多く見られる。移民を積極的に受け入れる場合の心配される問題点をアメリカやフランス、ドイツの例を参考に確認する。そして日本の場合、移民を積極的に受け入れるのか、条件付きか、あまり受け入れないのかを、理由をはっきりと述べる形で議論させ、クラスの世論を確認した。勿論人権侵害にならないように感情的な外国人排斥にならないようにしつつ、過度の受け入れを心配する意見がどのようなものがあるかを提示して実施した。

社会権の単元は、社会保障の基本となる憲法第25条を確認し、社会保障の理念を確認する。また、勤労の権利も取り扱う。

授業では、2つの点を協議し、発表させた。1つは、実際の生活保護が手厚く、年金や最低賃金よりも多い現状が批判されていることをあげ、財政的な問題を踏まえてどのようにするのが良いかということ。もう1つは、ブラック企業とよばれる、劣悪な労働条件を強いる企業があるが、その企業のうち、従業員を使いつぶし使い捨てにして精神疾患をもたらすような（その結果社会保障の負担まで増えさせてしまう）、またグローバル化の名のもとに日本社会を食いつぶすような企業に対してどのようにすれば良いかを協議し、発表させた。

国会・内閣、選挙に関しては、議院内閣制と衆議院の解散と半分ずつ行われる参議院選挙がここではポイントとなる。

すなわち、しきりに決められない政治といわれてきたが、衆議院の解散があり、参議院通常選挙が三年に一度あるため、選挙で敗北する度に総理大臣が変わる状況になっている。それが不安定な外交政策につながり、ひいてはアメリカ、ロシア、中国、韓国などとの外交がうまくいかない面も生じている。

授業では、中3生が生まれた1997年以降のアメリカの大統領（クリントン・ブッシュ・オバマ）の間に、日本の総理大臣はどのようにかわってきたかを導入とした。いかに子どもたちが生まれた年の橋本首相から日本の総理大臣がかわったかを実感し、それが日本の国益を損なってきたことを確認した。

行政改革の単元は、小さな政府と大きな政府をどのように考えさせることとなる。

授業では、規制緩和により安価なツアーバスやLCCの路線が破格の安さとして登場してきていることを確認する。そして、2012年4月におこり多くの犠牲を出した関越自動車道のバス事故の例を取り上げ、政府としてどのような立場をとるのが良いのかを、利用者としては格安路線と高価な路線をどのように考えるのかを議論した。

(4) 私たちと国際社会の諸課題

ア 世界平和と人類の福祉の増大

世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを認識させ、国際社会における我が国の役割について考えさせる。その際、日本国憲法の平和主義について理解を深め、我が国の安全と防衛及び国際貢献について考えさせるとともに、核兵器などの脅威に着目させ、戦争を防止し、世界平和を確立するための熱意と協力の態度を育てる。また、地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解させる。

イ よりよい社会を目指して

持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究させ、自分の考えをまとめさせる。

●地球社会とわたしたち・よりよい社会をめざして（P 147～）

この単元は、国際社会の学習が中心となり、少子高齢化・人口減少社会とは直接関係のない単元が多い。もちろんグローバル化社会の内容やよりよい社会の構築の単元もあるが、従来と大きく内容が変わることのない内容である。そのため、少子高齢化・人口減少社会と強く絡めることはあまり意識しなかった。ただ、1つだけ個人的に、考えさせていきたい単元があった。

それは、国際社会における国家、主権国家の内容で、国旗と国歌の内容の部分である。教育基本法が改正される際に、しきりに愛国心がニュースになったことが記憶に新しく、内容にも随所にそのニュアンスがちりばめられている。いろいろ軍国主義云々の主張が行われたが、私はこの大きなねらいの1つが、納税であると考えている。

日本社会の現状は少子高齢化・人口減少社会の進展と財政状況の悪化が深刻な問題になっている。大きな政府型の解決策をとる場合、当然納税・社会保障費の負担が大きくなる。税率を引き上げた場合、海外への移転が大きな課題となる。フランスの富裕層がロシアに逃げ出したように、日本で所得税を引き上げた場合、外国に逃げ出す富裕層がどの程度いるのだろうか？現状でもマレーシアやフィリピンに移住して老後を過ごす高齢者がいるのである。また、企業がグローバル化の名のもと、法人税が増税された場合、国内の雇用ととも捨てて海外に移転する企業はどの程度あるのだろうか？日本の若者、子孫のために納税をしようとする富裕層や企業を増やそうというねらいが根本にあると考えている。

現在の日本が侵略戦争をスムーズにできる社会システムになっているとはとても思えないが、もちろん愛国心の名のもと侵略戦争は許されない。

授業において、国旗・国家のところから、愛国心に関して扱った。侵略戦争は当然許されないが、社会を大切にす道徳的な感性から、納税を意識させた。いくらグローバル化といっても日本語以外まともにしゃべれない人間が大半の日本で、日本社会を大切にす人間を育成することは、個人的には私の安定した老後や、生徒や若者、子孫のために大切なことだと考える。日本が終わっている、と発言する人物が日本国内にしばしばいるが、内戦の激しい国や食べるものがまともにない国のことを考えているのか？と正直思う。理想の国家、目標とする国家づくりは、生徒の育成と同じでいろいろ課題はあるかもしれないが、現状を踏まえて課題をクリアし、成長していかなければならないし、つらい局面でも頑張っていけるようにすることが大切なのだと思う。少子高齢化・人口減少社会の現状

にある今の社会を捨てて逃げるのではなく、大切に、課題を克服する人材を育成する意識が必要だと考える。

4. 終わりにかえて

少子高齢化・人口減少社会となり、グローバル化の進展した現在、高度成長期とは異なる状況に日本は直面している。「良いものを安く」によって成長してきた高度成長期の価値観だけでは対応が難しくなっている。円高であつという間に日本製というだけで高くなってしまふのである。「良いものを安く」という姿勢は当然正しいのであるが、それだけでは生き残るのが困難な状況になっているのである。高度成長期の成功体験にすがっているだけでは生き残るのが困難なのである。さらに、コンピュータの使用とデジタル化の進展で技術移転が平易になり、日本の技術が外国にコピーされることが容易になっている。日本の技術が追いつかれ、円高、少子高齢化・人口減少社会による市場縮小が重なり、激烈な競争で厳しい環境にさらされている大企業も少なくない。「良いものを安く」を追求して、低賃金長時間労働や非正規雇用の増加など労働環境の悪化にも直結してしまっている業界も少なからず出ているのである。

現在の日本は、長年の雇用慣行が崩れ始めている中、長年の雇用慣行が崩れ始めている中で、グローバル化の進展とともに競争力強化のために、新卒採用を景気の調整弁にしたり非正規雇用を増やしたりという、労働者に犠牲を強いる形をとっている面が随所に問題になっている。

今回の少子高齢化・人口減少社会をテーマとして一連の公民の授業を行うにあたっては、その本質的な部分として私の意識としては高齢者に対する論調が全体的に厳しくなってしまった。もちろん、高齢者に対する敬意は失ってはならない。ただ、現在の少子高齢化・人口減少社会においては、高齢者の割合が増えている。割合が増えた人に頑張ってもらわないと、日本というチーム全体の状況をみるとまずい状況になってしまう、それが私の言いたい本質なのである。

もはや少子高齢化・人口減少社会となり財政状況の悪化が深刻となった社会では、すべての高齢者が年金をたっぷり受け取って、のんびり働かずにのほほんとしてもらえる状況ではない。2020年には人口の3割、2050年には人口の4割が高齢者になると予測されている。チームスポーツで言えば、チームの中で今までは1人の高齢者だけだったのである。あまり動かなくても問題はなかったかもしれない。しかし、それが2人、3人と増えてきているのである。チームスポーツで一方のチームの2人・3人がまともに動いていないチームは通常負ける、ダメチームである。負けたくなければ、ダメチームになりたくなければ、今まで動いていなかった人々に頑張ってもらうしかないのである。この場合は、高齢者にもできるかぎり頑張ってもらうことである。心身の健康に問題があるならもちろん無理だと思うが、私の周囲にも60過ぎて引退してしまうのもったいない人はいくらでもいる。社会全体でそのもったいなさを、仕事に、子育てに、技術の継承に、伝統継承に、高齢者の能力を活用できる余地はいくらでもあると思う。身体が動かなくとも、機械の発達や頭を使い、経験を生かしてカバーできる部分はたいへん大きいと思う。そして、その方向性に社会は向かざるを得ないであろう。

高齢者の能力の活用が不十分な現在、そのしわ寄せが若年層に行き、非正規雇用で代表

される劣悪な労働条件にされるなど若年層が景気の調整弁になってしまっている面がある。そして、結婚したくても結婚できない、子どもを産んで育てたくても産めない・育てられない、貯金をしたくてもできない、車を買いたくても買えない状況をつくっている。割合の減った若者の負担が増え、貯蓄もなく、仕事も不安定な非正規雇用が増え、恋愛・結婚ができず、子どもが産めず、それでなお若者が車を買わないから不景気だ、草食化しているから少子化が進む、と若者を悪者にしてすむ状況ではないのである。経験が少なく負担の大きくなった若者には、高齢者のサポートが必要とされている現状であり、少子高齢化・人口減少社会が進行する限り、将来ますますその傾向が強くなっていくのは必然だろう。

「貧すれば鈍す」という言葉がある。少子高齢化・人口減少社会だからしょうがない。そうなのは伸びないのである。環境がうまくいかない部分があるならば、環境を変えていかなければならないのである。現在の60歳定年が基本になっている社会システムは、日本の平均寿命が65歳程度のころに整ったシステムである。であるならば、平均寿命が80歳をこえるようになった現在では、はっきりと高齢者をお願いすべきなのである。60歳すぎてもまだまだ元気で能力が高く、社会貢献が大いにできる人がたくさんいるのである。もちろん厳しい肉体労働だと厳しいとは思いますが、かなり機械化も進んでいるわけであるし、数字上で言えばせめて70歳ぐらいまでは、頭脳労働だったらもっといけると思うが、バリバリ働いてもらうしかないのである。今後の日本では、子どもの笑顔の為には高齢者ががんばりが必要なのである。

その高齢者の能力をいかすことができる社会システムの構築の為に政治があるのである。有権者も賢くならなければならない。若者は投票しても政治は変わらないと思っているが、実際は若者が投票しないから政治は若者を意識した政治をしないのである。高齢者は投票するから、高齢者に厳しいことを言わない政治が行われるのである。しかし、社会の将来、我らの子孫のことを考えるならば、高齢者にがんばってもらうしかないのである。高齢者にしっかりお願いし、高齢者もその能力・経験を生かして社会の責任を担ってもらわないといけないのである。高齢者が日本の金融資産を多く持っているならば、高齢者が納得のいく形で若者や子孫のために活用する施策を考えなければならないのである。

もちろん、数の減少している若者を中心とする生産年齢人口の層は、本当にがんばらなければならない。草食化して引きこもって世の中が良くなるわけではない。もちろんやむにやまれずそうになってしまう人もいるだろうが、日本社会というチームを考えると、一人ひとりがグローバル化の中、給料の安い外国人労働者との競争に負けないう、各自が評価される能力を身につけ、高めていかなければならないのである。資源もなく、土地も狭い日本では、個人の能力も組織力も必要なのである。

希望者数が募集人数よりはるかに多い大企業に就職できず、希望者数が募集人数より少ない中小企業は見向きもされない状況がリーマンショック以降特に顕著になってきている。ただ、大企業に就職できることが大切なことではない。人間の真価は、所属している組織にあるのではない。アメリカの先住民の言葉に、「あなたが生まれたとき、あなたは泣いていて周りの人達は笑っていたでしょう。だから、いつかあなたが死ぬとき、あなたが笑っていて周りの人たちが泣いている。そんな人生を送りなさい。」という言葉がある。本当の人間の真価は、他人や組織に必要とされ、残ることが求められる人材になることで

ある。

まさにそのために公民を学習して政治・経済を学ぶのであるし、将来を担う人材の公民的資質を育む必要がある。さらに、生徒たちは、自分たちが高齢者になるときの準備が必要なのである。つまり、現在中学生の若者は60歳過ぎても、おそらく70歳程度までは労働する心構えが必要になる。理想の職業にはつけないかもしれない。そもそも日本社会はどうなっているか、予測が付かない面も多い。デューク大学のキャシー・デビッドソン教授によると、2011年に小学生になる子どもの65%は、今はない仕事に就く、と指摘している。高齢者になったときの状況は生徒にとってはまだ遠い先のことであるが、そのときに困らない様に準備が求められる意識が必要になる。60歳過ぎでの仕事は、給料が下がる、年下に使用される、その時社会に必要とされる能力、健康の問題、さまざまな課題があることが考えられる。だから、その準備が必要である。現在はまだ遠い先のことである。しかし、20歳、30歳、40歳、…となったとき、中学校で行った授業のこの本質を思い出し、60歳を過ぎても、何かの能力が十分に通用し、社会に必要とされる能力と意識を持つ必要が大きくなるだろう。

私の印象に残る人物に米長邦雄さんがいる。2012年1月に、最強のコンピュータと勝負を行い敗れ、同年12月に亡くなった。コンピュータとの勝負に敗れて著した生前最後の著書となった「われ敗れたり」において、米長さんは勝つための努力を行ってきたこととともに、「隠居に幸せはこない」と述べている。その通りだと思った。年齢を重ねてもレベルアップしようとし、厳しい局面に立ち向かう姿勢が勝負には求められるということである。

まさに、少子高齢化・人口減少社会に生きる我々は、高齢になっても「隠居に幸せはこない」姿勢で高齢の日々を過ごす心構えが求められることが遠からず、おそらくは現在からすでに求められているのであろう。そのために学ぶのであり、若者をそのつもりで育むのである。

現在の状況では、今後非正規雇用やリストラ、60歳過ぎでの労働が特殊なことではなくなる。会社を去るとき、組織の肩書きがなくなるのが珍しくなくなるのである。収入、学歴、地位…。このようなものが無くなっても、社会で通用する能力・求められる能力を保有することが大切になる。現在の状況に不平を言うだけでは改善はしない。現状を認識し、状況に応じて自らを求める能力が求められている。それは、子どもからお年寄りまで、男性も女性も、全ての層に求められている社会になってきているのである。

時代は刻々と変化し、若者も、高齢者も、男性も女性も対応を迫られているのが現在の日本社会である。まさに、ダーウィンが言ったとされる、「この世に生き残る生き物は、最も力の強いものか。そうではない。最も頭のいいものか。そうでもない。それは変化に対応できる生き物だ。」である。教える側は、もちろん力が強く、頭が良いに越したことはないが、変化に対応できる人間を育成しなければならないのである。そのためには、本質を教え、それを踏まえてどのように行動するかを考えることができる人間を育てなければならない。

それが質を高めることであると考え。若年層の質を、生産年齢層の質を、高齢者の質を高め、男性も女性も質を高め、少子高齢化・人口減少社会の本質を理解し、その社会を担う人材を育てなければならない。小国になるなら、あなどられない小国にならなければ

ならない。その準備が必要なのである。量が減るならば、質で補わなければならないのである。

主な参考文献及び資料

- | | | | |
|------|-----------|--------------------|----------------------|
| [1] | 矢野恒太記念会 | 『日本国勢図会』 | 2012/13年版
及び過去のもの |
| [2] | 矢野恒太記念会 | 『世界国勢図会』 | 2012/13年版
及び過去のもの |
| [3] | 矢野恒太記念会 | 『県勢』 | 2013年版
及び過去のもの |
| [4] | 藻谷浩介 | 『デフレの正体』 | 角川書店 2010年 |
| [5] | 渡邊正裕 | 『10年後に食える仕事食えない仕事』 | 東洋経済 2012年 |
| [6] | 東洋経済新報社 | 『10年後浮かぶ業界沈む業界』 | 2012年 |
| [7] | マイケル・サンデル | 『それをお金で買いますか』 | 早川書房 2012年 |
| [8] | 浜矩子 | 『スラム化する日本経済』 | 講談社 2009年 |
| [9] | 鍛冶俊樹 | 『国防の常識』 | 角川学芸出版 2012年 |
| [10] | 今野晴貴 | 『ブラック企業』 | 文春新書 2012年 |
| [11] | 池上彰 | 『先送りできない日本』 | 角川書店 2011年 |
| [12] | 池上彰 | 『日本の選択』 | 角川書店 2012年 |
| [13] | 日経BP社 | 『日経ビジネス』 | 主に 2012年発行分 |
| [14] | 東洋経済新報社 | 『週刊東洋経済』 | 主に 2012年発行分 |
| [15] | ダイヤモンド社 | 『週間ダイヤモンド』 | 主に 2012年発行分 |

The lesson which studies a society of decreasing population

—Conversion in quality from quantity—

KAWACHI Shuji

With declining in birth rate and aging progress, the Japanese population is decreasing. In this situation, Japan's national strength has declined. As a result there is a need to improve the quality of the Japanese country. We must foster their zest for living.

Key Words : an aging society with a declining birthrate, a society of decreasing population, Reduction in quantity, Improvement in quality, zest for living

名言までは1マイル

—キャッチフレーズで始まる授業(2)—

ささ がわ ひろ し
笹 川 裕 史

抄録：筆者はここ数年、世界史の授業に生徒を積極的に取り組ませる工夫として、授業の導入時等にキャッチフレーズ（以下、CPと略）を断続的に用いてきた。そして54期生の2～3年次（2010～11年度）では、すべての授業のCPを作成した。本稿では、54期生の2年間に作成・利用したすべてのCPをリストアップし、そのうちのいくつかのCPに自己評価を付してみた。

キーワード：キャッチフレーズ、授業実践、世界史教育

1. はじめに

ここ数年、筆者は授業でキャッチフレーズ（以下、CPと略）を利用してきた。授業の導入段階で、時には中盤で言及し、当該の授業にちょっとした期待を抱かせたり、印象づけたりするためである。CPの作成・利用に関しては以前にも報告したが、それは短期間の限られた範囲での実践報告であった（2008年度の高校52期生2年次の世界史の1～2学期の、産業革命からヴェルサイユ体制までの範囲）[笹川2009]。その後、CPの有効性に手応えを感じた筆者は、高校54期生の2～3年次（2010～2011年度）のすべての授業でCPを作成した。

本稿は、この54期生の授業で用いたCPに関する記録である。本稿では、まず54期生の2年間の世界史の授業の大枠を示す。つぎに筆者の関心にそっていくつかのCPについて簡単なコメントを記し、今後の展望を述べておきたい。そして最後にこの2年間の授業項目とCPの一覧をあげておく。

2. 世界史の授業およびCPの概略

(1) 授業の概要

本校での世界史の履修単位は2年次で必修2単位、3年次で選択4単位となっている。筆者は、生徒全員が履修する2年次では基本的に近現代を扱うことにしている。したがって授業範囲は、アメリカ独立革命から始めた場合はヴェルサイユ＝ワシントン体制まで、産業革命から始めたときには第二次世界大戦終了までとなるのが一般的である。そして3年次では、原始・古代から授業を始め、2年次の授業範囲をとばして、最後は21世紀に到達するようにしている。

授業の進度（または深度）は、当然のことながら、教師によって、あるいは世界史の履修単位数によってさまざまだろう。筆者の場合は、「正規の授業（a）」だけでは全範囲を扱うことが出来ないで、いくつかの機会を利用して授業を補充している。具体的には、「スーパーサタディと呼ばれる土曜日実施の希望者講習（b）」と「期末考査後の希望者対象の補充授業（c）」である。スーパーサタディは、大きなテーマあるいは単元にそった授業で、54期生の場合は、アメリカ独立革命～ナポレオン戦争、古代の南アジア～東南アジア、ルネサンスを扱った。これに対し、補充授業は、正規の授業の継続とした。

その結果、54期生の授業時数は、つぎのようになった。

2年次 (a) 47時間（そのうち3時間は教育実習生が担当）

3年次 (a) 68時間+ (b) 22時間+ (c) 20時間

(2) CPの作成について

CPの作成に関しては、以下の4つを基本方針とした。

- (i)：親近感…生徒の生活感・関心に沿う身近な話題を選ぶ
- (ii)：意外性…生徒の常識をひっくりかえす新しい視点を提示する
- (iii)：謎解き…授業中に教師が説明をして、CPの意味が明らかとなる
- (iv)：名言の紹介

(i)～(iii)は、CP作成上の基本としてこれまでも重視してきた。すなわち「世界史なんて自分とは無関係。試験科目だから勉強しないとしようがない…」と考えている生徒に「世界史って意外に身近だ」と感じさせるために(i)の視点は逃せない。また人は、自分がもっていた常識がひっくり返ったときに、世界が広がったという思いを抱く。そういう意味で(ii)の意外性は重要である。(iii)の謎解きは、生徒が楽しみながら(混乱しつ?)授業に取り組めるという長所がある。そしてCPの具体的な文言に関しては、総体として、ある程度の品位を保ちつつ、時には駄洒落やパロディも交えた親しみやすいものとなることを心がけた。

また今回は歴史上(必ずしもそれだけには限らないが)の名言も紹介することにした。それが(iv)である。そもそも名言とは、臨場感あふれる内容と魅力的な表現とを有しているからこそ名言なのであり、ある意味では究極のCPである。筆者もそういった名言に対抗できる印象深いCPを作成したいと考えてはいるのだが…。

54期生の2年間で作成・使用したCPの一覧に関しては、古代から現代までの時代順とするのも一案であるが、今回は授業順とした。ただし3年次の授業では「スーパーサタディ(b)」が「正規の授業(a)」に割り込むかたちになるので、実際の授業の進行はかなり複雑である。したがって<資料>として本稿の最後にあげたCPの一覧は完璧な授業順ではない(もちろん(a)(b)(c)のそれぞれの授業内部での順序は保たれている)。2年間にわたる授業時数が150回を超えたこともあり、CP全体をつぶさに検討することはしない。あくまでも筆者の興味関心から選んだいくつかのCPについて、年次ごとにコメントしていくことにする。

3. 2年次のCPについて

54期生の授業は、52期生のときと同じく産業革命から始めた。必然的にCPの大半は、52期生のものと共通している。したがって54期生2年次のCPについては〔笹川2009〕も参照していただくと幸甚である。

筆者の授業は一斉講義が基本で、毎時間、自作の授業プリント（B4版横書き）を1枚配布している。CPは、授業プリントのタイトルの下に1行、授業の窓と銘打って載せている。したがって筆者が直接CPに言及しない場合でも（そしてそういう授業もしばしばある）、生徒たちはCPの意味を考えながら授業に参加することになる。

54期生の授業範囲が52期生とほぼ同じであっても、毎年、授業内容の見直していくので、CPも多少なりとも差し替えられていく。というわけで、54期生で登場した新しいCPのなかから、とりあえず三つを紹介しておく（CPの後の数字は、〈資料〉に挙げた授業項目である）。

・「大阪になれなかったマンチェスター」：2年3

大阪とマンチェスターの比較。1920年代の大阪は「東洋のマンチェスター」と称された。いうまでもなくイギリスのマンチェスターに因んだ命名である。近代にイギリス（ヨーロッパ）で産業革命が始まったのに日本（東アジア）で起こらなかったのは発展段階の差によるという見解はまだ根強い。しかしアジアは工業化に遅れをとったのではなく、イギリス型の工業化の必要がなかったのだ…と発想を転換してみてもいいだろう。このCPは、家内工業で綿布を生産していた江戸時代の大阪が河内木綿の産地でもあったことと、機械で紡績・織布をしていたマンチェスターの綿業が輸入綿花に依存していたことを比較したものである。南アジアや植民地アメリカを綿花のモノカルチャー地域へと低開発し、資源浪費型の社会をつくることで経済発展をとげたヨーロッパと、勤勉革命による資源節約型社会を形成した東アジアとの対比にもつなげた（グローバル＝ヒストリーの視点を取り入れた工業化（産業革命）の授業実践は〔笹川2011〕参照）。

・「サッカーは、なぜPK戦か？」：2年15

イギリス型スポーツとアメリカ型スポーツとの比較。階級社会の国イギリスでは、スポーツは仲間内の社交であり、勝敗に拘泥することははしたないと見なされた。したがってゲームが同点で終わった場合、サッカーならばゲームとは別の形式（PK戦）で勝敗をつける。移民の国アメリカ合衆国では（理念としては）その出自に関わりなく各人の能力が正当に評価されなければならない。したがって引き分けを嫌い、勝敗（優劣）を決することが重視される。だから野球は、ホームラン合戦や三振合戦ではなく、本来の形態で延長戦が行なわれるのである。

・「気づかないふりをしていたらファシズム」：2年36

ドイツにおけるナチスの台頭の導入。従来は「気がついたらファシズム」というフレーズを授業では用いていた。しかし、これでは「権力者は悪で、民衆は無垢」と決めつけ、「素朴な民衆は騙されて、全体主義の台頭を許してしまった」という説明になってしま

う。第二次世界大戦中にユダヤ人最終解決を見て見ぬふりをした民衆の責任を問う意味でも、CPをこのように変更した。

54期生2年次の授業では、毎回授業後に生徒たちに授業感想を書かせて、それを編集した教科通信“SOMETIMES”を作成した（教科通信を利用した授業実践は〔笹川2006〕参照）。そしてこの年度は、これまで教科通信の「見出し」としていた“定番”の文言を授業用のCPに用いることもたびたびあった。当然ながら、教科通信の「見出し」を新たに考えることとなり、結果として、授業で用いるCPと教科通信の「見出し」との関係は大きく二分された。すなわち授業でのCPを教科通信の「見出し」でダメ押しする場合と、CPとは直接は関わらない「見出し」となる場合である。

それぞれ三例ずつ紹介しておく。まずダメ押しの例。

・「クロスがクロス」：2年1

最初の授業でのCP。イギリス（連合王国）の導入。筆者は、連合王国の説明の際に、イングランドの聖ジョージ旗・スコットランドの聖アンドリュー旗・アイルランドの聖パトリック旗が重ねられて連合旗が作られたことは必ず触れている。そしてウェールズの旗が連合旗に含まれていないことを確認させ、4つの王国の力関係および国旗というものが近代の産物であることを理解させるようにしている。授業では、連合旗を彩色しながらその成立過程を確認する作業もあり、生徒にとって印象深いものとなっている。

最初の授業ということもあり、教科通信の「見出し」は、丁寧すぎるが、「U. K. : クロス（十字）がクロス（交差）した国」とした。

・「紅茶に砂糖」：2年2

近代イギリスにおける生活革命の導入。ヨーロッパ人にとってアジアの物産は威信財として重要であり、茶（紅茶）もその一つであった。生徒たちには「喉が渴けば水を飲めばいいのに、わざわざアジアから輸入したお茶を飲むのは、上流階級の者にとって、自分の富や趣味の良さを民衆にアピールするためだった」と説明する。

さらに「やがてお茶が大衆化していくと、上流階級は、下層民には出来ない贅沢なお茶の飲み方として、砂糖を入れるようになった。アジアのお茶と西インドの砂糖がイングランドのティーカップの中で出会った。緑茶やウーロン茶には砂糖を入れないのに、紅茶にだけ砂糖を入れるのは、イギリス風の飲み方が19世紀以降各地に広まっていったからだ」と補足する。

教科通信の「見出し」は「砂糖なければ、無茶苦茶か?」とした。

・「円明園の破壊がなぜ野蛮なのか?」：2年8

アロー戦争の導入。1860年に英仏連合軍が北京を占領した際に、郊外にあった円明園を略奪・放火した。この出来事はヨーロッパでも大きく取り上げられ、蛮行として非難された。しかしアロー戦争では、ほかにもさまざまな建造物が破壊されている。「なぜ円明園の破壊のみ、ヨーロッパ人は非難したのだろうか?」と生徒たちに問いかけてみる。

円明園は、乾隆帝の時代にイタリア人宣教師カスティリオーネが建造したバロック式

- 洋館を有する離宮であった。エスノセントリズムのつよい中国において認められたヨーロッパ建築が円明園に存在していた。その記念すべきヨーロッパ文明をヨーロッパ人自らが破壊したことが「蛮行」だったのである。

円明園に洋館があることは高校世界史の常識だが、それが強調されすぎて「円明園には洋館しかなかった」と誤解している生徒も多い。洋館は円明園の一部であり、他には清朝領内の各地の建造物が建てられていた。円明園とは、清朝の世界支配を可視化するものだったのである。教科通信の「見出し」は「円明園は、テーマパーク…」とした。

つぎにCPと教科通信の「見出し」とが直接的には結びつかない例をあげる。

- ・「アジアは、大英帝国の“上半身”」：2年7

19世紀中頃のイギリスのアジア侵略に関連して。当時のイギリスでは、アジア各地の植民地を人体にたとえて理解することが流行していた。すなわちインドを頭、ビルマを肩、マレー半島からシンガポールを腕というふうに。そして南京条約で獲得した香港と開港した5港（広州・廈門・福州・寧波・上海）を手首と五本指に見立て、東アジア（中国）をつかみ取るイメージが形成されていた。

インド産のアヘンが中国だけではなくイギリス本国にも大量に輸入されていたことから、教科通信の「見出し」は「シャーロック＝ホームズも、麻薬中毒…」とした。

- ・「敵がいて、味方がいる」：2年13

ドイツ統一後のビスマルクの内政は「敵」を作ることによって「味方」の団結を図ろうとするものであった。それが文化闘争、そして社会主義勢力に対する「飴と鞭」の政策であったが、結果としてはドイツ国民の統合に失敗してしまう。また外交ではフランスを孤立させるために三帝同盟や三国同盟などを締結し、ビスマルク体制を保持したことを印象づけようとしたCPだが、出来ばえはあまり良くなかったと思う。

授業の後半では、フランスにおける対独感情の悪化とドレフュス事件を扱った。教科通信の「見出し」は「ドレフュスは、何語で無実を訴えたのか?」。アルザス＝ロレーヌ出身でユダヤ人でもあった陸軍将校ドレフュスに、ドイツのスパイという容疑がかけられた。彼は法廷ではフランス語で無実を訴えたであろう。しかし多言語国家フランスにおける「境界人」であったドレフュスは、さらにアルザス語・ドイツ語もしかしたらイディッシュ語も片言ながら使えたかもしれない。映画「チャイナシャドー」（1990年・柳町光男監督）では、主人公ヘンリー黄が、香港の暗黒街の実力者にのし上った後、自分に日本人の血が流れていることがわかり、その地位を失う。「ヘンリー黄は、いったい何語で泣いたのだろうか」という惹句をもじって作成した「見出し」である。

- ・「神は高く、ツァーリは遠し」：2年27

第一次ロシア革命の発端となった血の日曜日事件の導入。「神は高く、ツァーリは遠し」とは、信心深くかつツァーリ幻想を抱いていたロシア民衆が、過酷な生活から容易には救われない運命を嘆きつつ口にしていた言葉である。

授業の後半には、戦艦ポチョムキン号の反乱と関わって、エイゼンシュタインの映画「戦艦ポチョムキン」を紹介し、彼のモンタージュ理論が漢字からヒントを得ていたこ

とを説明した。教科通信の「見出し」はこれと関連させて「水+皮=波、これもモンタージュ」とした。

最後に2年次のCPで紹介した「名言」をいくつか挙げておく。

・「戦争に勝利し、会議で敗北」：2年30

ヴェルサイユ体制下のイタリアに関して。第一次世界大戦の戦勝国となったイタリアは、パリ講和会議で希望通りの領土獲得はできなかった。その結果、イタリア国内で広まった言葉をCPとして用いた。所期の予定とは異なる大きな犠牲を払った勝利であったにもかかわらず、得た利益は微々たるものだったというイタリア民衆の失望感を端的に示している文言と言えよう。

・「呉越同舟&同床異夢」：2年32

第一次国共合作の導入。名言というより、誰もが知っている故事成語であるが、中国国民党と中国共産党の関係を示すのに最適と考えた。

・「誰がために鐘は鳴る」：2年37

言うまでもなく、スペイン内戦を舞台としたヘミングウェイの長編小説『誰がために鐘は鳴る』をCPとして用いたものである。「読んではいないが作者名や書名ぐらいなら知っている」という生徒が1割ほどであった。

・「地獄への道は善意で敷きつめられていた」：2年38

諸説あるが、この文言はイギリスの古諺というのが有力なようである。ナチスドイツに対するイギリスの宥和政策の結末として、これほどの確かな文言はないように思う。

4. 3年次のCPについて

3年次の授業で使用したCPは100を超える。正直に言えば、2年次のCPと異なり3年次のものは、毎回「なんとか授業に間に合わせた…」という“新作”が大半である。CP作成の4つの方針を意識はしたが、表現形態としては、既知の文言のパロディ(A)、名言の紹介(B)、そして授業の要旨(C)の三つの型が多くなったように思う(2年次のCPも同様かもしれないが…)。それぞれ数例ずつ取りあげてコメントをしていく。

(A) パロディ型

パロディの前提は、生徒がオリジナルを知っているということである。が、残念ながらここに紹介するCPのオリジナルを知っている生徒は、まずいないだろう。そういう意味では教師の自己満足となってしまうが、むしろCPを通じてオリジナルを生徒たちに紹介することが大切と考えたい。

・「先史時代の耐えられない長さ」：3年1

世界史の授業でいちばん年代が進むのがこの時代である。なにせ1回の授業で数百万年を済ませてしまうのだから…。人類史の99%以上が石器時代であることをふまえ、

ミラン＝クンデラの長編小説『存在の耐えられない軽さ』をもじった。

・「永遠の身体も金次第」：3年4

ヘロドトスの『歴史』には、ミイラの製造法が費用別に三通り記されている。裕福な者のミイラは各内臓が壺に収められ、体内に消毒・防腐処置をしたあと丁寧に包帯を巻く。一方これよりも安価な二種類のミイラは最終的には朽ちて、身体が残らない。結局は、復活のための身体を残せるのは裕福者だけということになる。諺「地獄の沙汰も金次第」のもじりである。

・「誇大への情熱」：3年8

エーゲ文明の導入。神話や伝説には史実など反映されていないと考えられていた時代にギリシア神話やホメロスの叙事詩の舞台を発掘し、トロイ遺跡などを発見したシュリーマンの自伝『古代への情熱』をもじったものである。近年はシュリーマンの発掘の否定的側面が注目されるようになってきたが、さらにその発掘が少年時代の夢の実現ではなく、売名目的の行為であったと認識されている。つまり自分の半生をロマンティックに捏造したのが『古代への情熱』である [D＝トレイル 1999]。そういったことを踏まえてのCPである。

・「イエスとは、俺のことか？」：3年17

イエスとはギリシア語である。彼のユダヤ語名はイエホシュアである。新約聖書がギリシア語で作られた際に、彼の名もギリシア風に改められ、結果としてユダヤ色を薄めてローマ帝国各地に伝えられたのである。母のマリアも同様で、ユダヤ語名のミリヤムがギリシア風に変えられた。斎藤緑雨の川柳「ギョエテとは俺のことかとゲーテ云い」のパロディ。

・「マホメットなしにシャルル＝マーニュなし」？：3年43

ローマ帝国の東西分立・西ローマの滅亡にもかかわらず、古代地中海世界はその一体性を7世紀まで維持してきた。ところがイスラーム勢の成立・発展によって地中海貿易から排除されたフランク王国が内陸国家として発展し、封建社会を成立させた—アンリ＝ピレンヌの古典的学説である。このピレンヌ＝テーゼを端的に示す文言が、「マホメットなくしてはカール大帝の出現は考えられない」である。これを略した「マホメットなしにシャルル＝マーニュなし」に「？」をつけて作成したのがこのCPである。ポイントは「？」である。つまりフランク王国を中心とする西欧は地中海貿易から排除されたのではなく、東方に供給できる魅力ある物産を有しなかったため、結果として地中海貿易から撤退せざるを得なかった。その一方でブリテン島を中心とした北海沿岸地域との交易が活発になった—と現在では理解されているのである。ピレンヌ＝テーゼが古びたことを踏まえてのCPである。

(B) 名言紹介型

・「学問に王道なし」：3年6

エウクレイデスがプトレマイオスを論ずるために用いたとされる言葉。ここに登場する王道は、抽象的な(架空の)道ではなく、アケメネス朝の幹線「王の道」を指している。というわけで、このエウクレイデスの言葉を、ヘレニズム文明の授業ではなく、アケメネス朝のCPに用いた。またこのCPを説明する際、受験のためだけではなく、教養としての勉強もしてほしいと生徒には伝えるようにしている。

・「ローマ人は、廃墟を平和と呼ぶ」：3年13

タキトゥスの「ローマ人は廃墟をつくってそこを平和と呼ぶ」を簡潔にまとめたCP。タキトゥスが活躍したのは1世紀後半～2世紀だが、ローマの横暴さをしばしば批判した彼のこの言葉を示しつつ、ポエニ戦争によるカルタゴの滅亡を説明した。

・「来た、見た、勝った」：3年14

カエサルスの名言。「賽は投げられた」「ブルートゥス、お前もか」も有名だが、ラテン語の“VENI, VIDI, VICI”が綺麗に韻を踏んでおり、カエサルの文才を示すのにはこちらの方が適切だと判断した。

・「ゆっくりと急げ」：3年15

義父カエサルが共和主義者によって暗殺されたことから、オクタヴィアヌスは用意周到に権力を掌握していった。その彼のモットーをCPに選んだ。

・「中原に鹿を追う」：3年20

春秋戦国時代の権力争いを示すCPとして選んだ。もとは唐代の詩人魏徴の詩「述懐」の一節である。分かりやすく「追う」と記したが、やはり正しく「逐う」とすべきだったと思う。

・「胡蝶の夢」：3年21

『莊子』齊物論に記されている故事。蝶になった夢を見ていた莊子が目覚めたとき、自分が夢の中で蝶になったのか、それともいま蝶が夢の中で自分になってしまったのか判断がつかなくなったという寓話である。諸子百家の導入として用いるが、授業中に居眠りをしてしまう生徒への注意としても利用している。

・「革命の限定相続人」：3年スパサタ7

ナポレオンの登場に関して。イタリア遠征をはじめとする数々の戦勝によって名声を得たナポレオンが、フランス革命の「行き過ぎ」を改めつつ、権力者への道を進んでいったことを示す。

・「スペインの潰瘍」：3年スパサタ8

ナポレオン帝国の崩壊に関して。ゴヤの「1808年5月3日の処刑」を生徒に見せ、ゲリラ戦が展開された半島戦争について説明する。数十万のフランス軍がイベリアに釘付けとなったため、ロシア遠征軍はナポレオンの命令に不本意ながら従った各国の寄せ

集めとなり、ロシア遠征敗北の一因となった。

・「会議は踊る。されど進まず。」：3年スバサタ 9

ウィーン会議で各国代表が舞踏会に興じるばかりで、一向に議論が進展しないことを皮肉ったフランス代表タレーランの言葉。まさにウィーン会議の導入として。

・「慣習は山から、宗教は海から来る」：3年スバサタ 17

マライの諺。東南アジアの大陸沿岸部では、北部の山岳地帯から少数民族が南下し、さまざまな慣習を持ち込んでくる一方、海からはインドや中国からの外来文化（宗教）が伝えられた。前近代の東南アジアの最初の授業で導入として用いた。

・「ローマ人教皇を、少なくともイタリア人教皇を！」：3年 45

1377年に教皇グレゴリウス11世がアヴィニオンからローマに教皇庁を帰還させた直後に没すると、つぎの教皇選出時に「ローマ人教皇を、少なくともイタリア人教皇を！」という世論が起こった。こうしてイタリア人のウルバヌス6世が教皇に選出された。ところが、これに反発したフランス人枢機卿団がクレメンス7世を立ててアヴィニオンに戻ったことからシスマが始まった。その導入。

・「太陽の没することのない帝国」：3年 54

黄金時代のスペインの導入。1580年にスペイン国王フェリペ2世がポルトガルを併合し、世界各地にスペインの領土（植民地）が広がった。スペイン領のどこかで必ず太陽を見ることが出来るという文言である。授業では「逆に言えば、スペイン領のどこかで必ず太陽が沈んでいるということですけどね」と言うようにしている。

(C) 授業要旨型

・「アケメネス朝辺境での騒乱」：3年 9

ペルシア戦争は、ながらく「ヨーロッパの民主政」対「アジアの専制君主政」という枠組みで語られてきたが、そういったヨーロッパ中心の視点をはやく脱する必要があるだろう。アケメネス朝にとってより重要なのは、北方のスキタイとの戦いであったこと、そしてペルシア戦争自体には勝てなかったが、その後の巧みな外交でギリシアの諸ポリスを支配下に置いたこと（前387年の大王の和約）を授業では説明する。

・「新王朝といっても持ち回り」：3年 28

拓跋国家の導入。北魏以降の北朝諸王朝そして隋・唐は、鮮卑の拓跋部を中心とする有力家系（閥閥集団）によって建国されてきた。つまり王朝は替わっても、その支配者層の出自は同じであった（その好例が、北周・隋・唐の外戚となった独孤信）。

・「アイドルとしての国王」：3年スバサタ 1

アンシャン＝レジーム期の宮廷生活の導入。「フランス革命は自由・平等を求めて始まった。国王の贅沢な生活を民衆はさぞや妬んでいたであろう」と生徒は思いがちであ

る。しかし身分が異なれば、住む世界が異なると考えるのが、前近代の常識であった。民衆は、国王の華やかな生活を国家繁栄のしるしと考えていたのである。国王は、それゆえに威厳のある「神の子」「国父」「馬上の王」であるのと同時に、親しみやすい“アイドル”として、民衆の期待に応える必要があった。

・「均一な国民」の形成」：3年スパサタ6

革命によってまったく新しい社会を創造しようとした山岳派は、身分制度やキリスト教を否定するのみならず、革命暦やメートル法の採用・地名の変更、そしてフランス語の強制といった日常生活の改変に試みた。その目的をCPとした。

・「北庭争奪」という中央ユーラシアの覇権争い」：3年補2

8世紀後半から9世紀にかけての中央ユーラシアでは、ウイグルと吐蕃が東西交易路をめぐる激しい対立を繰り返した。それをCPとして取り上げた。

・「銀色のブラックホール」：3年補12

石見やボトシから採掘された日本銀や墨銀が、明代の中国に大量に流入した。それが一条鞭法の制定に結びつく。さらにその中国内の銀も、北方の国境地帯へと集積され、女真（満洲）人の勢力拡大へと結びついた。

・「インドネシアは、最大のイスラーム国」：3年29

「世界最大のイスラーム国は？」と生徒に尋ねると、「サウジアラビア」という答が返ってくることが多い。しかしもっともムスリムの人口が多いのはインドネシアであり、彼らにとっては少し意外な答となる。イスラームと言えば、一般的には「砂漠の宗教」「遊牧民の宗教」というイメージが強いかもしれない。アラビア半島で成立し、中央アジアや北アフリカに広がっていったことが一因であろう。しかしイスラームは「砂漠の宗教」ではないし、「部族の宗教」でもない。むしろ「都市の宗教」であり「世界宗教」である。生徒の誤ったイメージをただすCPとして、わりと有効かもしれない。

・「家来の家来は家来でない」：3年40

レーエン制度の導入。日本の封建的主従関係は、陪臣にまで連なり、その権利義務は主君に有利な片務的契約であるが、西欧の場合は、主従関係は直臣との間だけであり、またその権利義務は双務的である。これを示すために、早口言葉のようだが「家来の家来は家来でない」とうCPを作成した。

・「祈りかつ働け」という非常識」：3年41

古代において労働とは奴隷や下層の者が行なうものであり、上流階層や知識人は労働を忌避していた。しかしベネディクトゥス戒律では、修道士が自立した生活を送ることを重視し、修道士自らの労働を奨励したのである。この労働観の転換をCPとした。

・「丸腰勝負の本当の勝者は？」：3年42

破門を赦してもらうために皇帝ハインリヒ4世が、教皇グレゴリウス7世に謝罪し、武力をもたない教皇権が皇帝権に勝利をした事件がカノッサの屈辱—と一言でまとめてしまうのは、あまりにもナイーブであろう。というのも、この後ハインリヒに逆襲されたグレゴリウスが不遇のうちに没しているからである。

すなわち1077年の時点で、ハインリヒは軍を動かして教皇を追い詰めることも可能であったが、手勢を損ないたくないためにあえて「謝罪」という儀礼を完璧に行ない、赦免を勝ち取ったというのが真相なのである。

・「作られたウィリアム=テル伝説」：3年47

ハプスブルク家の支配下にあったスイスでは、13世紀末から独立運動が起こり、1315年に原初3州の特権が承認された。そのスイス独立の伝説的英雄がウィリアム=テルである。弓の名手であったテルは、代官に逆らったために、息子の頭上に置いたリンゴを射ることとなる。そして見事にこの難題を果たしたことがスイス独立の契機となったという話だが、これがまったくの創作なのである（モデルとなった人物も出来事もない）。原初3州が自らの団結を強めるために作り上げ、信じあった架空の物語なのである。ちなみにウィリアム=テルの話を知っている生徒は2割ほどであった。またウィリアム=テルは英語なので、ヴィルヘルム=テルの表記の方が好ましいかも知れない。

・「アデンとう綻び」：3年52

ポルトガルのアジア進出に関する導入。1498年にインド航路を開拓したポルトガルは1507年にホルムズを獲得した。そして10年にインドのゴアを、11年にマラッカを支配し、12年にはモルッカ諸島に到った。しかしポルトガルのアジア貿易とは、既存の交易圏への“寄生”でしかなかった。むしろ急激な海外進出によって、逆にポルトガルは国力を消耗していく。CPは、アラビア半島南端のアデンの獲得・支配にポルトガルが失敗したことを示している。香辛料（香料）貿易の独占を企てたポルトガルであったが、インド洋沿岸を制圧することは到底出来なかった。

授業後、「喜望峰の東に良心はいらない」という、当時のポルトガルで流行した言葉の方がCPとしては、より適切だったかもしれないと思った。

・「本当は不名誉革命」：3年61

名誉革命の導入。国王ジェームズ2世が暴君化したため、イングランド議会は彼を王位から追放する。そしてオランダ総督オラニエ公ウィレムとその妻メアリーを招聘し、「権利の宣言」を承認させたのちに両名を国王とした。かつてのピューリタン革命と異なり、今回はほとんど流血なく議会政治を守ることが出来た—というのが、名誉革命の一般的な説明であるが、これはイギリス側にかなり好意的なストーリーのようである。実際は、ジェームズ2世と議会との対立が始まるや、オラニエ公ウィレムがオランダ軍を率いてイングランドに上陸し、ジェームズに代わり自分を王位につけるよう議会に圧力をかけたようである。今回の政変の主導権をウィレムが握っていたことをカムフラージュするために、議会は「名誉革命」という名称を選んだのである。

・「舞台裏での勝負が本番？」：3年補18

第二次英仏百年戦争の導入。ヨーロッパ大陸での4つの戦争…「ファルツ継承戦争」「スペイン継承戦争」「オーストリア継承戦争」「七年戦争」の間に、北ドイツの領邦国家プロイセンが急成長し、ハプスブルク家とブルボン家との間に外交革命が起こるなど、ヨーロッパの国際関係に大きな変化が生じた。しかしその後の世界史により大きな影響を与えたのは、同時期に戦われていた北アメリカでの「ウィリアム王戦争」「アン女王戦争」「ジョージ王戦争」「七年戦争」であった。筆者の高校時代は、ヨーロッパ内の継承戦争が主で、植民地戦争は従の扱いであったが、近年は逆転している。

・「資源ナショナリズムとしての石油戦略」：3年67

第4次中東戦争の際、アラブ諸国が石油価格を4倍に引き上げ、オイルショックと呼ばれる経済混乱を世界にもたらした。直接的にはイスラエルを支援するアメリカ側に対する対抗措置であったが、その背景には国際石油資本（メジャーズ）に対する産油国の利益の保全があった。

以上、パロディ型・名言紹介型・授業要旨型と名づけた三つの型を中心にCPを紹介してきたが、もちろん融合型やこれらの型にはまらないものも多い。いずれにせよ、生徒たちに「なるほど！」と思わせるようなCPをさらに工夫していきたいと思う。

2年間のCP全体を通じての反省点と補足を記しておく。

54期生のすべての授業で筆者はCPを作成したが、じつは一つだけ使用できなかったCPがある。「ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ①」2年29の授業の『「戦後のタケノコ」の国境地帯』である。このCPは、ヴェルサイユ条約によって革命ロシア（ソヴィエト政府）と西欧との間に多数の新興国家が「雨後のタケノコ」のごとく建国されたことを揶揄したものである。合衆国の大統領ウィルソンが主張した民族自決の原則はヨーロッパ以外では無視されたが、ヨーロッパ（それも東欧）には適用された。社会主義国との隣接国を増やし、その外交を複雑困難にするためであった。さてこのCPが使用できなかったのは、内容に不満や不備があったためではない。恥ずかしいことだが、授業プリントの原稿からCPの一行が抜け落ちていることに気づかず印刷し、生徒に配布したためである。

また「キリスト教の形成」3年16と「前近代のイスラーム史③」3年33の二つの授業のCPだが、前者は「信じるものは救われる」で後者は「信じる者だけ救われる」である。ともに一神教・契約宗教の厳しさを強調したもののだが、ほぼ同じCPとなってしまったことに後から気がついた次第である。

「イスラーム・中東の初歩②」3年30のCPは「女性専用列車は性差別か？」であった。イスラームにおいて男女の活動の場を分けるのは、本来は女性尊重のためであったが、近代ヨーロッパ流の男女同権の考え方からは性差別とみなされてしまうことが多い。そこで公共交通機関における痴漢行為から女性を保護するための措置を例にあげ、何をもって平等・公平とみなすのかを生徒たちに考えさせてみた。内容は悪くなかったと思うが、授業後に「先生、専用列車じゃなくて、専用車両でしょう」と指摘された。

不出来なCPはきりが無いが、なかには自分としては上出来と思うCPもいくつかある。3年次の自作のCPから三つほどあげてみたい。

一つめは「古代オリエント①」3年2の「平和なロバ」である。旧約聖書の中のロバと馬の登場する場面を比較すると、ロバは農作業などの生活の場が、馬は戦場が圧倒的に多いという。大型で力の強い馬に牽かせる戦車（チャリオット）は、鉄器とならんでヒッタイト軍の強さの源であった。大航海時代であるが、大型の有蹄類を知らなかったアメリカ先住民が、馬上で火器を使うヨーロッパ人に慄いたことにも触れたいところである。

二つめは「古代の南アジア史④」3年スパサタ15の「カレーのようなヒンドゥー」である。祭式至上主義のパラモン教を否定した仏教は、のちに“高踏化”して民衆の支持を失うと、冠婚葬祭を通じて社会に根付いていったヒンドゥー教に組み込まれてしまう。ブッダがヒンドゥーの三大神の一つであるヴィシュヌ神の第9番目の化身とみなされていると説明すると、多くの生徒は驚く。どのような具材を用いても結局は、そう呼ばれてしまうカレーをヒンドゥーの比喻として用いたCPである。

三つめは「前近代のイスラーム史⑥」3年36の「ワクワクできる地図」である。アラビア商人は、インド洋海域で交易をし各地のさまざまな情報を得ていくなかで、中国の東方にワクワクという島があることを知る。ワクワクは、9世紀半ばの地理書『諸道と諸国の書』に記され、イドリーシーの1154年の地図にも、アフリカの延長上に描かれている。このワクワクとは日本のことであり、倭国の発音が変化したものと考えられている。

5. おわりに

2年間にわたるささやかな試みの末、通史に対応できるCPのストックができた。もちろんこれに胡坐をかきようでは話にならない。授業の組み換えと同様に様々なアンテナをはって、CPを改訂をしていく必要がある。

さて、かつて筆者は「授業後に生徒自身に当該授業に相応しいCPを作成させて、教師のCPと比較することも一案かもしれない」と記しているが、今回はそこまで及ばなかった〔笹川裕史：2009〕。今後は、CPの改訂とともにその多様な活用法も考えていきたい。

参考文献

- 〔笹川裕史：2006〕「世界史の教科通信の作成とその活用」（『研究集録 第48集』大阪教育大学附属天王寺中高等学校 2006年 pp.19-42）
- 〔笹川裕史：2009〕「世界史を教えない—キャッチフレーズで始まる授業」（『研究集録 第51集』大阪教育大学附属天王寺中高等学校 2009年 pp.1-26）
- 〔笹川裕史：2011〕「大阪になれなかったマンチェスター—綿業にみる日本とイギリスの工業化」（『研究集録 第53集』大阪教育大学附属天王寺中高等学校 2011年 pp.27-50）
- 〔A=ピレンヌ1960〕『ヨーロッパ世界の誕生』中村宏・佐々木克巳訳（創文社）
- 〔D=トレイル1999〕『シュリーマン 黄金と偽りのトロイ』周藤芳幸他訳（青木書店）

<資料編>

授業プリントのタイトルのあとの【 】内は、CPと関わる授業内容。

2年次

1行目が授業プリントのタイトル。

2行目前半が授業プリントに掲載したCPで、後半が当該授業の教科通信の「見出し」

<1学期>

- 1 イギリスという国について【イギリスの国旗】
クロスがクロス / U. K. : クロス (十字) がクロス (交差) した国
- 2 イギリスの工業化 (産業革命) ①【生活革命】
紅茶に砂糖 / 砂糖なければ、無茶苦茶か?
- 3 イギリスの工業化 (産業革命) ②【イギリスとアジアの綿業の相違】
大阪になれなかったマンチェスター / 自給自足とは無縁の「産業革命」
- 4 イギリスの工業化 (産業革命) ③【交通機関の整備】
鉄道マニアはファンではない / 大学教授Aの貢献
- 5 19世紀前半のイギリスの政治【腐敗選挙区】
一票の格差、無限大 / エリソン=ジャックは、「工場労働者」ではなかった…
- 6 清とイギリス【朝貢貿易】
出血赤字の大サービス / 明清を無視して近代ヨーロッパなし
- 7 19世紀中頃の東～南アジア・太平洋①【アヘン戦争と南京条約】
アジアは、大英帝国の“上半身” / シャーロック=ホームズも、麻薬中毒…
- 8 19世紀中頃の東～南アジア・太平洋②【アロー戦争】
円明園の破壊がなぜ野蛮なのか? / 円明園は、テーマパーク…
- 9 19世紀中頃のフランスと合衆国【ナポレオン3世の外交】
大ナポレオンの“教訓” / とても筆まめだったナイチンゲール
- 10 19世紀中頃の合衆国【リンカーンのイメージ戦略】
“No.1”を自作自演 / 永遠の3分間
- 11 ドイツ統一とフランス【パリ=コミューン】
不都合な“愛国心” / ドイツ人って、どいつ?
- 12 「幕末・維新」の世界史【日本国民とは何か】
「想像の共同体」 / 「鎖国」というフィクション
- 実1 洋務運動、および日朝関係 (実習生の授業につき、CPおよび通信は作成せず)
- 実2 日清戦争 (同上)
- 実3 義和団事件 (同上)
- 13 統一後のドイツとフランス【ビスマルクの内政】
敵がいて、味方がいる / ドレフュスは、何語で無実を訴えたのか?
- 14 19世紀後半のアフリカと南アジア【モノカルチャーの強要】
文明化という名の植民地化 / マーガリンとバターの関係は、石炭と石油…?
- 15 近代スポーツの歴史【社交としてのイギリスのスポーツ】

サッカーはなぜPK戦か? / WCの日本の全試合観戦は、プチ・ナショナリズム?

< 2 学期 >

16 19 世紀の中東の情勢【19 世紀後半のオスマン帝国】

「瀕死の病人」の特効薬は? / 瀕死の病人からの遺産泥棒

17 19 世紀末のアフリカとヨーロッパ【帝国主義時代の英仏独】

バリダカ、帝国主義耐久レース / 独の4つめのB（ボンベイ）を恐れた英

18 世界史としての日露戦争【日露戦争】

第0次世界大戦? / 意外と名言?…駆け込みセーフは、アウトです。

19 日露戦争前後のアジア【韓国併合】

「文明国」の実態は? / 日本の紙幣…昔は政治家、今は文化人。

20 辛亥革命【孫文と辛亥革命】

これでは“心外”革命 / 孫文と袁世凱、実はコインの表裏?

21 第一次世界大戦①【三国協商と三国同盟】

平和のための軍事同盟 / 赤信号、みんなで渡れば誰か死ぬ…

22 第一次世界大戦②【NHK特集 映像の世紀 第2集「大量殺戮の完成」前半の視聴】

戦争に引きずられた政治 / (教科通信作成せず)

23 第一次世界大戦③【NHK特集 映像の世紀 第2集「大量殺戮の完成」前半の視聴】

文明は野蛮か? / (教科通信作成せず)

24 第一次世界大戦④【アメリカ参戦】

なくすしの終戦 / 現代の始まり…第一次世界大戦

25 「歴史」という冒険①【歴史認識とは何か】

第一次世界大戦は、いつ始まったか? / (教科通信作成せず)

26 19 世紀後半のロシア【ナロードニキ】

周回遅れの先頭走者 / 大国だが先進国ではないロシア

27 ロシア革命①【血の日曜日事件】

神は高く、ツァーリは遠し / 水+皮=波、これもモンタージュ

28 ロシア革命②【ロシア十月革命】

礼仁から冷忍へ / (教科通信作成せず)

29 ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ①【東欧諸国の民族自決】

「戦後のタケノコ」の国境地帯 / 「怠け者」から「鉄の男」に…

30 ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ②【ファシズムへの傾斜】

戦争に勝利し、会議で敗北 / ファッションとは、古代ローマの元老院議員の杖…

31 ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ③【ヒ首伝説】

戦争に負けなかったドイツ / 敗因の合理的ではない合理化

32 1920年代のアジア①【第一次国共合作】

呉越同舟&同床異夢 / 国共合作という名の呉越同舟

33 1920年代のアジア②【ガンディーの非暴力不服従運動】

無力という力 / 無力であることを“力”に変えたガンディー

34 世界恐慌【ニューディール政策】

豊かな貧しさと再チャレンジ / ニューディールという非常手段

35 「歴史」という冒険②【予測できない歴史】

「バック・トゥ・ザ・フューチャー」 / (教科通信作成せず)

< 3 学期 >

36 1930年代の世界①【ナチスの台頭】

気づかないふりをしていたらファシズム / 君は、ヒトラーの嘘を見抜けるか

37 1930年代の世界②【スペイン内戦】

「誰がために鐘は鳴る」 / 見方を変えろ…敵でない者は味方

38 第二次世界大戦①【ミュンヘン会談】

「地獄への道は、善意で敷きつめられていた」 / 地獄へのアウトバーン…時速制限なし

39 第二次世界大戦②【真珠湾攻撃】

裏口から参戦? / ドイツ任せのイタリア・日本

40 第二次世界大戦③【パリ解放】

破滅への情熱? / 敗退を転進と言い換えて…

41 第二次世界大戦④【原爆の投下】

「原爆神話」という虚実 / 「作るだけで使わない」…思考を停止させる呪文

42 冷戦のはじまり①【U. N. の意味】

“連合国”から“国際連合”へ / 国際軍事法廷…民主化への通過儀礼?

43 冷戦のはじまり②【鉄のカーテン】

黄金期の始まり? / 冷戦の波及…東欧から東亜へ

44 冷戦のはじまり③【朝鮮戦争】

日本の代わりとなった朝鮮半島 / 半世紀を越える休戦

3 年次

1 行目が授業プリントのタイトル。

2 行目が授業プリントに掲載したCPで、3年次は、教科通信を作成していない。

< 1 学期 >

1 文明への過程【石器時代】

先史時代の耐えられない長さ

2 古代オリエント①【ヒッタイトの鉄器と戦車】

平和なロバ

3 古代オリエント②【上エジプトと下エジプト】

二つのエジプト

4 古代オリエント③【ミイラづくり】

永遠の身体も金次第

5 古代オリエント④【音標文字としてのフェニキア文字】

ジス イズ ア ベン

- 6 古代オリエント⑤【王の道】
 学問に王道なし
- 7 古代ギリシア①【シュリーマンの発掘】
 「誇大への情熱」
- 8 古代ギリシア②【巨大ポリスであったアテネとスパルタ】
 例外が典型？
- 9 古代ギリシア③【ペルシア戦争】
 アケメネス朝辺境での騒乱
- 10 古代ギリシア④【スコラ】
 閑だから学校
- 11 古代ギリシア⑤【大王アレクサンドロス】
 イスカンダルの伝説
- 12 古代ローマ①【パトリキとプレブスの対立】
 平等公平という原則と幻想
- 13 古代ローマ②【ポエニ戦争】
 「ローマ人は、廃墟を平和と呼ぶ」
- 14 古代ローマ③【カエサル】
 「来た、見た、勝った」
- 15 古代ローマ④【オクタヴィアヌス】
 「ゆっくりと急げ」
- 16 キリスト教の形成【イエスの思想】
 信じるものは救われる
- 17 キリスト教と古代ローマ①【新約聖書】
 イエスとは、俺のことか？
- 18 キリスト教と古代ローマ②【キリスト教の国教化】
 終末の過ごし方
- 19 古代中国文明と殷・周【貝と羊】
 貨・貸・買・貯・贖・費・財・貰・貧…
- 20 周～春秋・戦国時代の社会【春秋の五覇】
 中原に鹿を追う
- 21 百家争鳴と秦の統一【荘子】
 胡蝶の夢
- 22 秦と漢の統一政策【皇帝による中央集権的支配】
 役人は融通が利かない
- 23 漢①【匈奴と漢の対立】
 何のための長城？
- 24 漢②【赤眉の乱】
 偉業？の影に異形あり
- 25 漢の文化と三国時代【司馬遷】
 二枚の肖像画

- 26 東アジアの中の「南北朝」時代①【中国における仏教の受容】
誤解されて大流行
- 27 東アジアの中の「南北朝」時代②【魏からの賜った礼服】
卑弥呼のファッション
- 28 南北朝時代の文化と隋の中国統一【拓跋国家】
新王朝といっても持ち回り
-
- スパサタ 1 革命前のフランス①【アンシャンレジーム期の国王】
アイドルとしての国王
- スパサタ 2 革命前のフランス②【身分とは何か】
失業のない社会？
- スパサタ 3 フランス革命①【第三身分とは何か】
98%の国民
- スパサタ 4 フランス革命②【ヴェルサイユ行進】
パン屋の帰還
- スパサタ 5 フランス革命③【ヴァレンヌ逃亡事件】
フランスは誰のものか
- スパサタ 6 フランス革命④【恐怖政治】
「均一な国民」の形成
- スパサタ 7 ナポレオン①【ナポレオンの登場】
「革命の限定相続人」
- スパサタ 8 ナポレオン②【ナポレオンの没落】
スペインの潰瘍
- スパサタ 9 ウィーン体制【ウィーン会議】
会議は踊る。されど進まず。
- スパサタ 10 ウィーン体制の動揺①【イギリスの自由主義】
イギリスの「見えない帝国」
- スパサタ 11 ウィーン体制の動揺②【フランス七月革命】
レ＝ミゼラブルの世界
- スパサタ 12 古代の南アジア史①【古代インド世界】
歴史のないインドの歴史
- スパサタ 13 古代の南アジア史②【バラモン教と仏教】
輪廻転生の苦しみ
- スパサタ 14 古代の南アジア史③【海路に開かれたインド】
聖トマスの伝道
- スパサタ 15 古代の南アジア史④【ヒンドゥー教】
カレーのようなヒンドゥー
- スパサタ 16 イスラーム前の西アジア史【バルティア】
「文明の十字路」
- スパサタ 17 前近代の東南アジア史①【東南アジア大陸部】

「慣習は山から、宗教は海から来る」

スパサタ 18 前近代の東南アジア史②【ジャワ島】

災いと恵みの火山列島

補 1 唐①【科挙】

身言書判と琴棋書画

補 2 7～10 世紀の東・中央アジア【ウイグルと吐蕃】

“北庭争奪”という中央ユーラシアの覇権争い

補 3 唐②【黄巢の乱】

閩塩、いまなら麻薬のシンジケート

補 4 宋①【澶淵の盟】

平和にも金は要る

補 5 華北の征服王朝【岳飛と秦會】

不人気な文民統制？

補 6 宋②【宋の文化】

周銅・漢漆・宋磁

補 7 モンゴルの時代①【遊牧民の生活文化】

「競馬・弓・相撲」のナーダム祭

補 8 モンゴルの時代②【世界帝国モンゴル】

13 世紀の合衆国？

< 2 学期 >

補 9 モンゴルの時代③【ユーラシアの陸と海の連関】

世界史の成立？

補 10 明①【太祖朱元璋】

「聖賢・豪傑・盜賊」の三位一体

補 11 明②【朝貢貿易】

琉球 171 vs. 安南 89 vs. 日本 19

補 12 明末清初【日本銀と墨銀の行方】

銀色のブラックホール

補 13 清①【清の中国支配】

華夷変態

補 14 清②【雍正帝】

正大光明な後継者

29 イスラーム・中東の初歩①【砂漠の宗教ではないイスラーム】

インドネシアは、最大のイスラーム国

30 イスラーム・中東の初歩②【イスラームにおける女性の地位】

女性専用列車は性差別か？

31 前近代のイスラーム史①【ムハンマドとハディース】

愛があれば年の差なんて…

- 32 前近代のイスラーム史②【ジハード】
さまざまな“努力”
- 33 前近代のイスラーム史③【啓典の民】
信じる者だけ救われる
- 34 前近代のイスラーム史④【マムルーク】
敗者復活のある社会
- 35 前近代のイスラーム史⑤【ニザーミーヤ学院】
11世紀のチェーンスクール
- 36 前近代のイスラーム史⑥【アラビア商人のインド洋交易】
ワクワクできる地図
- 37 ヨーロッパ世界の成立【ゲルマン民族の移動】
フランクフルトがあちこちに
- 38 フランク王国の興隆【カロリング朝の成立】
神聖王から軍隊王に、そして…
- 39 フランク王国の分裂とノルマン民族
バルト海から黒海への「琥珀の道」【ノヴゴロドとキエフ】
- 40 封建社会の成立【レーエン制】
家来の家来は家来でない
- 41 キリスト教社会の発展【ベネディクトゥス戒律】
「祈りかつ働け」という非常識
- 42 ローマ教皇と十字軍【カノッサの屈辱】
丸腰勝負の本当の勝者は？
- 43 中世都市の発展【ピレンヌ＝テーゼ】
「マホメットなしにシャルル＝マーニュなし」？
- 44 12～13世紀の英・仏【ノルマン＝コンクエスト】
カウはビーフに、ピッグはポークに
- 45 ローマ教皇権の衰退【教皇のパピロン捕囚とシスマ】
「ローマ人教皇を、少なくともイタリア人教皇を！」
- 46 中世後期のヨーロッパ①【ジャンヌ＝ダルク】
1m50cmのラ・ビュセル
- 47 中世後期のヨーロッパ②【スイス独立】
作られたウィリアム＝テル伝説
- 48 中世後半の東欧と中世文化【ロシアのキリスト教受容】
ロシア人の「人生の楽しみの半分」とは？

スパサタ 19 ルネサンス①【文芸復興】

NISSAN RENAISSANCE

スパサタ 20 ルネサンス②【『神曲』と『デカメロン』】

$1 + 3 \times 3 = 10 \times 10$

スパサタ 21 ルネサンス③【シェークスピアの四大悲劇】

残念だったロミオとジュリエット

スパサタ 22 ルネサンス④【科学革命への道】

ガリレオの悲劇は宗教改革のせい？

49 オスマン帝国の成立と発展【ヴラド=ツェペシュ】

龍と呼ばれた男

50 大航海時代①【地球球体説】

水平線の彼方へ

51 大航海時代②【コロンブス】

キリストを運ぶ者

52 大航海時代③【ポルトガルのアジア進出】

アデンという綻び

53 大航海時代④【アステカ文明の破壊】

ケツァルコアトルの帰還

54 大航海時代⑤【黄金時代のスペイン】

「太陽の没することのない帝国」

55 宗教改革①【ヴォルムスの帝国議会】

フス⇄ルター 1世紀の差

56 宗教改革②【カルヴァン】

予定は決定？

57 宗教改革③【ロヨラとシャヴィエル】

軍隊上がりの隣の下宿人

58 16世紀後半の英仏【グレゴリウス暦】

1616年4月23日の偶然

59 17世紀の蘭独の明暗【オランダの発展】

322mの「三国ヶ丘」

60 イギリス革命①【ジェームズ1世】

小心ゆえの強がり

61 イギリス革命②【名誉革命】

本当は不名誉革命

62 「魔女」と「カード」の社会史【魔女裁判】

「悪」の存在証明？

補 15 フランス絶対王政とイギリスの議会【責任内閣制】

嫌がる議長を席に就かせる与野党の猛者

補 16 近代初期の中・東欧【ツアーリ幻想】

偽ツアーリの大活躍

補 17 18世紀のロシア【北方戦争】

海への衝動

補 18 18世紀のヨーロッパ外交【第二次英仏百年戦争】

舞台裏での勝負が本番？

補 19 米ソ二極体制の変化①【インド独立】

上野動物園のゾウさん

補 20 米ソ二極体制の変化②【スターリン批判】

スターリン個人の問題？

< 3 学期 >

63 米ソ二極体制の変化③【キューバ革命】

「肖像」のない独裁

64 米ソ二極体制の変化④【ヴェトナム戦争】

TV中継された戦争

65 自由と平等を求めて【公民権運動】

シット=イン運動で本日も開店休業

66 1960～70年代の世界①【軍拡競争】

「やらせ」としての冷戦維持？

67 1960～70年代の世界②【第4次中東戦争】

資源ナショナリズムとしての石油戦略

68 冷戦の終結とその後【ソ連崩壊】

地滑りの時代？

A Long Way to Cool Catchphrases in Class of World-History

:Lessons Full of Attractive and Useful Catchphrases(2)

SASAGAWA Hiroshi

This article shows the list of effective catchwords for World-History taught in Senior-High School. The catchwords, used in my classes, are classified into some groups: (a)parodies of famous words, (b) well-known sayings to appreciate, (c) catchwords that indicate the points of lessons etc. Some examples of these classified catchwords and self-examination are introduced.

Key Words:catchphrases, world-history



小学校算数科における活用教材の一考察

よし むら のぼる
吉 村 昇

抄録：全国学力調査のB問題を分析した結果、それらの題材を「目的明確化」、「価値実現化」することによって、活用教材として扱えるのではないかという示唆が得られた。

また、算数的活動を充実したものにするためには教材を「ICT活用化」する視点が必要であることが分かった。既存の教科書教材をこの3つの視点で修正することによって「活用教材」として扱える可能性が高まることが分かった。

キーワード：数学教育、活用教材、目的明確化、価値実現化、ICT活用化

1. はじめに

昨今、活用力の育成が叫ばれているが、「活用」というと、まず全国学力・学習状況調査のB問題を想起するだろう。この学力調査は、平成19(2007)年度4月、小学校6年生・中学校3年生を対象とし、文部科学省によって、約40年ぶりに実施された全国学力学習状況調査のことである。この調査では基礎的な「知識」(A)と応用となる「活用」(B)に分かれている。算数B・数学Bの問題は、知識・技能等を生活の様々な場面に活用するという視点に立ったもので、情報を整理していく過程や生活経験を数学的に読み解く力必要とされる問題である。具体的には、言葉や図等を使って説明する問題や複数の条件組み合わせで判断する問題等、今まで学んだ知識や情報を的確に処理し、活用する力を求めるための問題である。こうした学力調査が実施されることになった背景には、2003年の際学力調査(PISA調査)の結果によって、日本では「PISAショック」と言われる現象が引き起こされたことが発端になっている。

「PISAショック」とは、OECDが15歳児を対象に行っている国際学力調査(PISA調査)において2003年調査の結果が2000年調査の結果より落ちたこと、特に読解と数学で落ち込の大きかったことが広まったショックのことである。例えば、2000年調査における「数的リテラシー」の順位は、参加32カ国中1位であったのが、2003年調査では、参加41カ中6位となってしまった。このような結果を受けて、日本の教育政策は、ゆとり教育か学力向上へ、大きく方向転換を迫られることになった。読解力向上プログラム、全国学調査、学校教育法の改正、学習指導要領の改訂など、ここ数年進められてきた教育政策は、「読解力」「活用」「思考力・判断力・表現力」などがキーワードになっている。こからはすべてPISAに関連しているといえよう。現在、全国学力調査B問題においても、PISA調査と同様の「データやグラフからある種の判断を求め、その判断の理由を問う」問題継続的に出題されている。

また、今回改訂された学習指導要領には、「算数的活動」が各学年の内容に示されてり、

児童が目的意識をもって主体的に取り組む算数に関わりのある様々な活動を「算数活動」と定義している。更に、算数に関する課題について考えたり、算数の知識をもと発展的・応用的に考えたりする活動や、考えたことなどを表現したり、説明したりする動は、具体物などを用いた活動でないとしても算数的活動に含まれるとしている。今回改訂において、算数の学習方法の原理・内容として「算数的活動」がより一層重視されたのは、「算数的活動」を通じた学習活動のなかでこそ、「活用する力」が高められる考えられているからだといえよう。つまり、「算数的活動」を通して、算数を学ぶこと楽しさと充実感が味わえるような楽しい算数の授業を創り出していくことが求められてるといえよう。さらに、「算数的活動」を充実したものにするためには、「ICT活用の視点を持つことが必要になってくるであろう。

ここでは、学力・学習状況調査のB問題を分析し、現在、社会で求められている力のようなものなのかを検討しながら、「活用力の育成」をねらいとし、よりよい授業づくりをするために、どのような視点が必要かについて検討する。

2. 全国学力調査B問題（主として「活用」に関する問題）の分析

全国学力調査の実施方法及び調査の内容等については、全国的な学力調査の実施方法に関する専門家検討会議で議論された。その結果は、『全国的な学力調査の具体的な実方法等について（報告）』（平成18年4月、以下『報告書』という。）にまとめられている。『報告書』では、出題範囲・内容について、各学校段階における各教科などの土台となる基盤的な事項に絞った上で、特に、主として「活用」に関する問題については、次のような基本理念をもとに問題作成することが適当とされている。

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

また、『報告書』では算数・数学科の立場から、以下のような観点を盛り込むことや夫することが考えられると述べられている。

1. 物事を数・量・図形などに着目して観察し的確に捉えること
2. 与えられた情報を分類整理したり必要なものを適切に選択したりすること
3. 筋道を立てて考えたり振り返って考えたりすること
4. 事象を数学的に解釈したり自分の考えを数学的に表現したりすること など

それぞれの内容は、次のように考えられる。

まず、1については、日常の場면을観察して、数や量の関係を捉えて規則性を見いだしたり、図形を見いだしたりすることなどが考えられる。

2については、与えられた情報を分類整理し、目的に応じて情報を選択したり、複数情報を関連付けたりすることなどが考えられる。

3については、解決の見通しをもち問題の類似性に着目して類推したり、共通性に着して一般的な事柄を帰納したり、ある事柄が正しいことを根拠を基にして演繹的に明らかにしたりするなどの「筋道を立てて考えること」や、解決方法や得られた結果の妥当性吟味して改善したり、問題の条件を変えて発展的に考え一般化したり、複数の事象の共点を見いだして統合したりするなどの「振り返って考えること」が考えられる。

4については、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて数学的に表現されたもの意

味や考え方を理解したり、その特徴を捉えたりするなどの「事象を数学的に解釈すると」や、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて「自分の考えを数学的に表現すると」が考えられる。平成24年度に実施された全国学力調査B問題は次の5題であった。

- 1 日常事象の解釈と根拠の説明（おつり）
- 2 事象の観察と判断の根拠の説明（跳び箱）
- 3 図形の観察と発展的な考え（四角形の面積）
- 4 目的に応じた判断と筋道を立てた表現（調理）
- 5 情報の解釈と数学的な表現（一輪車）

知識・技能等が活用される場面として、算数科固有の問題場面、他教科等の学習問題場面、日常生活の問題場面が考えられる。今年度の知識・技能が活用される問題場面は、具体的にどのような問題場面であるか、また、学習指導とどのように繋がっていく問題であるかを述べると次のようになる。

小学校 算数B 1 日常事象の解釈と根拠の説明（おつり）

1

たかしさんは、買い物をしました。

① 買物の代金は320円でした。

たかしさんは、100円と50円をそれぞれ2枚ずつ、50円と10円をそれぞれ2枚ずつ、10円と5円をそれぞれ2枚ずつ、5円と1円をそれぞれ2枚ずつ、おつりを受け取りました。

すると、お母さんから「あと20円お返しください」とたかしさんにいわせ、50円のおつりに20円お返ししました。

どうしてあと20円お返しをしないのですか。

おつりです。

おつりを受け取る時、おつりの硬貨の枚数を少なくするんだ。

たかしさんがもらったおつりでは、同じ種類の硬貨が2枚でした。その必要硬貨の枚数、たかしさんがもらった硬貨はこれです。答えを書きましょう。

硬貨の種類

1	5	10	50	100	500
1円	5円	10円	50円	100円	500円

② この買物の代金は630円でした。

たかしさんは、おつりの硬貨の枚数を少なくするために、お金の出し方を工夫して、100円札に30円を加えておつりを受け取りました。

すると、お母さんが「1030円に、あと100円お返しから、おつりの硬貨の枚数を少なくするよ」とおっしゃいました。

たかしさんの出し方

お母さんの出し方

たかしさんとお母さんの出し方では、お母さんのほうがおつりの硬貨の枚数が少なくなると思えます。

お母さんの出し方のほうが少なくなると思える理由を、2人のおつりの硬貨の種類と枚数を比べて、言葉と数を使って書きましょう。

図1 問題 1（おつり）

問題 1（おつり）は、買い物をする際、おつりの硬貨の枚数を少なくするために、代金の支払い方を工夫するという問題場面です。2通りの支払い方に伴うおつりの硬貨の種類と枚数を比較し、一方の支払いの方が、おつりの硬貨の枚数が少なくなる理由を言葉と数を用いて記述することが求められている問題であった。また、日常生活で使う計算について、工夫をしたときとしないときとの違いを比較し、数理的な処理のよさに気付かせることに繋がる問題ともいえよう。

小学校 算数B 2 事象の観察と判断の根拠の説明（跳び箱）

2

ゆかりさんの学校には、小型と中型の2種類の跳び箱があります。
 小型の跳び箱の1段ごとの高さは、1段目が30cm、2段目から5段目までそれぞれ10cmです。
 中型の跳び箱の1段ごとの高さは、1段目が35cm、2段目から4段目までそれぞれ15cm、5段目から8段目までそれぞれ10cmです。

小型の跳び箱 (8段)

中型の跳び箱 (8段)

(1) 小型の跳び箱を5段にしたときの高さを求める式はどれですか。次で1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 $35 + 15 \times 8$
- 2 $35 + 15 \times 7$
- 3 $35 + 15 + 4 \times 10 \times 3$
- 4 $35 + 15 \times 3 + 10 \times 4$

(2) ゆかりさんたちは先生から、小型と中型の跳び箱を、同じ高さにして遊ばせるようにたのまれました。
 まず、みんながよく練習している小型の跳び箱を5段にしました。そのときの高さは70cmでした。

小型の跳び箱 (5段)

次に、中型の跳び箱を小型の跳び箱と同じ70cmの高さにするように思いました。中型の跳び箱を70cmの高さにすることはできますか。

下の1と2から正しいほうを選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだ理由も、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 小型の跳び箱を70cmの高さにすることはできる。
- 2 中型の跳び箱を70cmの高さにすることはできない。

(3) ゆかりさんたちは、それぞれ別段の高さのときに、2つの跳び箱を同じ高さにするのを、決めることにしました。
 すると、小型の跳び箱を5段にして中型の跳び箱を2段にしたときに、同じ高さになりました。また、小型の跳び箱を8段にして中型の跳び箱を4段にしたときも、同じ高さになりました。

小型の跳び箱

中型の跳び箱

80cm

50cm

このとき、2つの跳び箱を同じ高さにするのは50cmと80cmでした。50cmから30cm高くすると同じ高さになることがわかります。なぜ30cm高くすると同じ高さになるのですか。そのわけも、次で1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 30cmの「30」が10と15の最大公約数だから。
- 2 30cmの「30」が15と30の最大公約数だから。
- 3 30cmの「30」が10と15の最小公倍数だから。
- 4 30cmの「30」が15と30の最小公倍数だから。

図2 問題2 (跳び箱)

問題2 (跳び箱) は、体育科の学習に関連して、規格が異なる2種類の跳び箱の高さを同じ高さにするという問題場面で、必要な情報を用いて、中型の跳び箱を指定された高さにするができるかどうかを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することを求められている問題であった。算数の知識・技能等を実生活の様々な場面に活用するためには、日常の事象を数や量などに着目して観察し、数学的に考察する学習の機会を設定することは大切である。そういった意味で、この問題は算数と日常生活との関わりについて興味・関心を高めることに繋がる問題といえよう。

小学校 算数B 3 図形の観察と発展的な考え（四角形の面積）

3

あつこさんは、長方形の中に4枚の直角三角形の面積について調べています。

① 図アのように、縦6cm、横10cmの長方形の中に4枚のひし形の面積を求めます。
ひし形は2枚組みます。長方形は3つの直角三角形に分けます。

図ア

面積が等しい直角三角形にそれぞれ○の印をつけて、図イのようにします。

図イ

求め方

ひし形の面積は○を4つあわせたりきです。
白い部分の面積は○を4つあわせたりきです。
長方形の面積はひし形の面積と白い部分の面積をあわせたりきなので、○を8つあわせたりきです。
だから、ひし形の面積は長方形の面積の半分になります。
このひし形の面積を求めるとは で、答えは cm² になります。

上の求め方について、1)に入る数と2)に入る数を書きましょう。

② 次に、長方形の中にいくつもの直角三角形と、ひし形を組み合わせて、いくつもの形を作ります。その面積を調べます。

図1から図3のように、長方形の中に直角三角形をつくり、面積が等しい直角三角形にそれぞれ○や△などの印をつけてみます。

図1

図2

図3

図1から図3を見ると、長方形の面積は4枚の面積と白い部分の面積をあわせたりきになります。

そこで、4枚の面積と白い部分の面積を比べ、長方形の面積の何倍を調べます。

この結果を下の表にまとめます。

4枚の面積	○を2つと△を2つあわせたりき	ア	○△の面積を4つあわせたりき
白い部分の面積	○を2つと△を2つあわせたりき	イ	○を4つと△を4つあわせたりき
長方形の面積は4枚の面積と白い部分の面積の何倍になる		ウ	4枚の面積は長方形の面積の何倍になる

あつこ

公平になるときと、不公平にならないときがあるね。

あつこ

上の表の ア、イ、ウ に入る数や印を書きましょう。

図3の直角三角形は、印がつけられていない部分(□)があるね。

あつこ

図3 問題3 (四角形の面積)

小学校 算数B ④ 目的に応じた判断と筋道を立てた表現（調理）


4

ひろしさんの学習では、家庭科の調理実習でごはんをボトムサラダを作ることにしました。

(1) ごはんを作るための計画を立てます。

ごはんは、ごはんの炊き出しで40分間あればできあがりです。

季節（1）は30分まででごはんができあがるようにするには、炊き出しを最初の時刻までに済ませなければなりません。今の時刻を書きましよう。




ひろしさんの家は、ごはんができあがるまでの40分間を使って、ボトムサラダを作ることでできるかどうかを考えています。


そこで先生に時間のみやすさをたずねると、次のように教えてくれました。

ボトムサラダを調理する時間のめやす

調理1（お米を→洗う→炊く）	10～15分間
調理2（ゆでる→ゆきつける→盛りつける）	20～25分間

 あなたたちの数の人数なら、めやすはこれくらいの間隔です。

先生



この時間を見て、ひろしさんの家は、ごはんができあがるまでの40分間で、ボトムサラダを作ることでできるか考えてみました。

次のように考えると、ボトムサラダは40分間以内でできることがわかります。

調理1に **1** 分間かたり、調理2に **2** 分間かかるとしても、40分間以内でできることがわかります。

よって、②に入る前に①のめやすを書きましよう。


(3) 調理実習の時間になりました。ごはんを作るための1人分の材料と分量は次のとおりです。

1人分の材料と分量


米・・・80g
 卵・・・120g
 （卵は米の重さの1.5倍です。）

ひろしさんは、卵で焼く卵焼きをはいります。

最初に卵割だけをはかりのせると、はかりの読みは**図ア**になりました。次に卵を入れたら、はかりの読みは**図イ**になりました。



図ア



図イ

ひろしさんの卵かごはんを作るのに必要な卵の重さは、80gになります。その重さ式や言葉で書きましよう。また、答えも書きましよう。

図4 問題 ④（調理）

問題 ③（四角形の面積）は、長方形に内接する四角形の面積について、面積の求め方と、長方形と四角形の面積の関係を考えるという問題場面で、面積が等しい直角三角形を基に筋道を立てて考え、長方形と四角形の面積の関係を言葉や記号を用いて記述することが求められている問題であった。また、1つの場面で発見した事実を、条件の一部を変えた場面に適用して、その事実がどのような場面で成り立つのかを調べることによって、統合的・発展的な見方ができるようにすることに繋がる問題といえよう。

問題 ④（調理）は、家庭科の学習に関連して、調理実習を行うための計画を立てたり、実際に調理実習を行う方法について考える問題場面で、2つのはかりを適切に読み取り、与えられた条件を基に筋道を立

小学校 算数B 5 情報の解釈と数学的な表現（一輪車）

5

あやかさんの学校では、一輪車で遊ぶことがはじまっています。

1. あやかさんは、一輪車の高さを調節しています。
一輪車の高さとはいくつあるか、座面からおへそまでの高さまでと定められています。また、サドルの高さを調節すると、サドルの「ア」の高さが20cmになります。
一輪車のタイヤの半径は25cmです。

座面からあやかさんのおへそまでの高さは同じですが、答えを導き出さず。

2. あやかさんは、タイヤを1回転させるごとに、一輪車がどのくらい進むかを測りたいと思います。一輪車のタイヤの回転数と進んだ長さを調べた下表の表にまとめました。

一輪車のタイヤの回転数と進んだ長さ

タイヤの回転数(回転)	1	2	3	4
進んだ長さ(cm)	157	314	471	628

あやかさんは、この表を見て、進んだ長さはタイヤの回転数に比例すること気づきました。このことを使って、一輪車で運動場のトラック1周を走る速のめをすることにしました。

トラックを1周すると、タイヤはちょうど120回転しました。トラック1周の長さを求める式を、次の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましよう。

- 157×120
- 314×120
- 120×314
- 157×314

2. あやかさんは、学校の男子と女子ではどちらのほうが一輪車に乗れるかを調べてみようと思っ、下のような表を作り出したのでした。

一輪車に乗れる人数 (人)

	乗れる	乗れない	合計
男子	9	6	15
女子	12	8	20

この表を見て、あやかさんは次のように言いました。

乗れる人数は、男子が9人で女子が12人です。だから、女子のほうが乗れるのかな。

すると、この話を聞いて、ひろくさんは次のように言いました。

でも、合計の人数は男子と女子でちがいます。だから、乗れる人数だけで比べるのではなく、割合で比べてみませんか。

男子と女子それぞれで、合計の人数をもとにした乗れる人数の割合を比べます。男子と女子ではどちらのほうが割合が大きいですか。次の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましよう。また、その番号を選んだわけを、言葉や式を使って書きましよう。

- 男子のほうが乗れる人数の割合が大きいの。
- 女子のほうが乗れる人数の割合が大きいの。
- 男子と女子の乗れる人数の割合は同じ。

図5 問題5 (一輪車)

てて考え、必要な重さの求め方を式や言葉を用いて記述することが求められている問題であった。日常生活において、計画的に行動するためには条件に合った時刻を適切に求めることは大切である。また、予定や行動を決めるときに合理的な判断をするためには、目的に応じて所要時間の見当を付けることも大切である。そういった意味で、この問題は、必要な数量を求める際に問題場面から必要な情報を選択したり、情報を組み合わせたりして解決の見通しを立てることに繋がる問題といえよう。

問題 5 (一輪車) は、一輪車の高さを調節したり、比例の関係を用いて運動場のトラックの長さを考えたり、男子と女子ではどちらの方が一輪車に乗れるかを調べたりするという問題場面で、示された表から基準量と比較量を適切に取り出して2つの割合の大小を判断し、その理由を言葉や式を用いて記述することが求められている問題であった。身の回りの事象には、円や三角形などの図形として捉えられるものが多くあることに気付かせ、身の回りにある事象から図形を見いだしたり、図形の性質を使ったりして、事象を数学的に判断できることに繋がる問題といえよう。また、日常生活で2つ以上の事象の大きさを比べるときに、目的に応じて適切に使い分けられるようにすることに繋がる問題ともいえよう。

以上のことから、全国学力調査B問題には、次の2つの特徴があるといえるだろう。

第一に、いずれの問題も目的がはっきりと明示されており、児童にとって身近な題材であり、問題場面が把握しやすくなっているといえるだろう。

第二に、算数と日常生活との関わりについて興味・関心を高めたり、児童みずからも解決の見通しを立てたり、工夫して解決してみようと自分の問題と感じさせることに繋げようとしているといえよう。

3. 教科書の既存教材と改善の視点

全国学力調査B問題(主として「活用」に関する問題)の分析結果から、調査問題には2つの特徴があると考えられる。一つは目的がはっきりと明示されており、児童にとって身近な題材であり、問題場面が把握しやすくなっていることである。もう一つは、算数と日常生活との関わりについて興味・関心を高めたり、児童みずからも解決の見通しを立てたり、工夫して解決してみようと自分の問題と感じさせることに繋げようとしていることである。既存教材に、前者の特徴を加えることを教材の「目的明確化」、後者の特徴を加えることを教材の「価値実現化」と呼ぶことにする。

「算数的活動」を通して、算数を学ぶことの楽しさと充実感が味わえるような楽しい算数の授業を創り出していくことを考えたとき、「ICT活用」の視点を持つことも必要だと考えられる。同様に既存の教材にICT活用を加えることを教材の「ICT活用化」と呼ぶことにする。

ここでは、「目的明確化」、「価値実現化」、「ICT活用化」の3つの視点で、教科書の既存教材を検討し、修正を試みることにする。

修正を加えた箇所については、「目的明確化」の部分には_____を、「価値実現化」の部分には_____を、「ICT活用化」の部分には_____を引いて示すことにする。

<単位量あたりの大きさ> (わくわく算数5下 (2012, 啓林館))

A, B 2台の自動車があります。

Aの自動車は, 35Lのガソリンで700km走れます。Bの自動車は, 50Lのガソリンで800km走れます。

ガソリンの量と走る道のりについて, A, Bを比べましょう。

「自動車を買う」という目的を設定することによって, 「目的明確化」する。また, 「ちらの自動車を買いますか。その理由も答えなさい」とすることによって, 「価値実現化」する。このことによって, 自分のこととして考えやすくなると考えられる。

<修正教材>

A, B 2台の自動車のどちらかを買おうと思います。

Aの自動車は, 35Lのガソリンで700km走れます。Bの自動車は, 50Lのガソリンで800km走れます。

あなたならどちらの自動車を買いますか。その理由も答えなさい。

<約数と公約数> (小学校算数5下 (2012, 日本文教出版))

えんぴつ12本とノート16さつを, 何人かの子どもに同じ数ずつ分けます。

えんぴつもノートもあまりが出ないように分けられるのは, 子どもの数が何人のときか調べましょう。

「かくし芸大会の参加賞を決める」という目的を設定することによって, 「目的明確化」する。また, 「参加者を何人(何組)にするのがよいでしょうか。また, そう考えた理もいしましょう。」とすることによって, 「価値実現化」する。このことによって, 複数の答から自分の考えをもとに答を選択することができると考えられる。

<修正教材>

あなたはクラス会でかくし芸大会を計画しています。その参加賞として, えんぴつ12本とノート16さつを用意しました。参加賞は同じ数ずつにします。

えんぴつもノートもあまりが出ないようにするためには, 参加者を何人(何組)にするのがよいでしょうか。また, そう考えた理由もいしましょう。

<平均> (新しい算数5上 (2012, 東京書籍))

6個のオレンジをしぼりました。

(1) 下の表は, 6個のオレンジからしぼったジュースの量を表したものです。

6個のオレンジから同じ量ずつしぼれたとすると, 1個あたり何mLのジュースがしぼれたことになりますか。

しぼったジュースの量

オレンジ	①	②	③	④	⑤	⑥
ジュースの量 (mL)	70	90	85	65	75	95

<解答>

$$(70 + 90 + 85 + 65 + 75 + 95) \div 6 = 80$$

答え 80mL

(2) このオレンジを20個しぼると, 何mLのジュースが作れることになりますか。

「500mLの水とういっばいのオレンジジュースをつくらうと思います。」という目を設定にすることによって、「目的明確化」する。また、「あなたの水とうには500L入ります。」とすることによって、「価値実現化」する。このことによって、容量を分の持っている水とうに置き換えることが簡単にできるので、自分のこととして考えやすくなると考えられる。できたジュースの量を3桁に変更したり、全校児童分のジュースつくるにはオレンジが何個必要かという問いを入れることで、複雑な計算が必要となってくる。そのことによって、「ICT活用化」の必要性が出てくると考えられる。ここでは電卓の使用が妥当だと考えられる。

<修正教材>

あなたの水とうには500mL入ります。いま、この水とういっばいのオレンジジュースをつくらうと思います。

6個のオレンジをしぼったところ、できたジュースの量は次の表のようになりました。あと、何個のオレンジをしぼるとよいでしょうか。

オレンジ	できたジュースの量					
	①	②	③	④	⑤	⑥
ジュースの量 (mL)	70.5	90.6	85.4	66.2	74.9	96.7

また、同じ水とうで全校児童586人分つくるにはオレンジが何個必要でしょうか。

4. おわりに

全国学力調査のB問題を分析した結果、題材を「目的明確化」、「価値実現化」することによって、活用教材として扱えるのではないかという示唆が得られた。また、算数的活動を充実したものにするためには、題材を「ICT活用化」する視点が必要であることが分かった。

本稿では、この3つの視点でいくつかの既存の教科書教材を見直してみた。既存教材を3つの視点から修正した結果、活用教材として扱える可能性が高まることが分かった。

今回は、教材を「ICT活用化」し、算数の授業を創り出していくことがあまりできなかった。今後、タブレットPCの活用や電子黒板による問題の提示の仕方の工夫などを検討することによって、より効果的な活用教材を用いた授業づくりについても検討していきたい。

付記：本研究は2012年度「財団青松研究助成金」の一部を使用しています。

謝辞：本稿を記すにあたり、京都教育大学教授 柳本哲先生に何度となく御指導頂きました。ありがとうございました。

【参考・引用文献】

- 柳本哲編著 (2011) 『数学的モデリングー本当に役に立つ数学の力ー』
- 国立教育政策研究所 (2012) 「平成 24 年度 全国学力・学習状況調査【小学校】報告者」
- 文部科学省 (2006) 『全国的な学力調査の具体的な実施方法等について (報告)』
- 文部科学省 (2007) 「ICT を活用した指導の効果の調査結果についてー「確かな学力」の向上につながる ICT 活用ー」
- 吉村昇 (2010) 「2 年の超定番教材のアレンジ・レストアに挑戦 ②連立方程式」明治図書出版株式会社 教育科学 数学教育 No.634(2010 年 8 月号), p40 ~ p43
- 吉村昇 (2011) 「数学教育における ICT 活用の実践研究ーデジタルコンテンツの効果的な活用法についてー」大阪教育大学教育学部附属天王寺中学校・同高等学校天王寺校舎研究集録, 第 52 集, p51 ~ p80
- 藤井齊亮 ほか 40 名 (2012) 『新しい算数 5 上下 6 上下』東京書籍
- 清水静海 ほか 49 名 (2012) 『わくわく算数 5 上下 6 上下』啓林館
- 一松信 ほか 45 名 (2012) 『みんなと学ぶ小学校算数 5 上下 6 上下』学校図書
- 橋本吉彦 ほか 18 名 (2012) 『たのしい算数 5 上下 6 上下』大日本図書
- 小山正孝, 中原忠男 ほか (別記) (2012) 『小学算数 5 上下 6 上下』日本文教出版
- 澤田利夫 ほか 27 名 (2012) 『小学算数 5 上下 6 上下』教育出版

A Study of Arithmetic Application Materials for Elementary Students

YOSHIMURA Noboru

Summary: It has drawn attention to arithmetic application materials in Japan recently. The discussion about achievement tests "B" given around the country indicated improvement approach which creates arithmetic application materials. This means two facts are suggested. These are as follows.

- 1) To clarify students' objective of story problems
- 2) To realize students' value of story problems

Besides these improvements, enhanced arithmetic activity needs to utilize ICT in treating the application materials. This is also an improvement.

- 3) To utilize ICT

Some existing arithmetic materials are modified with a view to these three points. As a result, there is a strong possibility that existing arithmetic materials are reborn as arithmetic application materials.

Key Words: Mathematical Education, Application Materials, To Clarify Ss' Objective,
To Realize Ss' Value, To Utilize ICT

天文分野への一年を通じたアプローチ

くるび こう へい
久留飛 航 平

抄録：中学校理科では、3年生で天文分野を学ぶ。この天文分野の知見は、近年の観測機器の進歩に伴い増大し、様々なメディアで取り上げられ目にする機会も多い。また、小学校において太陽や月の動きについて学習がなされ、暦にも反映されている社会において、中学生にとって天文とは非常に身近で興味・関心も高い分野と言える。しかし授業での取り扱いは、その高い興味とは裏腹に容易なものではない。それは、天候に左右されること、空間配置をイメージすることが難しいことなどが挙げられる。一年間の授業を展開することで、気長に付き合うことによって身近に天体を感じ、理解を深めることができるようになるはずである。

キーワード：中学校理科教育、天文分野、授業展開

1. はじめに

太陽系の天体や宇宙についての知見は、近年の観測機器の進歩に伴い、飛躍的に増大している。その観測結果もインターネットなどで画像を見ることができ、テレビでは宇宙に関する番組が放送され様々な情報に溢れている。さらに日本は、小惑星探査衛星「はやぶさ」では世界的な成果を上げて注目を集めている。また、小学校において太陽や月の動きについて学習がなされ、さらに星座についても取り上げられている。さらに現在社会において、この天文分野が影響した暦が使用されている。中学生にとって天体とは非常に身近で興味も関心も高い分野と言える。

しかし、この興味や関心の高さとは反して授業での展開は容易ではない。それは次に挙げるような理由があると考えられる。

まず、実物観察の困難さが挙げられる。太陽を例にすると、一日で地球から見ると太陽は地球を一周している。これは誰もが知るところだが、この太陽の動きを授業で観察しようとすると難しさが出てくる。それは観察授業をするときの天候である。当たり前のことだが雲があってはできないのである。そうなってくると天気予報を見ながら、授業設定をする必要が出てきてしまい困難となる。

次に、物体の空間配置を想像できないと非常に理解が難しいことが挙げられる。それは、圧倒的に大きい宇宙は3次元空間で広がっており、それを教科書や図鑑、資料集では2次元での表現になっている。理解をしていく上ではその平面図から立体空間の位置関係になおすことを避けては通れない。空間をイメージすることが難しい生徒にとって、理解の敷居を高くさせている。

1年を通して天文分野を学習することによって、季節の違いと太陽の動きを観測し身近に感じ、さらに宇宙空間を実生活空間に変換することによって理解の向上をねらう。

2. 学習計画

実際に観測すること、宇宙空間を実生活空間に変換し体感することを重点化する。

	ねらい	内容
1	人類の宇宙観の変遷を知る	講義① 宇宙観の変遷 ⁽¹⁾ 古代ギリシアからコペルニクスの地動説まで
2	太陽についての基礎知識理解 温度が光のスペクトルから求められることを知る	講義② 太陽について(大きさ、距離) 表面温度について(黒体放射)
3	核融合反応について知る 太陽の基本情報がどのような観測事実から分かるのか知る	講義③ 太陽が光る核融合反応(陽子陽子連鎖反応 ⁽²⁾) 太陽コロナについて(映像資料)
①	4 天体の観察に必要な知識理解 観測の条件設定の確認	講義④ 天球について(天頂、子午線) 太陽の日周運動観測のための準備
5	観測者が日を設定し観測する	観測① 透明半球を用いて夏至に近い1日の太陽の動き 観測
6	3次元情報を1次元の南中高度に変換する器具を作成する	実験① 透明半球の観測結果から、南中高度を測定する器具、方法をつくる
7	地軸の傾きを考慮した図から計算で太陽の南中高度を求める	講義⑤ 太陽の南中高度、太陽の年周運動(地軸の傾き)
8	天体の動きの基本知識理解	講義⑥ 星の一日の動き(日周運動) 星の一年の動き(年周運動)
②	9 観測者が観測条件を考慮し観測する	観測② 透明半球を用いて秋分に近い1日の太陽の動き 観測
10	太陽の年周運動と黄道十二星座と十二星座占いの関係理解	講義⑦ 太陽の一年の動き(黄道十二星座) 星占いと黄道十二星座
11	月の基本知識理解	講義⑧ 月について(大きさ、距離)、朔望月
12	③ 月と日本文化の関係理解	講義⑨ 朔望月について、月の満ち欠けと呼び名
13	月の満ち欠けと暦の関係理解	講義⑩ 暦について、太陰暦と太陽太陰暦
14	月の表面構造理解	実習② 月のペーパークラフト ⁽³⁾
15	④ 太陽系基本知識理解	講義⑪ 太陽系について、太陽系のできかた
16	調べ学習と発表、情報共有	実習③ 太陽系点惑星調べ、太陽系惑星情報交換 ⁽⁴⁾

17	太陽系にある天体理解	講義⑫ 地球型惑星、木星型惑星について 太陽系外縁天体について
18	観測条件設定と観測	観測③ 透明半球を用いて冬至に近い1日の太陽の動き 観測
19	位置の表し方、座標系の理解 地球中心の赤道座標系知識獲得	講義⑬ 天体の位置の表し方、赤道座標(赤経赤緯) 天球儀の使い方
20	位置の表し方、座標系の理解 太陽中心の黄道座標系知識獲得	講義⑭ 天体の位置の表し方、黄道座標(黄経黄緯) ⁽⁵⁾ 惑星シミュレーターPLMotion ⁽⁶⁾ の使い方
21	惑星シミュレーターを使用して惑星の位置を決定する	実習④ 惑星の位置(内惑星、外惑星) ⁽⁷⁾
22	太陽系の広がりを実生活範囲に変換する	実習⑤ 太陽系10億分の1モデル ⁽⁷⁾ 天体サイズ、距離の変換
23	太陽系の広がりを実生活範囲に変換する	実習⑥ 太陽系10億分の1モデル 惑星の黄経をシミュレーターで調べる
24	惑星シミュレーターを使用して惑星の位置を決定する	講義⑮ 内惑星と外惑星の動き ⁽⁸⁾ 惑星現象について(内合、外合、衝、矩)
25	太陽、金星、地球を100億分の1スケールに配置し満ち欠けと見かけの大きさを体感する	実習⑦ 金星の動き(屋外シミュレーション) 金星の満ち欠けと見かけの大きさ、最大離角
26	様々な天体の理解	講義⑯ 太陽系外の天体、天文単位、光年について

3. 重点項目

○観測の難しさ

天文分野の観測は種々の条件によって左右され、その観測状況によっては、観測ができないこともある。化学分野や物理分野での実験は、決めた条件に設定することは実験者が能動的に行える。しかし、天文分野の観察ではそれは困難である。

まず、太陽の一日の動きを観察することを例に挙げる。東の空から太陽が昇り、西の空に沈む。その間にしか観測は行えない。そして最も重要なことは、天候である。空が晴れていないと太陽が顔を出さない。観測対象が消失してしまうことになる。一日の動きを観測しようとする、一日中晴れているもしくは、観測時に太陽が出ていることが必要となる。夏至、春分、秋分、冬至などの特異日に観測したくても、思うようにいかないこともある。特に夏至周辺では梅雨と重なることもあり、観測ができないという自体に多々陥る。また、一日の動きを観測したいので、1時間の授業の中では到底可能ではない。

そこで、太陽の動きの観測については、生徒に設定をさせる。観測日は、天気予報を参考に選択する。前日までの週間天気予報から前日の天気図等の情報を元に、生徒自身が決める。生徒は既習事項として、気象分野の学習を前年度にしておき、天気図の読み方はもとより、気象通報から天気図作成までを行える能力を持っている。

さらに、観測には次のような条件をつけた。その条件は、午前、午後にもたがり、およ

そ1時間ごとに6回以上の測定をおこなうことである。生徒は観測日に、この観測のみを行っているのではなく、授業や部活動等の諸活動がある。したがって、生徒は時間的なことも配慮して、その合間に観測を行っている。

この困難さがあることによって、ただ単に観測といっても、いつでもできるわけではないことを、身をもって体験できる。この難しさがあるがゆえに、今日はどうか、明日はできるのか、というふうに関測対象に興味を持たざるをえない状況をつくり出すことになる。今まで気にもとめなかったような条件を考慮しなくてはいけないことで、普通に実験をするという“普通”の概念を払拭し、条件設定の重要性を気づく一因となっているはずである。

これまでの生徒実験では自然を観測対象にあててすることで、今までまなかった、条件設定をしていくことの難しさをよく理解できたはずである。その上で、実験条件の設定がその実験を円滑に進める上でも、結果をより確かなものにする上でも重要であると生徒が認識するようになる。

○季節の異なる時期の太陽の観察

地球の地軸は、地球が太陽のまわりを公転している公転面の垂直方向に対して 23.4° 傾いている。このことによって、日周運動する太陽の位置は日を追うごとに変化することになる。しかし、その変化は1年をかけて起こる事象であるので、ダイナミックに日々刻々と変化していくことを気づくことは難しい。1週間や1ヶ月の観測でもなかなかそれは体感しづらいものである。

また、授業の進行を考えてみると、中学校理科3年生では物理、化学、生物、地学の4分野を学習する。それぞれの分野を順に学習を進めているのが、ほとんどの場合である。長くてもおよそ3ヶ月弱程度が1つの分野にあてられることになる。そうなると、この地学分野の天文の単元も3ヶ月弱の期間となり、季節をまたぐことはない。この期間内に観測するだけでは、当然太陽の季節による日周運動の違いを見いだすことは容易ではない。そこで、夏至、秋分、冬至をうまくまたぐように学習進度を設定することで、これらの点を解消しようというのが本授業計画のねらいである。授業進度を季節に合わせることは、授業の流れを分断してしまい、それぞれの学習の効果を減衰させてしまいそうだが、修学年度の進んだ中学3年生であれば、十分対応する事が可能である。ただ時期だけを最優先にすれば、当然授業の流れの分断が起こり、ねらった教育効果が生まれにくいことも考慮した授業計画を立てる。

本授業計画では、全26回の授業を①～④の4つのまとまりに分けた。この①～④はまとめて授業を進め、授業の流れの分断を起こさないようにする。それぞれのまとまりは次の通りである。①太陽と日周運動 ②年周運動 ③月の満ち欠け ④太陽系惑星

それぞれのまとまりを他の分野の学習進度を考慮し、さらに夏至、秋分、冬至を最優先にしたものとする。

○月の満ち欠けと暦

月は昔から日本で生活する人々にとって身近な存在である。その姿が満ちかけすることも人々の興味を引きつけることになる。月にはその姿によって呼び名があり、昔の文学の中にも登場し親しまれている。また、現在使用されている暦にも月があり、お月見や中秋の名月と呼ばれる年中行事があり、生徒の生活にもたいへん身近なものである。

そのような身近な月だが、教科書での取り扱いが小さい。暦や、呼び名も断片的な知識に偏ってしまったり、まったくそのようなことに触れる機会がなく通り過ぎたりすることになってしまう。そこで、本授業計画では月について1つのまとまりとして取り扱い、4時間構成で学習を進める。これまであまり理科としてアプローチはみられないところも含めて、多面的に月をとらえ、月について総合的にとらえさせたい。

・月の基本知識

月と地球の平均距離、月と地球の大きさの比較、月の重力、月の自転は比較的良好に取り扱われる。また、満ち欠けについても新月→三日月→上弦の月→満月→下弦の月→新月となることは教科書でも確認できる。このことは知識として確認し次に進む。

・月と日本文化の関係

月の満ち欠けには、日本独特の月の見方が呼び名としてその名残を残していることを紹介する。それは月の呼び名によって、古典で出てくるとその正確な日付や時間帯までが知ることができるのである。理科とは直接関係ないように考えがちだが、その呼び名は月の出、月の入と密接に関係しており、このことは太陽、地球、月との位置関係の変化がもとになっている。まずは生活に関連した月の呼び名を知ることによって位置関係と関連づけて理解できるようになる。

・朔望月と暦

そこで、さらもう一歩ふみこんで朔望月をきちんと整理して学習する。そうすると新月→満月→新月の周期が一回りでそれが一月（ひとつき）になるが、その周期は約29.5日で現在の暦の1ヶ月とは異なることに気づく。そういった生活との結びつきから暦の成立を学習する。そこで太陰暦といわれる、朔望月をもとにした暦では、季節との整合性がないことから暦が発展し閏月の導入や、さらに太陽太陰暦を策定するにいたった経過について学ぶ。そうすることで、暦の重要性やそれと生活との結びつき、さらには太陽や月の動きなどの観測が非常に意味のあることであったことに気づかせる。

月という身近な存在が、現代の我々に与える影響、言い換えるなら自然と人間の結びつきの強さを感じさせることがねらいである。自分達の生活の中にこれほどまでに自然現象が入り込んでいることへの驚きを感じる生徒も少なくない。理科の授業だけにこだわってはいは、なかなか触れることの難しい自然と人間との関係を積極的に取り上げることも、この部分においては必要ではないかと感じている。特に、月の呼び名は国語、暦は社会と横断的に他の教科との接点を見いだせると多角的に学習を捉えることができるようになるはずである。

○太陽系の広がりを実生活範囲に変換する～太陽系10億分の1モデル～

天文分野ではその空間的広がりをつかむことは難しい。それは宇宙空間が圧倒的な広がりを持っていることにほかならない。また教科書や図鑑、資料集には、惑星の大きさの比較は正確であるが、惑星間の距離を正確に描いたものは少ないために、距離に着いての認識が曖昧になってしまう。さらに、宇宙は3次元空間で資料の平面図から立体空間の位置関係に直さなくてはならないため、物体の空間配置を想像できないと非常に理解を難しいものとしている。

そこで、距離や大きさ、宇宙空間の広さを感覚的に捉えために、さらに平面から立体への理解の一助となるように、太陽系の惑星の動きと見え方をできるだけ簡易なモデルにし授業を展開する。それが太陽系 10 億分の 1 モデルである。モデルは次の手順で展開する。

①惑星の配置を確定する。

ここでは、天体の位置を表す手法が重要となる、宇宙には基準点がないので、天文分野では春分点を基準としている。これは種々の座標系の基準として用いられている。授業では、惑星位置の表し方は 1 つではないことを紹介し、どのような座標系を導入することが適当なのかも考えさせる。ここで紹介するのは、赤道座標系と黄道座標系である。赤道座標系は地球を中心にすえているので、地球からの観測に非常に優れており、天文年鑑等を利用し天体観測が行える知識を獲得させる。授業では星空観測は日中であり困難であるので、天球儀を用いてその方法について学習する。次に黄道座標系であるが、ここでは日心黄道座標を学習する。これは太陽を中心とした座標系であり、太陽系を天の北極からとらえることに長けている。

そこで、黄道座標で各惑星の位置を示すフリーソフト“Planetary Motion Ver. 0.38⁽⁶⁾”を使用する。この“Planetary Motion Ver. 0.38”を使用することにより、任意の年月日における惑星配置について知ることができるので、実習では生徒自身が身近に感じられるように、それぞれの誕生日の太陽系惑星配置をそれぞれのシート⁽⁵⁾につくる。

②スケールを 10 億分の 1 に太陽系を変換する。

実スケールから、理解可能な想像しやすい大きさとして、10 億分の 1 とする。この 10 億分の 1 のスケールは、広大な太陽系を自分の生活エリアの広さに丁度よく変換できる。ここでの丁度よくとは、惑星の公転軌道が日頃の通学している広がりと同重なることを意味している。日頃の生活圏との比較によって、太陽系の広大さ惑星の大きさについて想像しやすくする。

③平面配置から立体配置に変換する。

そこで活躍するのは、模型惑星モデル⁽⁷⁾である。このモデルは、発泡スチロール球、まち針、塗料を用いて制作した手作りである。また、地球は紙粘土を用いて自ら手で触って作ることによってその実感を増大させる。そうやって教科書の平面図で表されていた太陽系を、空間の広がりを持った立体配置へ展開させていく。このモデルを見て、頭の中で公転軌道に惑星を配置することができるようになると、地球からの見え方への変換も早くなる。平面から立体への変換を、頭の中の想像よりも見たままのモデルで最初から立体としてインプットされればここでつまづくことは圧倒的に少なくなる。

○教室ではない広がった場所での授業～金星の動き（屋外シミュレーション）～

天体分野は対象物が手にとって見られないため、実験をすることが難しい。したがって、講義形式の授業が多くなり、教師から生徒への一方通行の教え込みの授業に陥りがちである。そこで、机上でもできるがあえて屋外で体を動かした実習を展開することで、実物でないにしろ物を見て観測することを体験させる。そうすることによって空間認知が難しい生徒も、体験から記憶としそれを次の想像力へつなげていく力がつくはずである。その手法は次の通りである。

①役割分担する。

通常実験をする際は4名で行っているが、この実習では8名でおこなう。これは、単純に多くの人数を必要とする実習であるからである。分担は次のようになる。

S: 太陽（中心となる）、V: 金星（4名が金星の軌道上を観測者の指示により配置する）

E: 地球（観測者となる、残りの者もここに待機する）

②観測する。

図1のように配置し、地球Eの観測者が紙製の筒から透明なシートに方眼が印刷されたスケールシートを覗いて金星Vを観察する。見えた金星の見え方と大きさをノートに記録する。

この実習では、出来るだけ動きを持たせた金星を想像させたい。天体はその日だけで考えると日周運動なので満ち欠けはないが、地球と金星の二体の相対関係によってさらには太陽との位置関係も重要であることが見いだせる。生徒自身が天体の役割を担うことで、位置が持つ意味の重要性を再認識できる。

4. まとめ

この授業では、観察を季節を通して行うことと、宇宙の広がりを生活空間に変換すること、さらには、月と暦の関係から自然と人間のつながりを感じさせ全てを身近にすることを重点化している。そういった生徒自身の体験や経験、または生活空間や様式にいたるところまで理科が関係していることを気づかせる。そうすることで理科の学習が生活の中で重要であり、その知識を活用することが必要不可欠であることを実感させるに至ればよい。今ある“普通”の感覚を、当たり前でなく条件設定した状態であることに気づき、さらに“普通”というものがなく、人間が観察し体系化した上に社会があることをきづけば、遠い天体が身近になり、理解をより深めることに違いない。

5. 参考

(1) 資料① 宇宙観の変遷

(2) 資料② <http://ja.wikipedia.org/>

(3) 資料③ <http://www.nao.ac.jp/download/>

(4) 資料④ 惑星調べシート

(5) 資料⑤ 誕生日の太陽系惑星位置

(6) <http://www.moonsystem.to/soft/plmotn.htm>

(7) <http://www.aichi-c.ed.jp/contents/rika/syotou/syo1/taiyoukei/taiyoukeimokey.htm>

(8) 資料⑥ 惑星の位置の変化

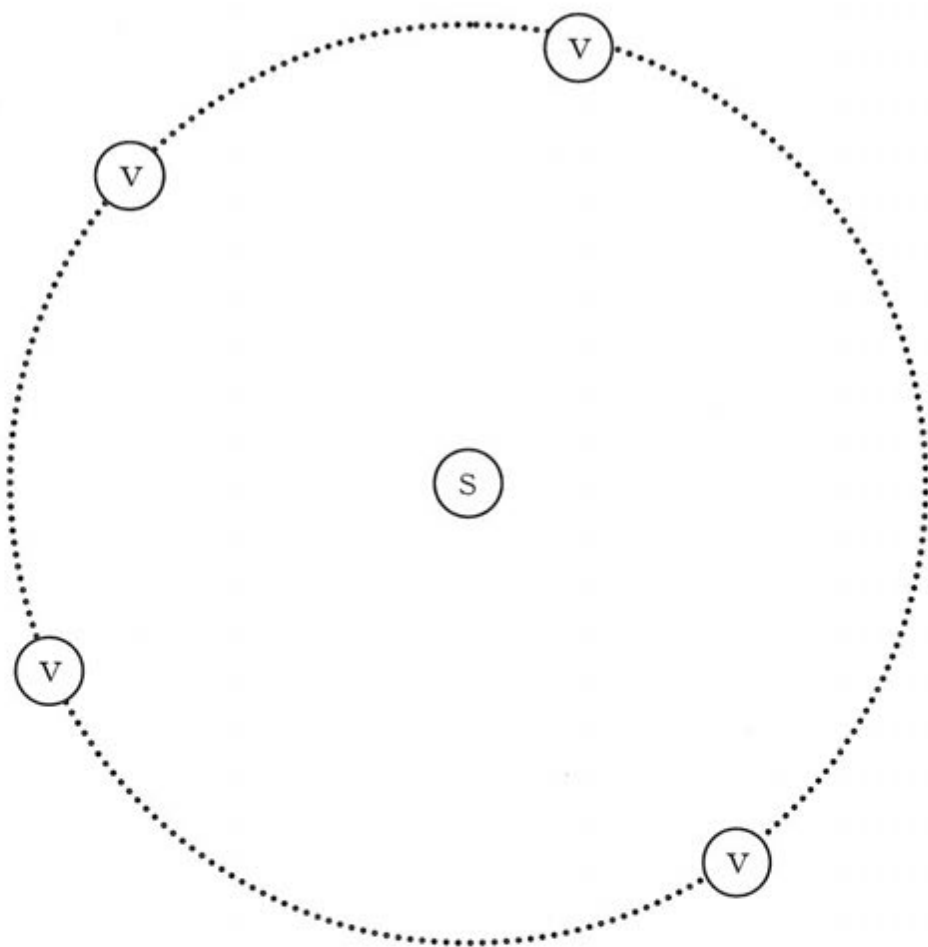
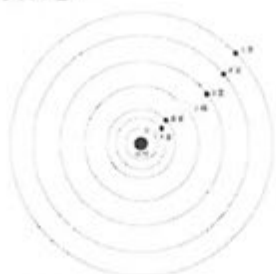
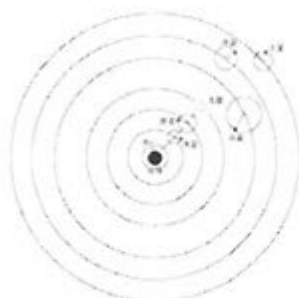


图 1

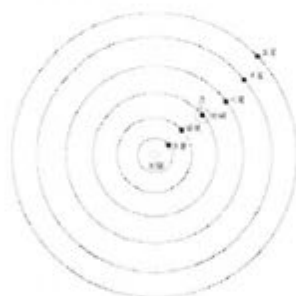
資料①



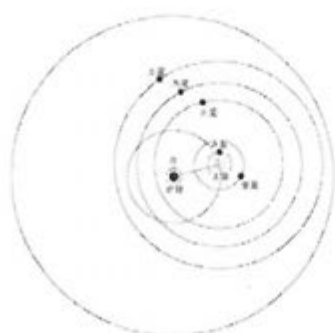
古代ギリシア人の考えた宇宙像



プトレマイオスの天動説

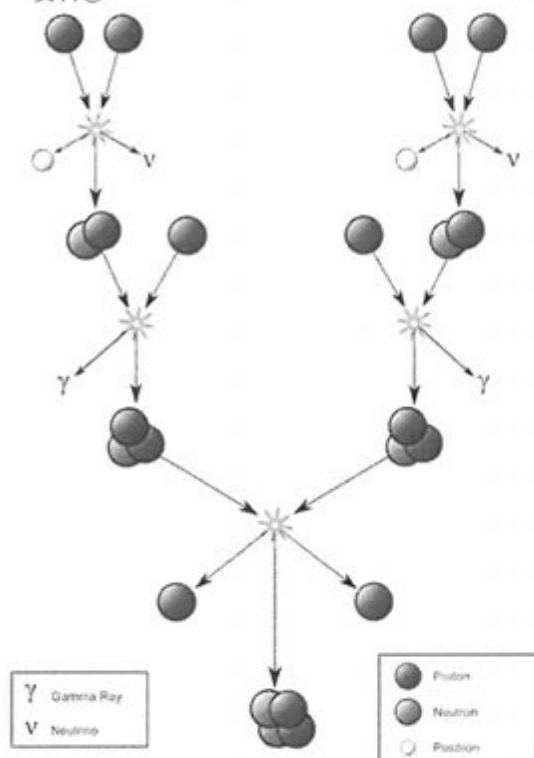


コペルニクスの地動説

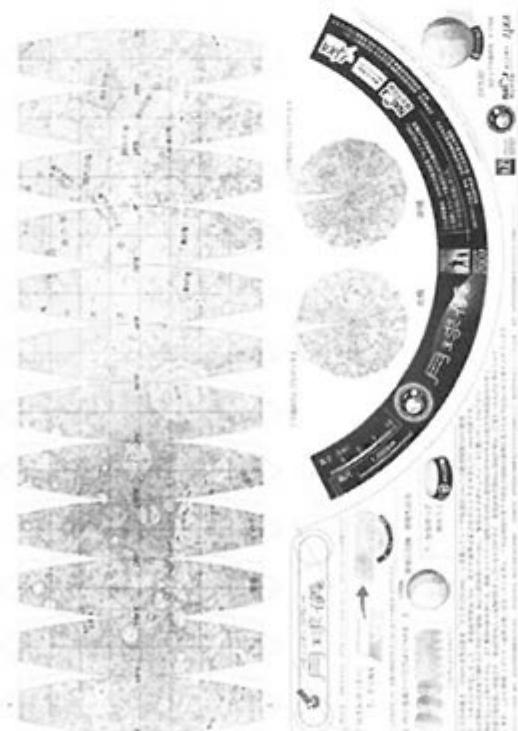


ティコ・ブラーエ

資料②



資料③



資料④

惑星

<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin-bottom: 10px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px;"></div>	基本データ
	惑星名： _____ 命名
	種類： _____ 質量： _____
	平均距離： _____ km 天文単位
	赤道半径： _____ 地球の _____ 倍
	密度： _____ 主な成分： _____
	公転周期： _____ 地球の _____ 倍
	自転周期： _____
	軌道傾斜角： _____
	表面重力： _____
衛星の数： _____	
大気の主な成分： _____	
特徴	
人類との関わり	

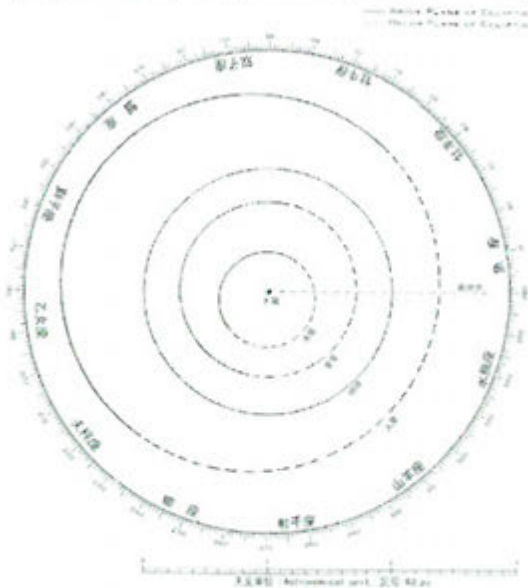
発表日 月 日 天気 提出期間(月 日)
3年 組 番 氏名 ()

資料⑤

太陽系惑星の位置

年 月 日 時

木星	火星	天王星
金星	水星	海王星
地球	土星	冥王星



太陽系惑星配置 _____年 月 日 時

①



②



3年 組 番 氏名 _____

③



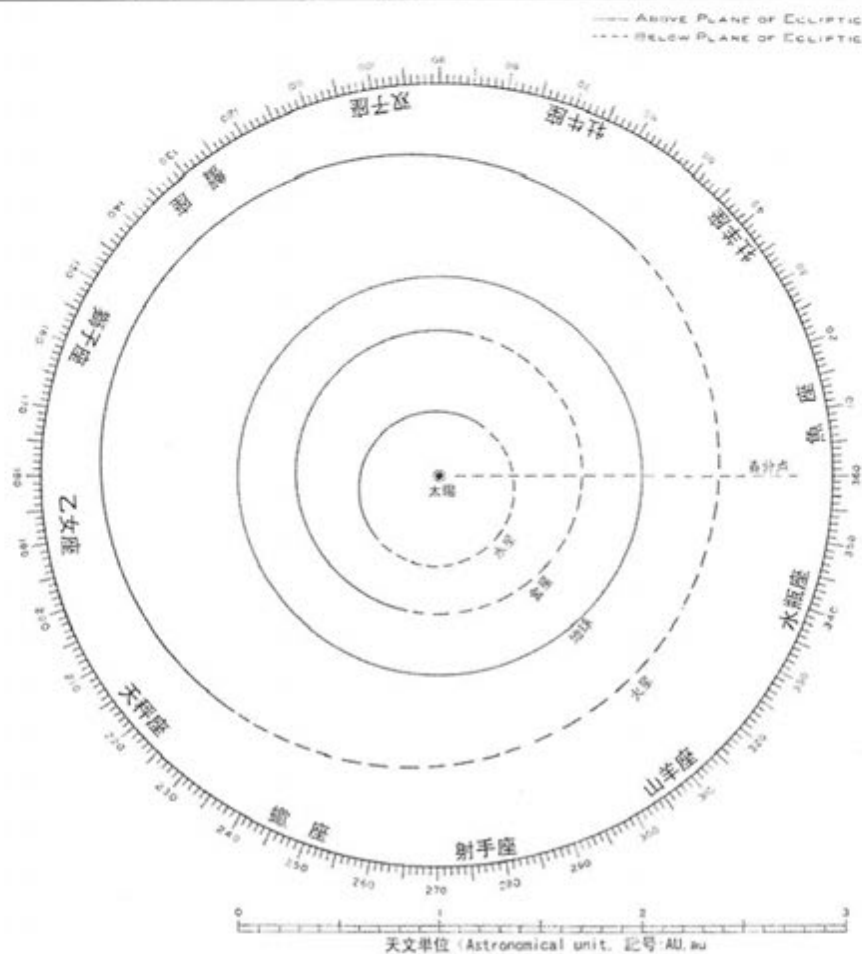
10億分の1モデル

	直径 []	平均距離 []	質量 []
太陽			
水星			
金星			
地球			
火星			
木星			
土星			
天王星			
海王星			
冥王星			

資料⑥

惑星の位置の変化

日付	金星	地球	火星
/			
/			
/			
/			
/			
/			
/			
/			
/			
/			
/			
/			
/			



One-Year Approach to the Astronomical Field

KURUBI Kohei

Abstract : In the science class of junior high schools, the third graders learn the astronomical field. In recent years, knowledge on this field has increased thanks to the evolution of observation equipment, and there are many opportunities to see the knowledge through various media coverage. At elementary schools, the students learn the movement of the sun and moon, which is socially reflected in calendars. Therefore, junior high school students feel familiar with astronomy and are really interested in it. Contrary to such a strong interest, astronomical lessons are not easy because making astronomical observations depends on weather and imaging a spatial arrangement is difficult. The one-year class should allow the third graders to learn astronomy without haste, to feel familiar with it, and to deepen their understanding.

Keywords : Science education at junior high schools, astronomical field, and class.

英語教材再生術

—文化伝達者としての英語教師—

い とう よう いち
伊 藤 洋 一

抄録：自分自身が英語を習い始めてから四十年以上が過ぎた。その間に英語は英語圏の人々が使う母語から、国境を越えた世界規模の言語になった。道具としての英語の側面が重視されるようになる一方で、英語圏固有の文化の伝達・伝承は明らかに疎かになった。本稿はそのような時代の趨勢の中で、英語という言語によって記された文化を、主として読解教材の作成により伝えようとしてきた実践の記録である。

キーワード：英語教育 自主教材 読解

I. 「思い出す事など」

中学生になって英語を初めて習ったのは今から四十年以上も前の1970年のことだ。大阪で万国博覧会が開催され、世界の国から肌の色や話す言葉が異なる人々が大挙して我が国を訪れた年だった。今になって振り返れば、それは地球規模の言語として英語が使用されるその後の大変革の萌芽に一般の日本人が接した機会だった。

英語を勉強し始めた私はそれなりに熱心な学習者ではあったのだが、教科書の内容に関して不思議なほどに記憶がない。覚えているのは、中学二年生のとき習っていたM先生がカセットテープ・レコーダーでかけてくださった“White Christmas” “Clementine” “I’ve Been Working For the Railroad”などの英語の歌だ。その中で“We Shall Overcome”という題名の歌が特に印象に残った。「勝利を我等に」と何度も繰り返される歌の歌詞が本当に意味するものも分からず、それほど歌の上手くなかった先生について歌った記憶がある。

高校に進学すると、英語の授業はReader（読解）とComposition and grammar（文法・作文）に分かれた。「読解」の授業では訳読により教科書を読み進めた。それなりに真面目な学習者であったはずなのだが、私の記憶にはやはり当時読んだはずの教科書の内容が欠落している。どちらかと言えば何となく受けていた国語の授業で読んだ伊東静雄の「そんなに凝視めるな」や、西脇順三郎の「(覆された宝石)のやうな朝」という詩の断片が不思議に記憶に残っている。

高校での英語学習が進み長い文章を読むのに慣れてきた高次の半ば、副読本と称する一冊の本が全員に配られた。開拓社から出版されていたThe KAITAKUSHA EXTENSIVE READING SERIESの一冊である“A Tale of Two Cities”であった。作者はディケンズという名の英国の作家である。価格は150円で、当時の岩波新書と同じ値段だった。今も手

元にあるその本の奥付を見ると昭和11年2月25日第一版発行となっている。私が教室で読んだものは昭和48年5月20日発行の改版第59版だ。この読本が第二次世界大戦の惨禍を乗り越えて、後続する世代へと三十年以上も読み継がれたことを思うと、古き時代の英語教育の伝統の強靱さを感じる。

On a rainy November afternoon about a hundred and sixty years ago, an elderly gentle man arrived at a hotel at the Port of Dover. As he rested in his room at the hotel there was a thoughtful expression on his face, for he had a very difficult duty to perform.

1 ページ27行で、99ページある物語の冒頭を改めて読み直してみると、当時の高校二年生の英語の能力にちょうどよいレベルの英文である。この段落を読むのに当時の私は五回辞書を引いている。週1時間の進度で読み進められる異国での革命を題材にした話の展開に次第に惹かれるようになった私は、その年の冬休みに宿題として課された本文を読みつつ、大学ノートに拙い訳を書き綴っていった。長い時間をかけて読み進んできた物語の終幕、主人公であるシドニー・カートンが断頭台に上る。処刑を前にして彼は独語する。

“It is a far, far better thing that I do than I have ever done; it is a far, far better rest than I go to than I have ever known.”

一語一語は覚えていなかったが、確かにこの一節を訳した記憶がある。原作が手元にあるので同じ箇所を参照してみたところ、十九世紀半ばにディケンズが書いた原文そのものであった。長らくその行動を追ってきた主人公の青年との別れを惜しみつつ、最後のことにふさわしいと思いながら“A Tale of Two Cities”を読み終えた。ほんの一部にしか過ぎないが、英語で書かれた文学に触れる幸福な学習者の列に私も加わることができた。ささやかではあるが、私にとってはこれが初めての英語による読書体験であった。

II. 文化財としての英語教材

職業柄、大型書店に行くと英語学習本の棚の前に立つことが多い。如何にして英語を習得するかを伝授する本が所狭しと並んでいる。英語が地球規模で使われるようになったことも手伝ってか、短期に効率的な英語を習得するための学習法を説く本は増え続ける一方である。確かにその類の書物の著者が説く方法は英語の習得には有効なのだろうが、そこに提示されている細切れの英文はたいがいが無味乾燥だ。反復練習により部品としての語句や構文は脳内に留まるが、心に響かない文たちはすぐに忘れ去られる。

語学学習の主たる目的は「外国語を操作する」という技術の向上にある。仮に公教育における英語の学習が「道具としての英語」の操作だけに限定されるなら、学校では少ない時間で効率的に「英語が出来る」ようになる方法を教えていけばよい。覚えるべき素材を生徒に与え、反復練習を通じて英語を内在化させることが授業における最重要課題となる。しかしながら、言葉は単に日常的な用事を済ませるための「道具」であるだけではない。忘れてならないのは、言葉がそれを使う人たちの「文化」を内包していること、そしてその文化は歳月を重ねて集積されいつしか「歴史」となるということだ。

今から十年以上前、英語を教え始めてすでに十五年になろうとしていた中堅教師であった私は、勤務校の研究集録に寄せた実践報告『キング牧師と公民権運動』が語りかけるもの一心に残る自主教材の作成」の冒頭に以下のように記した。

ことばは人間が日常生活を送っていくうえで必要不可欠なものだ。自分の意志を伝え、相手の意志を受けとめる道具としてのことばの機能は重要である。一方で、ことばの担っているもう一つの役割も看過してはならない。同じ一つの言語を話す人間集団には独自の生活があり、その人々の営みは空間を軸として文化として形成され、時間を軸として歴史として集積される。そして、外国語を学ぶとは見知らぬ土地、見知らぬ時代について学ぶことでもある。であるから、英語が担っている文化や歴史を伝えることのできる教材を学習者に提示することを今までこころがけてきた。

学校という公的機関の重要な役割の一つは後代への文化の伝承である。だからこそ、英語という言語によって話され、綴られてきた特定の人物やある時代の社会状況の一端を伝えることは、英語教師の大きな役割であるに違いない。「読み」の技術の習得のための単なる素材ではなく、そこに学ぶべき「文化」や「歴史」が刻まれている血の通った文章をこれからの時代を生きる若者に提示し、伝えるべき文化をその心に刻む機会を与えること。さらには「伝えられたもの」に触発された彼らが、新たに何かを発想をするのを促すこと。そのようなことを念頭に置きながら、今まで読解教材の作成に取り組んできた。

この十年間も文化の伝達者としての役割を意識しながら教壇に立ってきたが、近年新たな気持ちで芽生えてきた。それは、自分がこれまで微力を注いで作ってきた自主教材をより多くの英語教師、特に若い世代の人たちと共有して、英語を学ぶならこれは読むべきである必修教材として伝えたいという、中堅ならぬ中年教師特有の気持ちである。それは、以前に筑摩書房から出版されていた『高校生のための英語読本—鏡としての外国語』のような一冊があれば、多くの生徒に読み継がれるべき文章に触れる機会を与えられるのではというささやかな願望である。

Ⅲ. 素晴らしき出逢い

四半世紀以上も英語教師をしていると自分自身が気に入った教材や心を揺さぶられる教材にしばしば出逢う。常勤講師として英語を教えて始めて一年目の1984年のこと、当時採用していた教科書の第12課で—確かMainstream I (増進堂) だった—キング牧師の生涯が扱われていた。寡聞にして彼のことをそれまで知らずに人生を送ってきた無知な私は、初めてこの人物を知った。自分自身が“Martin Luther King”と題するその課を読んで、キング牧師が生涯を黒人解放運動に捧げた偉大な人物であることを知り興味を覚えた。当時配布した授業用プリントに次のような手書きの紹介文を書いた。

Martin Luther King の名前を諸君は耳にしたことがあるだろうか。生涯を黒人解放運動に捧げた偉大なる業績を後世に伝えるため、米国会は1983年10月、その生誕を記念して、1月第3月曜日を連邦祝日とする法案を採択しました。

これほどまでに、アメリカ人の心にその足跡を刻みつけた彼はいったいどのような人

だったのだろうか。みんなで、その生涯をたどっていくことにしよう。

授業の進め方はごく一般的で、単語や構文の説明と内容に関する質問が中心であった。ただ引用された演説の部分は逐語訳した。その課を生徒たちと読み終えた後に、教科書に引用されていた“I Have A Dream”の一部をカセット・テープで聞かせた。それがキング牧師との長い付き合いの始まりだった。

二年後、やはり常勤講師をしていた二つ目の勤務校は自由な校風の学校で、講師の分際であった私にも他の英語科の教員と同じく独自の教材を扱う裁量が与えられていた。次の高校への赴任が決まっていた私は、二年間教えた生徒たちと読む最後の教材に自分自身が大いに感銘を受けた“I Have A Dream”の演説全文を選んだ。当時『新英語教育』（三友社）の読者であった私は、この雑誌を通じてキング牧師の演説が英語教材として全国的に教えられていることを知り、さっそく演説の全文が収録された『キング牧師とアメリカの夢—I Have A Dream』（三友社）のテキスト、さらに1963年夏のワシントン大行進の様子を収録したカセット・テープを手に入れた。そのテープにはジョーン・バエズの歌う“We Shall Overcome”が収録されていて、この歌と公民権運動との関係を知るに至った。初めてこの歌を歌ってから15年後に歌詞の重要性を理解したのである。

原文の解説プリントの所々に「奴隷解放宣言」「合衆国憲法」「独立宣言」の解説を配し、日本語によるキング牧師略年表を添え、演説の背景が分かるようにした。テープで演説を聴き、一語一語が表す内容を読み取り三学期の授業は終わった。その直後にあった定期試験の採点を終えた後に、生徒たちが綴った感想を読んだ。そこには新米教師であった私の心を震わせる生徒たちの率直な思いが綴られていた。当時作った試験の解答・解説のプリントを読み返していたら次のような拙文が見つかった。

最後の授業でテープを全部聞き終わったあと、みんながどんな印象を抱いたのか、なにを考えたのかを知りたかったので自由に感想を書いてもらいました。実はこの演説を教材に選んだものの、みなさんの日頃の勉強ぶりから考えて、単語や構文が少し難しいのではないかと、はたして内容が理解してもらえらるだろうかと心配していたのです。でもこの感想を読んでゆくうちにそんなことなどふきとんでしまいました。僕が予想していたよりはるかに多くの人が、このキング牧師の演説に共感をおぼえ、深く感動していたのです。彼のことがひとつひとつに怒り、悲しみ、胸を震わせているあなたたちの純粋な心には、読んでいて思わず目頭が熱くなってしまいました。僕はただ教材を提供しただけですが、本当に“I Have A Dream”をみんなと一っしょに勉強できてよかった。何年かたってもっと英語の力がついたなら、もう一度この演説を読み返したり、ダビングしたテープを聞き返してみてください。

今の私なら恥ずかしくて書けないような前書に続き、テストを受けた約90人の生徒の四人に一人の割合になる23人分の感想を2ページある解答・解説のほぼ4分の3も使って引用していた。その中の二つを紹介する。

〇さん「演説といえば堅苦しいもの（例えば中曽根さんのイメージ）と思いがちだった

ので、このたくさんの比喩を用いてかみくだくように話すスピーチは何か新しい発見をしたようです。そのおかげで単語を調べるのは大変だったけど、最後まで読み通したときはため息がでて放心状態でした。テープで聞いたときは、中ごろから終りにかけては鳥肌がたちそうでした。実際に逆境に立たされて、苦しんで、それでもあれだけのパワーがあるのはすばらしいと思います。でも自分達の存在、自由など、本当にごく当たり前のことをあれだけ声を張り上げて主張しなければならなかったのは悲しいことだと思います。今のように黒人の力を多方面で発揮できる世の中は、ごく当たり前の素晴らしい世界です。しかし、南アフリカ共和国など、まだ当り前に気付いていない国があるのは本当に残念です。」

O君「“Let freedom ring!”というフレーズがとても気に入りました。聞きながら何か知れぬうれしさがこみ上げてきました。この演説を聞いていると昔のことなのに、別の意味で今現在をも唱っているような気がしました。今の世代に足りない躍動感がすごく伝わってくるのです。演説の内容は僕よりも何万という黒人たちのほうがよくわかると思うけれども、集まった人たちの揺れ動く炎のような闘志は傍観者にもはっきりと伝わりました。—自由の鐘を今こそ打ち鳴らそうぜ！という風に。Free at last!」

質が高く内容のある教材に接する機会を与えれば、感受性の鋭い高校生は教える側が期待する以上にしっかりとその教材に反応してくれる。それが、初めてキング牧師の“*I Have A Dream*”の演説を生徒といっしょに授業で読んだときに駆け出しであった私が抱いた思いであった。何よりも生徒たちが緩ってくれた演説への熱い思いが、機会があればこの演説を別の生徒とも読んでみたいと若き日の私を鼓舞した。素晴らしい教材との幸福な出逢いがその後の教員生活の出発点となった。

IV. 個人的趣味から普遍的価値へ

個人的なことになるが、中学生だった1971年、すでに解散していたビートルズ熱に感染してしまった。やがて安物の小型蓄音機でビートルズのレコードを聴くことが日課になった。シングル盤でもLP盤でも、当時のレコードには訳詩は添えられていなかった。もちろん標準的な中学生の英語力では歌詞の意味が分かるはずもない。“Yesterday, all my troubles seemed so far away.”という一行を訳してみようと辞書を引いてみたが、一語一語の意味が繋がらず挫折したのを覚えている。

それから10年以上の歳月が流れて英語教師になってみると、英語の教科書でビートルズが教材として扱われていることを発見した。前述した二つ目の勤務校では二つの教科書を担当していた。当時使っていた教科書ではない別の教科書を読んでいたら、“Strawberry Fields Forever”と題する一課を見つけた。それはビートルズの中心的存在であったジョン・レノンの人生の物語であった。そこで、その文章に“Mother”“Julia”“Starting Over”“Imagine”の4曲の歌詞と拙訳を加えて教材を作成した。まだ自分流の教え方を持っていなかった私は、題材だけでも独自の内容を提示しようと考えたのである。幸いビートルズの楽曲の魅力にも助けられ生徒はその教材に興味を示してくれた。

それから三年後の1989年、ジョン・レノン生誕50周年の前の年に、“Strawberry

Fields Forever”の原典をすでに入手していた私は、以前に使った教材を編集しなおし再びジョン・レノンの物語を生徒たちと読むことにした。自分としてはいい教材を与えたつもりだったが一部の生徒を除いて生徒の反応は今ひとつであった。教師の個人的趣味を押しつけられてはたまらないと思われたのだろう。

その11年後、二十世紀最後の年であった2000年は、ジョン・レノン生誕60年の記念すべき年でもあった。様々な分野で二十世紀の100年が回顧され、後代に伝えるべき事件は何であったのか考える機会を私たちは得た。“Anthology”と題するCDと書籍が発売され、解散三十年にしてビートルズが二十世紀最高のロック・バンドとして脚光を浴びた。そんな時代の状況にも後押しされ、性懲りもなくビートルズを再び取り上げることを新年の誓いにした。その年に書いた研究収録を読み直していたら『ジョン・レノンの生涯—喪失の物語—二十世紀の文化遺産を伝える—』と題する拙文に以下のように記していた。

偶然にも二十世紀の終わりにアジアの片隅で英語を教えている一介の英語教師として、我が身にできることは何であるかを自らに問うてみた。答えはすぐに見つかった。考えてみるまでもなかった。ヨーロッパの片隅のリバプールの港町から出発し、イギリス、アメリカ、そして世界を席卷したビートルズのことを二十世紀の文化遺産として次代につたえること。それこそが彼らの曲を四半世紀以上にわたって聴き続けてきた私の使命であると考えた。(少し力が入りすぎか。)

かくしてプロジェクトは始まった。

その年の夏にわざわざロンドンまで出かけて教材になりそうなものを捜し歩いた。残念ながらジョン・レノンの誕生日である10月9日には早すぎたためか、これはという書籍や雑誌の特集記事が見つからなかった。残念だったが、以前に使った“Strawberry Fields Forever”の文章をほぼそのまま使うことにした。ただし“Anthology”からのジョンの発言を要所に配し1960年代当時の様子が伝わるようにした。別の教材で高校時代のボブ・グリーンの記事“Be True To Your School: A Diary of 1964”の存在を知ったのだが、もしやと思って拾い読みしてみると、ビートルズに関する記述が何度も出てきた。そこで時代の証言として、有名なビートルズのエド・サリバン・ショウ初出演の夜にテレビを観ていた高校生のボブ・グリーンが書いた日記の一部を挿入することにした。この記述を読むとビートルズのアメリカ上陸がいかに大事件であったかが実感できる。

The Beatles were on “Ed Sullivan.” They were simply the greatest thing ever to hit America. I thought I was impressed with them because of their records on the radio and their pictures in the paper, but that was nothing compared to seeing them on TV.

Before they even came on, the girls were going nuts. Then Ed Sullivan said, “And now … the Beatles!” They were standing there like they were nervous, and then Paul McCartney leaned into his microphone and started “All My Loving.” (後略)

以前に使った曲に、ジョン・レノンの先見性を伝える“Nowhere Man”を加えて教材を

再編集した。それぞれの楽曲には英国の書店で手に入れた“A Hard Day’s Write”というビートルズ・ナンバーの創作背景についての本の情報をもとに、“Behind The Song”という短文を添えた。こうして新たなテキスト“In My Life”は完成した。

二学期の後半、当時教えていた二年生の生徒たちに“In My Life”を配布して、英語Ⅱの授業で読み始めた。まずクイズ形式で年表をたどりジョン・レノンの生涯を短時間で俯瞰する。「幼年時代」「ビートルズの絶頂期」「ヨーコとの出会い」「再出発と唐突な死」と四つの時期をたどりながら、この偉大な音楽家の業績を理解させようと試みた。

期末試験で生徒に書いてもらった感想を四十二編選んで、8ページの小冊子にまとめ試験の返却時に配布した。生徒たちの感想を読みながら、改めてビートルズやジョン・レノンの魅力は時代を越えることを認識することができた。その感想集から2つを紹介する。

僕は音楽、特に洋楽は好きでよくCDを聴いたり、本を読んだりしているが、それらのミュージシャンのほとんどがビートルズに影響をうけたと言っている。とはいえ僕自身ビートルズはラジオで耳にする程度しか聴いたことがなかった。しかしIn My Lifeを通じてビートルズの歴史や状況を学んで、とても興味がわいた。そしてCDを買ってみて興味が感動に変わった。あの当時にサウンドはとてもキャッチーで今でも新鮮だった。僕はリアルタイムでビートルズをきけなかったことをうらめしく思う。そしてビートルズは偉大だと思った。

学校で、“In My Life”の冊子を作った時、ビートルズはやっぱりすごいなって思いました。学校の授業でとりあげられるとはすごいことだと思いました。母がビートルズのファンなので家で見せるとすごくよろこんで、一人で訳していました。ジョン・レノンにこんな過去があるなんて全然知らなかったです。びっくりしました。すごい深刻な過去をもっているんだなって思いました。もっとビートルズのことを知りたくなりました。

その年の暮れ、二ヶ月前に開館したジョン・レノン・ミュージアムを訪れた。その時に入手したプログラムに展示品の写真とともに、彼の生涯を辿った文章が綴られていた。その文章は日本語と英語の二ヶ国語で書かれていた。10年後のジョン・レノン生誕70年の年にビートルズの教材を編むことがあったなら、この資料を利用しようと思った。

“In My Life”を読んだ生徒たちが3年になって卒業するとき、クラスではなむけのものを贈りホーム・ルームを終えようとした。その時、「先生、待ってください！」と生徒が言って、高三でのクラスの学校生活を振り返る群唱が始まった。途中で歌が流れ始めた。生徒たちが選んだのはビートルズの“Let It Be”だった。群唱が終わるとビートルズに関連した贈り物を贈られた。20世紀の文化遺産であるビートルズの素晴らしさを多少なりとも若い世代に伝えられたことを生徒たちとの別れの日にした。思いもかけぬ展開で、私のビートルズ伝道のプロジェクトは終わった。

それから十年が過ぎた2010年に、10年間温めてきた構想を実行することにした。再び生徒たちと一っしょにジョン・レノンの生涯を辿ることにしたのだが、高校一年生でも理解できるように、上記のジョン・レノン・ミュージアムで手に入れたプログラムを素

材にしたテキストを作成しようと作業を進めた。ジョン・レノン・ミュージアムはすでに閉館になっていたの、二度とは手に入らないその文章を使い、構成は以前のテキストを踏襲しながら、本文を全面的に改訂した自主教材を作成した。

以前は日本語で確認していた理解の確認をペアによる活動にして、ジョン・レノンやビートルズのことが楽しく話せるように工夫をした。以下に第一章を読んだときに配布したプリントから、会話による理解確認の作業を紹介する。

A: Was John Lennon happy when he was a child?

B: [Yes, he was. / No, he wasn't.] His father Fred w_____ off to seas soon after John was born. His mother Julia l_____ her son with her older sister Mimi.

A: That's too bad!

B: It was Mimi and her husband who b_____ up John.

A: Did Fred and Julia appear again to look after John?

B: Yes, but they did something terrible to their small son.

A: What did they do?

B: When John was five, they told him to _____.

A: Which of them did John choose?

B: At first John chose his _____, but then he _____ after his _____.

A: What a shame! It must have deeply hurt the five-year-old boy.

空欄の部分は本文の内容を追っていけば埋められるようになっている。もちろん難しい英文は和訳し、最後にはフレーズ訳も配布して細かい部分も確認できるようにした。実のところ、平成生まれの生徒たちにとってビートルズは歴史上の人物であるが、CDで演奏を聴き、映画の一場面を見せることで、大衆音楽に空前絶後の影響を与えた彼らの業績を伝えることが出来たのではと思っている。以下生徒が書いた感想を引用する。

I have listened to the songs of the Beatles and John Lennon. But I didn't know about John Lennon's life. I was surprised that he had experienced a lot of pain in his childhood and the lyrics written by him have a lot of meanings. So I try to listen carefully to his songs from now on.

John's childhood was a great shock to me. Before reading the story, I thought that his life was the image of happiness, but in reality it was not. John had overcome a lot of troubles and become a great artist. That's why I respect him. I would like to be a good person who possesses a capacity for overcoming any obstacle like John.

V. 進化する教材、深化する理解

同じ教材を繰り返し使っていると、前回よりも少しでもよくしようという欲が出てくるのは自然な心の動きだ。年を経ることで、教える側の知識や情報が集積され、文字、映像、音声と教材を立体的に捉えられるような提示の仕方が出来るようになってくる。

例えば、キング牧師を中心とする公民権運動を扱った読解の教材を読む際、NHKで放映された『アメリカ公民権運動』と題するドキュメンタリーの一部をビデオで見せることにしている。バスに乗らずに学校や職場に歩いていく黒人たちや、逃げ惑う子供たちに向かって高圧ホースで水を放つ警官の映像は心に強く訴えかける。1998年にこの教材を読んだときに感想を書いてもらったら、二年から三年にかけてアメリカの高校に留学していたTさんは次のような文を書いた。

実は1度アメリカのU.S. historyのクラスで読んだのですが、その時はあまり何も感じませんでした。けれど、このスピーチのバックグラウンドをばっちり知ってしまうと、大変感動するものだということが分かりました。なぜアメリカの学校で読ませられるのか、分かります。(後略)

その後、“March On”と題するこの教材を読むにあたって、公民権運動における重要な事件の写真を選び出して最初に提示することにした。バスボイコット運動、バーミングハム闘争、ワシントン大行進、キング牧師暗殺などの出来事と写真を組み合わせる作業に二人一組で取り組みながら最初の1時間で公民権運動の流れをつかむ。その導入の後に公民権運動に関する文章を読むのだが、運動の只中にいた人たちの発言を要所に挿入して、生徒たちが現場感覚を持てるように工夫をした。

1993年、ワシントン大行進30周年を祝して“March On”と題するCDが製作された。公民権運動の最中に歌われた“We Shall Overcome”“Ain't Gonna Let Nobody Turn Me Around”などの伝承歌のほか、新たに創作された曲も含まれている。最後の曲は“Martin”と題する歌である。公民権運動について学び、“I Have A Dream”の演説の内容を理解し、キング牧師の死の前日の演説の映像を見て、こちらが伝えたいことをすべて提示した後、何時間も費やしたこの教材の読解の締めくくりに“Martin”をかける。今となってはほぼ入手不可能であるこの歌の歌詞の一部を紹介する。

Martin, you were a soldier
In army of justice
Leading a battle we all had to win
Where a man is judged
On character and deeds
And not on his color of skin

We all love you, Martin
It was you who made us see
That our nation could never be strong
Until all our people are free

キング牧師の偉業を讃えるこの曲の途中で、“I Have A Dream”の演説より、‘From every mountainside, let freedom ring.’から‘Thank, God Almighty. We are free at last!’の部

分が引用される。そして“Good God Almighty. We are free at last!”と黒人たちの力強い合唱でこの歌が終わると、語りが流れる。

On some not distant yesterday, Martin walked away from the hall of academia, he stepped down from the pulpit, and marched his way to glory. Through his words we come to realize our part in this, and realize how much remains for us to do today.

We must march on.

“We Shall Overcome”から始まって、公民権運動の歴史を文章と映像でたどり、そのクライマックスとしてワシントン大行進でのキング牧師の演説を聴く。そして彼の死の前日のメンフィスでの演説の映像を見てから、偉大なる指導者の死に寄せられた賛辞を読み、最後に“Martin”を聴くという形が固まったのはこの教材を扱って4回目のときだった。

その年は順調に授業が進み、二学期の期末試験前の授業でこの曲をかけ、歌詞に込められた黒人たちの思いを生徒たちに伝えた。曲が終わってから数秒の間、水を打ったように教室が静まり返ったことを覚えている。教室にいる一人一人の生徒たちの心に去来するのはどんな思いや考えだったのだろう。将来の自己実現のために受験勉強の最中にある三年生の生徒たちが何を感じたのか。高校三年間の最後の定期試験で書いてもらった感想を二つ紹介する。

この時代の黒人たちは非常に積極的で、精神力の強い人たちだったと思う。そして、自由と平等を求める姿勢は、奴隷として人間以下の扱いをされていたにも関わらず、当時の人種差別主義者の白人や現在の我々よりもずっと人間らしいと思う。30年たった現在の我々はこの黒人たちがもつめた人間らしさの絶え間ない追求という精神を忘れてしまっていないか。

私は中学のときにI have a dreamの一部を習ったがその時はさして何も思わなかった。しかし、今この演説を聞いているとキング牧師が真剣に黒人の解放を訴え、その場にいる人たちが賛成しているのを知っていると鳥はだが立つほどの感動を覚えた。

この時代よりはるかによくなったとはいえ今でも黒人に対する差別意識は残っていると思う。その意識が消えすべての人は平等であるということがだれの心にも当然のことになるまで、この演説とキング牧師の生涯は語りつがれなくてはならないと思った。

二人の生徒が綴っているように、ワシントン大行進の集会におけるキング牧師の演説を聞くと、指導者の語りと参加者の反応が一体となって当時の黒人たちの熱い思いが心の奥にまで達し、別の時代を別の国で生きている私たちの魂を揺さぶる。“I Have A Dream”の演説を聞くことはまれにしか経験しえない私たちの心におけるひとつの事件である。この年に卒業した生徒たちが書いてくれた感想は心の中で起った事件を率直に綴ったものが多かったので、12ページの冊子にして試験後に配布した。その冊子に綴られた文章は、十代の多感な生徒たちがキング牧師のことばを真正面から受けとめ、自由の尊さや人権の重さについて深く考えたことを伝えていた。

それから十五年後、2012年4月の終わりから5月にかけて、生徒たちの付き添いで

アメリカ合衆国を訪れた。そして、生まれて初めて深南部の地に足を踏み入れた。アトランタ空港内で黒人の人たちが様々な職種に就いて働いているのを目にして感慨深かった。旅行中の訪問地にアーカンソー州のリトルロックが含まれていて、リトルロック・ナインに関する資料を手に入れることができた。帰国前に訪問したワシントンでは、キング牧師の記念碑が2011年に建立されていることを知った。忙しさに紛れてそんな重要な情報を逃していた自分の不勉強を反省した。しかしながら、米国での経験に触発されたこともあって、改めて今教えている高校三年生に、キング牧師が苦しい状況の中で描いた理想や、公民権運動が私たちに教えてくれるものを伝えたいという思いが深まった。そして“March On”を編集しなおして—もちろん新たにリトルロック・ナインのことを扱った一章 A Little Rock of Hope を付け加えた—再利用することにした。

演説の背景である公民権運動については、主として英問英答によるペアワークと日本語の設問を組み合わせた情報読みの活動を行なった。同じ題材を扱ってはいるが、いかにして生徒を自発的に活動に取り組みせるか、その方法は教える経験を重ねることにより改善される。理解の確認のために英問英答をする場合、教師対生徒の1対40よりも、生徒同士の20対20のほうが、生徒たちが英語を発する機会は明らかに多いので、最近ではペアで取り組みせるようにしている。キング牧師の演説自体は逐語訳による精読により理解を確認したが、英語そのものの難しさから考えるとこの方法が妥当である。そして、この学年は音読を一年生のときからずっと続けてきていたこともあって、演説の重ね読み(Overlapping)をさせた。授業では逐語訳による内容確認の後に、復習用の音読プリントを配布し英語のリズムを意識しながら練習をするようにした。以下その一部を抜粋する。

I have a dream my four little children will one day live in a nation where they will not be judged by the color of their skin, but by the content of their character. I have a dream today.

文中で強く読む部分を視覚化することにより強弱が意識できる。強弱がつくと英語特有のリズムが自ずと保持できて、話し手が伝えたいことを強調して読める。キング牧師の演説の特徴として同じ表現の繰り返しが多用されるが、耳だけで聞いているより声に出して読むほうがその特徴が実感できる。同じくキング牧師の演説の特徴である比喻表現を意識させると、実際にその表現(例えば“the police brutality”)を聴衆が聞いて何を思い浮かべていたのかが想像できる。同じ題材を繰り返し扱っていると、教材研究が積み重ねられて教え方を工夫できるものである。

現在教えている三年生にも“*I Have A Dream*”の演説を聴き、そして読んだことで、どんなことを考えたかを書いてもらった。また、別の角度からの分析として印象に残った語句について書いてもいいことにした。高三の二学期の後半とえば、受験勉強に忙しい時期であるにもかかわらず、生徒は授業を受けて思ったこと、考えさせられたことを多くの字数を使って書いてくれた。生徒たちの作品からいいものを選び15ページの冊子にして試験返却時に配布した。以下にその一部を引用する。

“*I have a dream*”というこれだけ単純でわかりやすい英文であるのに、これが国中、

世界中をひっくり返すことになった演説であるとは読んでみるまで知らない人はわかりえるものではないと思いました。すでにできあがってしまった社会の風潮や風習をなくすというのは考えるだけでもとてつもないことです。私たちの生活で言うと「脱原発」を政府ではなく、たった一人の市民がかかげて民衆からの支持を得て成しとげるくらい当時はまさしく奇跡的なできごとだったのだろうと、この文章を読んだときに感じ、それと同時に人と人がつながっていくということは時にどんな奇跡や偶然を生み出すかわからないものだと思います。

When I read the speech of “I have a dream” before, I couldn’t understand what Dr. King wanted to say because I didn’t know the civil rights movements so much. But, now, I know what the movements are. It seems that there’re all of the Negro’s dream and hope, and Dr. King’s spirit. I remembered through reading his speech that there still is discrimination and racial opposition in the world. I have a dream now that one day I’ll be able to hear the bells of freedom and justice ringing all over the world.

We shall overcome. 我らは打ち勝つ。

これは I Have A Dream のスピーチの中には出てこなかったですが、この物語の中で、僕の心の中に最も強く印象が残った言葉です。いろいろな見方が有ると思いますが、僕は We はアメリカ人全員を表わしていて、overcome はみんなで差別に打ち勝とう、という意味だと思います。黒人だけでなく、白人も一緒に、みんなで差別に打ち勝とう、非常に分かりやすく、また短いワードで表わされた、彼らのテーマだと思います。

その冊子の 16 ページ目に私は「編集後記」として以上のような文章を書き、文化伝達者である自分の思いを生徒に伝えようとした。

55 期生と最後に読む教材の作成にあたって、かつて作った資料を改めて編集しなおそうと、分かりやすい英語で書かれたキング牧師の伝記を二冊読み、日本語の書籍も何冊か紐解いた。おそらくアメリカに行ったことに触発されたのだろう。今まで扱ったことのなかったリトルロックでの事件まで取り上げたこともあって、これまでで最も詳しい March On の教材が出来上がった。その冊子を生徒たちとともに 14 回の授業で読み進めた。すべてを読み終わった今、キング牧師の生き方、そして公民権運動について何人かの生徒は興味をもってくれたらだろうか。もしそうであるならば、その気持ちを忘れず、いつの日か自らキング牧師や公民権運動について詳しく調べてくれればいいと思う。それが学ぶことの本来の姿であるから。

2015年、ワシントンD.C.にあるスミソニアン協会の一部として全米アフリカ系アメリカ人歴史文化博物館が開館する予定だ。数年後にはその博物館を訪れて公民権運動についての理解をさらに深めること、そして、この春の訪問ではその存在を事前に知らなかったがために叶わなかったキング牧師の記念碑を仰ぎ見ること、それが現在の私のささやかな望みである。石像に刻まれている “Out of the mountain of despair a stone

of hope”の文字を、この目で確かめるのが今から楽しみだ。その時、きっと彼の力強い声が聞こえてくることだろう。

VI. 新しい教材への取り組み

キング牧師の演説が「人権の重さ」を、ジョン・レノンの伝記が「芸術家の苦悩」を伝えるのなら、20世紀のもう一つの課題である「環境問題」を扱った教材が作れないものかと考えた。その時に思い出したのが教科書でベアトリス・ポターの生涯について読んだとき、補助教材として扱ったピーター・ラビットのビデオについていた特典映像のことだった。幸いにも補助教材を作るため映像に添えられた語りを文字に起して、当時本校に勤務していたブレンダ・マクラクリンさんにチェックしてもらった文章が残っていた。

視聴覚機器の発達により、私が教員になった頃に比べて教室で映像を流すことがはるかに容易になった。2008年、『ミス・ポター』が上映された年に、ピーター・ラビットのアニメーションをDVDで手に入れた私は、是非ともこれを教材化しようと思った。若い頃の自分であれば、おそらく音声だけを流して、「これこそが英国式発音です！」と悦に入り終わっていたことだろう。しかし公民権運動の教材を読んだ時の経験から映像の力を知っていたので、湖水地方の美しい自然を是非生徒たちに見せたいと思った。

ちょうどその時期に、幸運にもFOOTPRINT READING LIBRARYと題するDVDを書店で見つけた。ナショナル・ジオグラフィックの映像を使ったその教材のパッケージに次のような謳い文句が書かれていた。

The Footprint Reading Library is the first non-fiction reading series for English language learners to present captivating real-world stories in print, audio, and video.

DVDと同じ棚には写真や絵の美しい小冊子が何十冊も並んでいた。その中の十数冊分のテキストの内容が一枚のDVDに集録されている。文字で読んだものを、耳で理解し、映像を見ながら楽しむというのがこのシリーズの特徴である。これこそ私が長らく抱き続けていた理想的な教材の姿であった。このDVDのパッケージに謳われているように、READ-LISTEN-WATCHと、同じ教材を形を変えて「再利用」することで、生徒たちが音声による英語の理解という目標を達成できると考えた。

そこでこのFOOTPRINT READING LIBRARYに倣い、映像付きの教材を編むことにした。作家として世に出る前のベアトリス・ポターが自分のかつての乳母の息子のノエル君に送った手書きのピーター・ラビットの物語の書き出しを1ページ目に配した。筆記体を知らない近頃の生徒にとってその文字は何と書かれているかを判別するだけでも難しいのだが、かえって集中力を引き出し物語の世界への格好の導入になる。年表に続いて、先に述べた語りを文字化した英文を配し、ナショナル・トラストと湖水地方のホーム・ページからの情報を付け加えた。(ホーム・ページによる情報もこの10年ほどにとっても使いやすくなった。)“BEATRIX POTTER AND THE LAKE DISTRICT: INSPIRATION AND CREATION”と題した12ページの自主教材が完成した。その冊子を教材として使った授業では、映像を流しながら語りを文字に起したテキストを読み進めていった。

美しい湖水地方の風景、愛らしい動物たちの動作、素朴な田舎の町の家並み、湖水地方

の丘陵の映像が流れる。さらにどこかで目にしたことがあるピーター・ラビットの物語の小動物たちが登場する。白黒のベアトリクス・ポッターの写真が映し出され、彼女と湖水地方の関わりが紹介される。この一連の映像に重なり次のような語りが流れる。

This beautiful countryside is in the English Lake District, where Beatrix Potter lived for nearly forty years. This was the setting and inspiration for most of her tales and the background for the story you've just been watching.

Tucked away among these hills and valleys is a little village called Near Sawrey and it was here among the lanes and farm yards and houses that Beatrix Potter's famous animal characters lived. Characters like Peter Rabbit and Benjamin Bunny, Jemima Puddle-duck, Tom Kitten, Pigling Bland and rather less welcome ones, too, like Samuel Whisker and Ana Maria.

Beatrix first visited the Lake District more than one hundred years ago when she was sixteen years old and she and her brother explored every inch of the countryside. She fell in love with it and made up her mind to live here one day.

初めて使ったこの教材は、英文を読んでその内容を理解し、復習用にそれを会話の形に書き換えて練習するところまでしか出来なかった。当初は映像と音声だけで話の内容を理解できるまで繰り返し英語を音読し、仕上げの活動として映像を見ながら生徒自身が語り手の役割を務めるのが目標だったが、授業時間の関係でそこまでに至らなかった。しかし、10年以上前に書き起こした「語り」だけから、二度目は「語り+映像」まで教材を進化させることができた。もう一度この教材を取り上げることがあったなら、自然な音読にまで生徒の活動を引き上げる工夫をしようと考えている。ただ、映像を付け加えたおかげで、湖水地方のことを知らなかった多くの生徒は、DVDを見たときの印象も含めて感想を書いてくれた。代表的なものをひとつ紹介する。

I knew about the characters of Peter Rabbit shown in books and various items, but I didn't know about Beatrix Potter, who wrote Peter Rabbit, and her biography at all. I think nobody loves animals and nature better than Beatrix Potter. I was very moved to understand how much she devoted herself to the protection of the environment. I was very relaxed to watch the Lake District and her places relating to Miss Potter in England on DVD, so I really want to visit the places in the future. If I can visit them, I'm sure that I will have the same emotion as Beatrix Potter.

VII. 伝えるべき観智を求めて

昨年度に高2の生徒を担当したとき、塾通いで問題演習に忙しい生徒たちにもっと幅広い学習をして欲しく思い、拙文を書き綴った英語通信 The Circle Game を発行することにした。その通信の記事で二年ほど前から観ているテレビ番組で流れる英文を毎号紹介している。その短い文章の書き手であるベニシア・スタンレー・スミスさんについて、英語通信第一号でこう紹介した。

京都の大原に暮らす英国人ベニシア・スタンレー・スミスは英国貴族の末裔である。

19歳のとき貴族社会に疑問を抱き、インドへと旅に出る。さらに東へと足を延ばし1971年に鹿児島に到着する。東京を経て京都にたどり着いたベニシアは古の街に居を構え、英会話を教えながら生計をたてた。1996年、来日して四半世紀が過ぎたとき、大原で築百年の古民家に出会う。その家を見た瞬間「ここで何か新しいことが始められそうだ!」と直感する。そしてベニシアさんの田舎暮らしが始まった。

NHKのBSで放映されている『猫のしっぽ カエルの手』はベニシアさんの大原での四季の暮らしや地元の人たちとの交遊を伝えてくれるお勧めの番組だ。番組中に本人によって語られるエッセイが実にいい。季節の描写や日々の印象が名文とよぶべき英文で綴られ、英国式の端正な発音で朗読される。

彼女の綴る文章は決して難しくはない。ある程度英語を学んだ人なら辞書を何度も引かなくともおおよそ理解できる程度の英文である。にもかかわらず、その簡潔な英文は人が「よりよく生きて」ゆくための真理を含んでいる。ベニシアさんの穏やかな語りが心に染みるのだ。そのことばはただ文型や単語を習得するために並べられた短文とは対極にある。

以下、英語通信第三号に掲載した英文を引用する。

Difficulties can make you a jewel

Life is like the moon: It waxes and wanes.

We never know, on our journey of life,
what lies around the corner.

An unexpected event may happen,
or we may suddenly lose someone we dearly love.

Slowly we learn to accept life as it comes.

We realise that it is our choice, not chance,
that in the end determines our destiny.

Through perseverance and patience, our life unfolds,
and we learn to enjoy each moment.

If our heart is tranquil,
we begin to realise
that the beauty of this life lies in the simple things
like the wind blowing through our hair,
a baby's smile,
or a butterfly landing on a beautiful flower.

Happiness depends on ourselves.

インターネットの時代になって、英語の情報が容易に入手できるようになった。しかし、その余りにも便利な状況に喜んでばかりはいられまい。「情報の洪水」から距離をとって、訪れる人も少ない場所に流れる「叡智の小川」から清水を汲み取り、日々成長する若い心を潤すこと。それは今後ますます重要になる教師としての務めである。

Ⅷ. 「大いなる遺産」

2013年度から新学習指導要領が施行され新たな教科が始まる。それに伴って教科書も一新された。必然的な結果として、以前から扱われてきた題材はほぼ絶滅した。そもそも「リーディング」という独立した科目が消滅した。今後、文化財である英語の優れた文章を読解教材として継続的に提示する機会をどうして設ければよいのだろう。

本稿で詳しく触れることはできなかったが、三十年間英語を教えてきて、別の生徒たちにまた教えたいと思った教材はいくらでもある。「生」と「死」について考えさせられる“Tuesdays with Morrie”、季節の巡りとともに生きることを意味を教えてくれる“THE FALL OF FREDDIE THE LEAF -A Story of Life for All ages”、化学薬品により植生を管理できると考えた尊大な人類に警鐘を鳴らす“Silent Spring”、「友情」の大切さについて具体的に説いた“Letters of a Businessman to his son”の一節。「若さ」と「老い」について私たちの固定観念を揺さぶるサミュエル・ウルマンの“*Youth*”。そういえば、チャールズ・ディケンズの有名な“A Christmas Carol”に、易しい英語で書き換えられた児童用のものがあって、高一の二学期後半に多読用の読み物として三度も使ったことを思い出した。おそらくは英国人の俳優による素晴らしい音読が付いていて、話の展開にワクワクしながら読み進める。物語を読む楽しさを与えてくれる再利用すべき教材である。

生徒の学力や、年齢に応じて提示できる読解教材は、いずれもが再読に耐える題材である。深い思考の後に生まれた一文の積み重ねが伝える内容は、時を経ても色褪せることはない。その言葉の連なりは心に刻まれ、後の人生の指針となるべき真理を含んでいる。幸いにも私自身は、心に残る読解教材を生徒として学び、教師として生徒に提示するという貴重な知的営為を経験することに間に合った。三十年前に発行された“A Tale of Two Cities”の読本を自分が読んだように、時の試練に耐えて長らく英語学習者が読める読解教材はいくらでもある。国語の教科書のように幾編かの定番教材を後世に残すためには、すでに紹介した『高校生のための英語読本』のような一冊が編まれねばならないだろう。

書店に行けば、目を疑うほどの数の英語の参考書や問題集が並んでいる。しかし、ある程度の英語力を獲得した英語学習者にとって必要なもの、取り組むべきものは、きちんとした中身があって読み応えのある読解教材ではなかろうか。公に出版されたものがないのであれば、自分自身が読ませたいと思う題材を再編集して利用していきたい。

高三の授業で必修教材としているキング牧師を扱った自主教材“*March On*”は“*We Shall Overcome*”の歌詞で始まる。昨年の春、ワシントンで自然史博物館の売店に立ち寄ったときに音楽のCDが売られているのを発見した。何とそのうちの2枚“CLASSIC FOLK MUSIC”“CLASSIC PROTEST SONGS”に“*We Shall Overcome*”が収録されていた。約半年の後、ワシントン大行進でジョン・バエズが歌ったその歌を“*March On*”の授業の初

めにかけて。歌うのはビート・シーガーとともにこの労働歌を採譜し新たに歌詞をつけた
ガイ・キャラワンである。CDプレーヤーで歌を流しながら、“We shall overcome. We shall
overcome. We shall overcome someday …”と私は生徒の前で声に出して歌った。「誰」が「何」
に打ち勝とうとしていたのかを生徒たちはその後の授業を通して理解してゆく。14歳の自
分はM先生に教えていただいた歌を、教壇に立つ身となって英語を教えてきた自分が四十年
後の今、若い世代に伝えている。その行為は文化伝達者としての教師の役割にほかならない。
もしこの歌が自分ではない別の誰かを介してさらに次の世代の若者に伝わるなら、それは一
つの「伝統」になるだろう。その縦の糸の一本となって「人」と「文化」の仲立ちをすること
は、教えることを生業とする者にとって大いなる幸福である。

IX. 一粒の種子から

卒業した生徒から時折便りが届くことがある。その中に、少数ではあるが高3のときの公
民権運動に触れたものがある。多感な時期に習った優れた教材は、時が流れても深く心に残っ
て、何かのきっかけがあれば思い出すものである。彼らの綴ることばはそのことを改めて教
えてくれる。卒業生からの三通の便りを紹介してこの稿を終えたい。

(前略) それともし先生が高3を教えることがおありなら、‘I have a dream’をぜひ扱っ
て下さい。今でも、テープを開いて読んだり、ふと口にしたりしています。そういうこ
と、大切にしたいです。(1994年度の卒業生から、翌夏に一通の便りが届いた。彼
女には演説のテープのダビングを依頼され、高3のときに渡していた。)

公民権運動の冊子を送って頂いてありがとうございました。興味深く読ませて頂きまし
た。思えば、高校生のころ、先生のクラスでキング牧師の“I have a dream”の演説を習っ
たことは、僕が記者になったことに深く影響していると思います。

(公民権運動に関心があった1990年度の卒業生に、1994年度に作成した自主教
材“March On”を翌年に送った。彼は就職して記者になったばかりであり、知人宛に
印刷された就職の通知の文面に、上記の文が添えられていた。)

昨年は米大統領選のおかげで思いがけずキング牧師の“I have a dream”に触れる機会が
ありました。高3のプリント(横浜に持ってきてます)を繙きました。本当に素晴らしい
演説ですね。それを教えて頂いた事に改めて感謝します。

(1994年度の卒業生より届いた2009年の年賀状の文面。十五年の歳月が過ぎて
もキング牧師が演説に込めた思いは心に残っている。科学者として英語で発表する機会
が多い彼は、キング牧師の演説が自分の口頭発表の原点であると語った。)

<参考文献>

- The KAITAKUSHA EXTENSIVE READING SERIES "A Tale of Two Cities" (1936)
Charles Dickens "A Tale of Two Cities" Everyman's Library (1906)
"I Have A Dream—The speech and writing that changed the world"
Harper Collins (1992)
"The Autobiography of Martin Luther King, Jr." Abacus (1998)
Sharon Harley, Stephen Middleton, Charlotte M. Stokes
"The African American Experience—A history" Globe Book Company (1992)
Amy Pastan "Martin Luther King, Jr. -A photographic story of life"
DK Publishing Inc. (2004)
Alice Fleming "Martin Luther King, Jr.—A Dream of Hope" STERLING (2008)
- Vic Barbarni, Brain Cullman, Barbara Grausrak
"Strawberry Fields Forever: John Lennon Remembered" (Bantam Book) (1980)
Andrew Solt and Sam Egan "IMAGINE—JOHN LENNON" Macmillan (1988)
Steve Turner "A HARD DAY'S WRITE—The Story Behind Every Beatles' Song" Carlton (1995)
Bob Greene "To True To Your School—A Diary of 1964" (1988)
- Beatrix Potter "The Tale of Peter Rabbit" Frederick Warne (1902)
Camilla Hallinan "The Ultimate Peter Rabbit: A Visual Guide to the World of Beatrix Potter"
DK Publishing (2002)
"The World of Peter Rabbit and Beatrix Potter" Frederick Warne (2005)
- 『キング牧師とアメリカの夢』 三友社 (1984)
本田創三『アメリカ黒人の歴史 新版』 岩波書店 (1991)
辻内鏡人・中條献『キング牧師—人種の平等と人間愛を求めて』岩波新書 (1993)
猿谷要『キング牧師とその時代』 日本放送協会 (1994)
大阪教育大学附属天王寺中・高 研究集録第40集
伊藤洋一『キング牧師と公民権運動が語りかけるもの—心に残る教材の作成』(1995)
寺島隆吉『キングで学ぶ英語のリズム』 あすなろ社 (1997)
CNN English Express 編集部編 [対訳]『オバマ演説集』 朝日出版社 (2008)
猿谷要『アメリカ黒人解放史』 ニュース社 (2009)
パップ・ンディアイ『アメリカ黒人の歴史』 明石紀雄監修・遠藤ゆかり訳 創元社 (2010)
ジェームズ・M・バーダーマン『アメリカ黒人の歴史』 森本豊富訳 日本放送協会 (2011)
梶原壽『マーチン・ルーサー・キング—共生社会を求めた牧師』
日本キリスト教団出版局 (2012)
小川洋司『深い河のあなたへ—黒人霊歌とその背景』 音楽之友社 (2001)
ジェームズ・M・バーダーマン『ロックを生んだアメリカ南部—ルーツミュージックの文化的背景』 日本放送協会 (2006)
大村数一・寺地五一編著『アメリカ一日一言』 ジャパンブックス (2012)

ジョン・レノン・ミュージアム・プログラム 大成建設株式会社 (2000)

広田寛治『ビートルズ学入門』新潮社 (2000)

大阪教育大学附属天王寺中・高 研究集録第43集

伊藤洋一『ジョン・レノンの生涯—喪失の物語—二十世紀の文化遺産を伝える』(2001)

ベニシア・スタンリー・スミス『ベニシアの京都里山暮らし』梶山正訳 世界文化社 (2009)

ベニシア・スタンリー・スミス『ベニシアの京都里山日記』梶山正訳 世界文化社 (2009)

ベニシア・スタンリー・スミス『猫のしっぽ カエルの手 (春・夏編)』世界文化社 (2010)

ベニシア・スタンリー・スミス『猫のしっぽ カエルの手 (秋・冬編)』世界文化社 (2010)

ダグラス・ラミス『高校生のための英語読本—鏡としての外国語』筑摩書房 (1994)

斎藤兆史『英語達人塾』中央公論新社 (2003)

本稿は平成23年度全附連高等学校部会第53回教育研究大会の発表原稿に修正、加筆したものである。

Recycling of teaching materials

ITO Yoichi

Abstract

This paper is a record of my teaching career as what should be called a messenger who passes down cultures in the English speaking countries to next generations. I do realize that one of the purposes of teaching English is to promote students to learn to use English without difficulty, whereas it is also important to offer teaching materials to them in order to have opportunities to know cultural aspects of the language.

When I was a high school student, I had an enlightening experience of reading a good story written in English. Since I started teaching English nearly forty years ago, I have been working on some original reading materials for younger generations to appreciate. Quite a few students of mine have appreciated these materials, from which they have got some inspiration.

Hopefully a good reader will be edited and published with teaching materials like the ones which I have recycled so that generations to come will have chances to know remarkable cultural heritages of the English language.

Key Words: English language teaching, reading, cultural heritages

平成 24 年度 教科・個人研究テーマ一覧表

国語科	「読み」の力を育てる授業	廣瀬 明浩	中高生の化学分野の実験指導について
内澤 美由希	学び合いを導入した「読み」の力を育てる授業	細谷 智美	数字を用いた理科の概念の強化法
琢磨 昌一	表現を読解に生かす授業の工夫	松永 茂	中高生の化学分野の実験指導について
中野 信行	「言語事項」の学習指導と「読み」の力を育てる授業の相関	森中 敏行	生物多様性に関する教材開発
藤本 一栄	作品世界の背景をふまえた読み	保健体育科	多様なアプローチによる指導法の開発と実践
宮川 康	大阪の近代文学の教材化	今井 みゆき	運動場面におけるコミュニケーション活動を重視した指導法の研究
山川 美和	語彙力を高め「読み」の力を育てる授業	鎌田 剛史	IT 機器を活用した授業について
山根 雅子	古典教材と自分をつなぐ「読み」の力を育てる	高井 千晶	体育授業におけるスポーツオノマトベ教示の有効性について
社会科	社会科における「リテラシー」の探究	武井 浩平	体育授業にアダプテッドスポーツを取り入れる試み
生川 年雄	歴史認識を深める	松田 光弘	運動有能感を高める教師の関わり方について
射手矢 明	時代を大観する授業の構築	音楽科	幅広い音楽体験を通し、技術の向上と愛好する心情を養う
浦崎 裕太	実体験と結びつける授業の開発	藤原 優美	感性と知識を結びつけ、表現する技術を身に付ける
川地 秀治	現代社会を生きる生徒を育む授業	美術科	多様な表現と鑑賞を通したオリジナリティの追求
甲山 和美	市民教育としての「政治・経済」-「倫理」の連携	首藤 友子	コンセプトのある表現活動と視点を考える鑑賞教育
笹川 裕史	“身体”を意識させる歴史の授業	技術・家庭科	新指導要領をふまえた実践
住田 訓平	視聴覚教材を用いた思考型授業の作成	上田 学	新指導要領に基づいた、生物育成領域の教材開発
数学科	活用力を育てる授業 / 基礎・基本の徹底と学習意欲の向上	古川 ルミ	食育教育の観点から行事食について
荻木 聡	教科書の比較考察と教材開発の視点	英語科	音声を核にして四領域を統合した活動をめざす授業
岩瀬 謙一	結び目の数学の教材化-教育実践を通しての体系化-	浅田 英美	音読・暗唱活動による英語運用能力育成
大石 明德	もの作り数学の構築	伊藤 洋一	リーディングの授業を活性化するための工夫
河野 大	グラフ関数電卓を活用した実践研究	梶 里野	思考し表現する力を育成するライティング授業のあり方 -英文構成法の指導を中心に-
澤田 耕治	数学オリンピック予選合格に向けての指導	寺井 由美子	表現力、発信力を育成する授業の創造
竹歳 賢一	プログラム電卓を活用した教材開発	永田 忍	アウトプットを促すコミュニケーション活動づくり
松山 克則	数学的な考え方の養成	野山 直紀	生徒自らの発想力に基づいた英語表現を目指す指導
吉村 昇	数学的モデリング教材の開発	日根野 敬也	モニターする力を伸ばすライティングの授業
理科	課題研究に対する評価システムの構築	前枝 弘樹	いかに生徒に発話の量と質を上げるか
井上 広文	物理授業における表現力向上にむけた取り組み	養護科	中高一貫における生徒の健康意識
井村 有里	データの読解力を高める授業展開	甲斐 真奈美	学校安全と危機管理について (こころのケアも含めて)
久留飛 航平	原子の粒子概念理解のための定量実験を用いた授業展開	升谷 田津子	
原田 英光	OTC 医薬品を利用した教材開発		

あとがき

1. 2012年度の動向

本校がスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けて、4年目が終わろうとしている。プログラム開発の成果を生徒全員に還元するため、ブルーFを「総合的な学習の時間」に一年生全員に履修させることとした。内容もそれにふさわしく作り直している。その他のプログラムも順調に実施している。来年は指定期間の最終年度であるため、今後の計画を早急にまとめる時期に来ている。

本年度の教育研究会は2月初旬に社会、理科、英語、情報、道徳の五教科で実施した。以前より時期を早めて、他の中学校や高等学校の入学試験業務の時期と重ならないようにしたこともあり、多くの参会者を集めた。校内授業研究会については、これまでの総括をした上で、一部形式を変更し一学期に実施するよう前年度の研究部から引き継がれたが、短期間で準備ができず、二学期には日程の調整がつかなかったため、本年度は実施を見送ることになった。

2. 第59回教育研究会に関して

開催日：2013年2月2日（土）

参会者：220名

全体テーマ：「チャンスとチャレンジのカリキュラム2012」

発表教科の概要

社会・地歴科

研究主題 時代が見える歴史の授業

授業Ⅰ 中1 事件と思いでつながる古代の日本

射手矢 明

授業Ⅱ 高Ⅱ フランス革命期の「身体」

笹川 裕史

指導講師 花園大学文学部教授

奥山 研司 先生

発表者 本校教諭

射手矢 明

発表者 本校教諭

笹川 裕史

司 会 本校教諭

住田 訓平

理科

研究主題 言語活動を通じた科学的思考の育成

授業Ⅰ 中3 熱機関の教材化

廣瀬 明浩

授業Ⅱ 高Ⅰ 概念の理解と定着における言語活動の役割

井上 広文

指導講師 大阪教育大学特任准教授

仲矢 史雄 先生

発表者 本校指導教諭

廣瀬 明浩

発表者 本校主幹教諭

井上 広文

司 会 大阪教育大学附属高等学校池田校舎教諭

筒井 和幸 先生

英語科

研究主題 音声を核にして四領域を統合した活動をめざす授業

授業Ⅰ 中2 Reading から情報発信力を促す授業

永田 忍

授業Ⅱ 高Ⅰ intake reading による grammaticality の涵養

浅田 美美

指導講師 筑波大学教授

卯城 祐司 先生

発表者 本校教諭

永田 忍

発表者 本校教諭

浅田 美美

司 会 本校教諭

日根野 敬也

情報科

研究主題 コンピュータによる現実世界の問題解決(Ⅰ)

授業Ⅰ 高Ⅰ 空気遠近法で連山を描こう

大石 明德

授業Ⅱ ワークショップ

「課題解決方式による BASIC programming の学習」

大石 明德

指導講師 京都教育大学教授

渡邊 伸樹 先生

発表者 本校教諭

大石 明德

司 会 本校教諭

大石 明德

道徳

研究主題 道徳的価値の自覚に焦点をあてた授業づくり

授業Ⅰ 中3 道徳的価値を深める発問をねらった授業

吉村 昇

授業Ⅱ ワークショップ 「道徳授業の発問づくり」

荊木 聡

研究協議 ～自己認識における課題と発問～

指導講評・部会講演

演 題 「道徳的価値の自覚をめざす授業づくり」

講 師 兵庫教育大学教授

谷田 増幸 先生

講演

「子どもに聴く」

京都市教育委員会 指導部長

京都市教育相談総合センター(パトナ) 所長

柴原 弘志 先生

研究集録 第55集

平成25年3月 25 日印刷

平成25年3月 28 日発行

編集発行者 大阪市天王寺区南河堀町4-88
大阪教育大学附属天王寺中学校
大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎
代表者 宇野 勝博

印刷所 株式会社 ヒカリプランニング